

平成23年度業務実績報告書

平成24年6月
独立行政法人国立美術館

目 次

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	
1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開	
(1) 多様な鑑賞機会の提供	3
① 所蔵作品展	3
② 企画展	4
③ 巡回展	7
④ 東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等	8
(2) 美術創造活動の活性化の推進	10
① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）	10
② 新しい芸術表現への取組み	10
(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上	12
① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等	12
② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実	14
(4) 国民の美的感性の育成	16
① 幅広い学習機会の提供	16
② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業	19
③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動	21
(5) 調査研究成果の美術館活動への反映	22
① 調査研究一覧	22
② 展覧会カタログの執筆	26
③ 研究紀要の執筆	29
④ 館ニュース等の執筆	30
(6) 快適な観覧環境の提供	33
① 高齢者、身体障害者、外国人等への対応	33
② 展示、解説の工夫と音声ガイドの導入	34
③ 入場料金、開館時間等の弾力化	35
④ キャンパスメンバーズ制度の実施	37
⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実	37
2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承	
(1) 美術作品の収集	38
(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等	40
① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応	40
② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実	41
(3) 所蔵作品の修理・修復	42
(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究	43
3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	
(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信	46
① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信	46
② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催	56
(2) 国内外の美術館等との連携	58
① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築	58
② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力	60
(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換	61
(4) 所蔵作品の貸与等	62
(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動	64
① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施	64
② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発	65
(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成	65
(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築	65

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究	65
② キュレーター研修	67
(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動	68
① 国際フィルム・アーカイブ連盟（F I A F）の正会員としての活動	68
② 日本映画情報システムの運営	68
③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充	68
④ 映画関係団体等との連携	68
⑤ フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討	69
II 業務運営の効率化	
1 業務の効率化のための取り組み	70
(1) 各美術館の共通的な事務の一元化	70
(2) 使用資源の削減	70
(3) 美術館施設の利用推進	73
(4) 民間委託の推進	73
(5) 競争入札の推進	74
2 事業評価及び職員の研修等	74
3 管理情報の安全性向上	75
4 人件費の抑制，給与体系の見直し	75
III 予算（人件費の見積もりを含む），収支計画及び資金計画	
1 予算	77
2 収支計画	77
3 資金計画	78
4 貸借対照表	79
5 短期借入金	80
6 重要な財産の処分等	80
7 剰余金	80
8 人事に関する計画	80
9 施設整備に関する計画	82
10 関連公益法人	82

(別紙1) 公益調達の適正化（財計第2017号）等に即した実施状況
(別紙2) 独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

① 所蔵作品展

館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数
東京国立近代美術館(本館) 【※1】	285	4	176,371	198,000
東京国立近代美術館(工芸館) 【※1】	178	4	47,925	49,000
京都国立近代美術館 【※2】	226	5	127,710	110,000
国立西洋美術館 【※3】	299	4	376,574	250,000
国立国際美術館	212	2	135,934	82,000
計	1,200	19	864,514	689,000

【※1】東日本大震災の影響により、平成23年3月12日(土)～4月10日(日)まで所蔵作品展ギャラリー閉室し、12日間、閉館時間を16時までとし、開館時間を1時間短縮した。

【※2】台風接近による暴風警報発令により、2日間臨時休館、1日間開館時間を短縮した。

【※3】東日本大震災の影響により、平成23年3月12日(土)～4月10日(日)まで常設展示室を閉室し、4日間開館時間を1時間短縮したほか、7月1日(金)まで毎週金曜日の夜間開館を休止した。この代替措置として、5月23日(月)、30日(月)、6月6日(月)を臨時開館した。

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

(本館)

所蔵作品展「近代日本の美術」では、絵画・彫刻・水彩・素描・版画・写真など、約10,000点のコレクションから、毎回184～226点の作品を選び、時代ごとに章分けした構成を施し、20世紀初頭から現代に至る近代日本美術の流れを系統的に分かりやすく概観できるように展示した。あわせて、各階の時代区分などの大枠や主要作品の出品は一定に保ちながら、会期ごとに(前年度からの継続を含め5会期)大幅な展示作品の入れ替え(日本画・版画・写真はすべて)を行った。

特に平成23年度は、平成24年度の所蔵作品展リニューアルを見据え、特集を多く組む試みを行った。場所や規模を限定せず、臨機応変に全体の構成を組み変えることで、結果として年間に大小合わせて23本もの特集を開催した。特に1年間継続した震災関連企画シリーズ「東北を思う」、1階企画展(「ぬぐ絵画—日本のヌード1880—1945」)と4—2階所蔵作品展(特集「ぬぐコレクション」等)の大規模なリンクなどは、特色ある新しい取り組みとして新聞、雑誌上でも取り上げられ、一定の効果を得た。

なお、これら特集の企画にあたっては、各研究員の研究成果を迅速に展示に活かすこと、および、新収蔵作品を積極的に紹介し、収集活動の成果を来館者に、これも迅速に示すこと、の2点に留意した。

(工芸館)

春の恒例的な企画となっている「近代工芸の名品」では、同時開催の「高橋禎彦展」の出品作家が、これまで個展として取り上げてきた各作家と比較して50歳代と若いことから、開催時に60歳以下の作家による仕事を展覧し、現代の動向を検証した。「新収蔵作品展2008—2010」では、新たにコレクションに加わった約290点の作品のなかから、今回はじめて展示することになる作品を中心に、荒川豊蔵、木村雨山、松田権六、三代徳田八十吉、古賀フミ、大阪弘道のほか、マリアンネ・ブラントや小松誠のデザイン作品など、約45点の作品を展示した。また、人間国宝・巨匠コーナーにおいて、震災復興への思いを込めて「特集『東

日本』」を開催した。この他「しまシマ工芸館」，「人間国宝と近代工芸の名品」を実施した。このうち，「人間国宝と近代工芸の名品」では，フィルムセンターが文化庁と共催して，文化庁がこの40年間に製作してきた「工芸技術記録映画」全編を特集上映するのにあわせ，それらの映画に関係する重要な作品を特集陳列した。

イ 京都国立近代美術館

「コレクション・ギャラリー」では，5回の展示替えを行うとともに，「没後100年青木繁展」と連動し，青木繁と親交が深かった坂本繁二郎の所蔵作品16点を展示し，両者の関係を浮き彫りにした「青木繁と坂本繁二郎—忘れがたき友情」，また「ホモイ＝ナジ」展と連動し，ホモイ＝ナジと同時代の西洋の作家たちの作品・資料を展示した「ホモイ＝ナジの時代」，「夢二とともに」展と連動し，その相関関係を作品によって提示する「夢二とイッテンとベルリン」を開催するなど，本年度も引き続き，企画展と関連する，コレクションを活用した小企画を開催した。また，毎回出品リストを日本語，英語の2種作成し，開催趣旨などととも，ホームページ上で紹介した。

ウ 国立西洋美術館

所蔵作品から約200点の絵画・彫刻を選んでおおむね時代順に配列し，中世末期から20世紀までの西洋美術の流れを辿ることのできる展示を行った。この間，4回の展示替えを行ったが，それによる休室は最小限にとどめ，絵画・彫刻コレクションの主要作品を常時公開するよう努めた。

また，「奇想の自然—レンブラント以前の北方版画」をはじめ3本の小企画展を開催し，素描・版画コレクションの多様な側面を紹介した。常設展用の音声映像ガイド iPhone/iPod touch 向けアプリケーション「Touch the Museum」は，美術館の展示室内で利用できるユニークな音声・映像ガイドとして既に高い評価を得ており，App Storeでのダウンロード数は，リリースから2年を経ずして60,181件（平成24年2月26日現在）を数えているが，iPhone/iPod touchのユーザーと当館を訪れる来館者の層にやや隔たりがあるため，美術館の展示室内で実際にTouch the Museumが利用されるケースは，いまだ稀であるように見受けられる。そのための改善策として「Touch the Museum」を，新たにAndroid端末でも利用可能なものとし，米Google社が運営するAndroid Market上で配布することにより，そのさらなる普及に努めた。

エ 国立国際美術館

平成23年度の所蔵作品展は，共催展及び企画展の開催にあわせて2回行った。特にコレクション4では当館が開館以来，開館ポスターやロゴタイプの制作を依頼し，非常につながりが深く，平成16年の大阪市中之島移転の際には，新しいシンボルマークの制作も依頼したデザイナーの「早川良雄ポスター展」を前年度に引き続き開催した。また，これまで展示する機会がなかった作品についてできる限り展示を行い，視野を広げるとともに，寄贈作品についても積極的に活用して展示構成を行った。特に，「WHITE 桑山忠明 大阪プロジェクト」と同時期に開催したコレクションにおいては，桑山忠明と同時代にアメリカで活躍した現代美術の作家の作品を集中的に展示して紹介した。

全体的に引き続き，企画展に併せて関連の作家，作品の展示や，あるいは，近年の収蔵品を中心とした展示構成等，創意，工夫を凝らした展覧会を行った。

② 企画展

企画展は，来館者のニーズに応え，以下の観点に留意して実施した。

イ 国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。

ロ 展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

ハ メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。

ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

ホ その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
東京国立近代美術館(本館)	①生誕100年 岡本太郎展 【※1】	35	134,688	51,600	ロ	川崎市岡本太郎美術館, NHK, NHKプロモーション
	②パウル・クレー—おわらないアトリエ	55	125,092	141,000	イ,ロ	日本経済新聞社
	③レオ・ルビンファイン 傷ついた街	63	17,620	15,000	イ	
	④イケムラレイコ うつりゆくもの	54	13,320	15,000	ロ,ホ	三重県立美術館
	⑤ヴァレリオ・オルジャティ展	62	23,298	20,000	イ,ロ,ハ	スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所
	⑥ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945	50	23,446	15,000	ロ,ニ	
	⑦生誕100年 ジャクソン・ポロック展	46	59,686	88,000	イ	読売新聞社, 日本テレビ放送網
	計	365	397,150	345,600		
東京国立近代美術館(工芸館)	①ガラス★高橋禎彦展 【※1】	35	16,856	6,000	ロ	
	②増田三男 清爽の彫金 —— そして、富本憲吉	36	7,573	6,000	ニ	早稲田大学會津八一記念博物館
	③イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師・グェッリーノ・トラモンティ展	56	8,885	10,000	ニ	ファエンツァ市, グェッリーノ・トラモンティ財団, NHK, NHKプロモーション
	④原弘と東京国立近代美術館デザインワークを通して見えてくるもの	52	25,258	15,000	ホ	
	⑤「織」を極める 人間国宝 北村武資	49	7,017	11,000	ロ	
	計	228	65,589	48,000		
京都国立近代美術館	①パウル・クレー—おわらないアトリエ	40	56,567	57,000	イ,ロ	日本経済新聞社, 京都新聞社
	②没後100年 青木繁展—よみがえる神話と芸術	39	58,172	60,000	ニ	毎日新聞社, 京都新聞社

	③視覚の実験室 モホイ＝ナジ／イン・モーション 【※2】	40	14,244	16,000	ハ, ニ	毎日新聞社
	④「織」を極める 人間国宝 北村武資 【※3】	38	16,412	14,000	ロ	
	⑤川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに	39	42,661	35,000	ロ	NHK京都放送局, NHKプラネット近畿, 毎日新聞社
	計	196	188,056	182,000		
国立西洋美術館	①レンブラント 光の探求／闇の誘惑 【※4】	67	250,886	160,000	イ	日本テレビ放送網, 読売新聞社
	②大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美	73	257,400	120,000	イ, ロ	大英博物館, 朝日新聞社, NHK, NHKプロモーション
	③プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影	82	333,910	200,000	イ	国立プラド美術館, 読売新聞社
	④ユベール・ロベール時間庭	23	27,660	11,000	イ, ニ	東京新聞
	計	245	869,856	491,000		
国立国際美術館	①風穴ーもうひとつのコンセプトアリズム、アジアから	58	11,769	14,000	ロ	
	②WHITE 桑山忠明 大阪プロジェクト	81	26,130	26,000	ロ, ニ	
	③オン・ザ・ロード 森山大道写真展	73	32,689	25,000	ロ	読売新聞社, 毎日放送
	④世界制作の方法	60	27,334	16,000	ハ	
	⑤アンリ・サラ	60	39,259	17,000	ハ	
	⑥中之島コレクションズ 大阪市立近代美術館&国立国際美術館	60	39,259	17,000	ホ	大阪市ゆとりとみどり振興局(大阪市立近代美術館建設準備室)
	⑦草間彌生 永遠の永遠の永遠	73	179,114	40,000	ロ	朝日新聞社
	計	465	355,554	155,000		
国立新美術館	①シュルレアリスム展 ーパリ、ポンピドゥセンター所蔵作品によるー 【※5】 【※6】 【※7】	41	107,655	106,000	イ	ポンピドゥセンター, 読売新聞社, 日本テレビ放送網
	②アーティスト・ファイル2011 ー現代の作家たち 【※5】 【※6】	60	19,482	31,000	ハ	

③ワシントン・ナショナル・ギャラリー 展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション	78	380,304	391,000	イ	日本テレビ放送網, 読売新聞社
④モダン・アート, アメリカン — 珠玉のフィリップス・コレクション—	66	88,853	91,000	イ	フィリップス・コレクション, 読売新聞社
⑤未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果	26	16,448	10,000	ハ	文化庁, 読売新聞社
⑥野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿 【※8】	64	20,338	17,000	ニ	
⑦平成 23 年度[第 15 回]文化庁メディア芸術祭	11	45,175	45,000	ハ	文化庁
⑧セザンヌ—パリとプロヴァンス	4	11,745	14,000	イ, ロ	日本経済新聞社
計 【※9】	350	690,000	705,000		
合計	1,849	2,566,205	1,926,600		

備考：【※1】東日本大震災の影響により、6日間、臨時休館し、3月11日及び19日以降は開館時間を10時～16時に短縮、4月29日から10時～17時で開館（夜間開館は中止）した。

【※2】台風接近に伴う暴風警報発令により、1日間臨時休館、1日間開館時間を短縮した。

【※3】台風接近に伴う暴風警報発令により、1日間臨時休館した。

【※4】東日本大震災の影響により、展覧会初日から3月25日（金）までの12日間、臨時休館し、3月26日（土）から4月5日（火）までの14日間、開館時間を10時～16時までに短縮、4月6日（水）から4月15日（金）までの9日間、開館時間を9時30分～16時30分までに短縮し、4月16日（土）から9時30分～17時30分で開館（毎週金曜日の夜間開館は中止）した。なお、休館の代替措置として、5月23日（月）、30日（月）及び6月6日（月）の3日間を臨時開館した。

【※5】東日本大震災の影響により、3月12日～25日のうち、8日間臨時休館し、土日祝日の3日間開館時間を10時～16時に短縮、3月26日～4月4日は10時～16時で開館、4月6日～11日は平日10時～17時・土日10時～18時で開館、4月13日以降は夜間開館は中止しつつ通常の開館時間に復旧、6月10日以降夜間開館も復旧した。

【※6】東日本大震災の影響により、臨時休館を行ったことから、通常休館日とする5月6日を開館日とし、5月10日も臨時開館した。

【※7】東日本大震災により、臨時休館、開館時間の短縮があったことから、共催者と協力し、会期を5月15日まで6日間延長した。

【※8】東日本大震災の影響により、会期を変更したことにより、開催日数が減ったため、年度計画上の目標入館者数と異なっている。

【※9】東日本大震災の影響により、会期を変更したことにより、開催展覧会が1減となったため、年度計画上の目標入館者数と異なっている。

③ 巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館	国立美術館巡回展 日本の現代陶芸—伝統と新風の精美 【※】	江別市セラミックアートセンター	37	2,651
		瀬戸市美術館	56	2,942
東京国立近代美術館（工芸館）	東京国立近代美術館工芸館名品展 近代陶芸 51人の巨匠たち	福井県陶芸館	48	3,484
計			141	9,077

【※】東京国立近代美術館工芸館及び京都国立近代美術館が所蔵する我が国の近現代陶芸を代表する作品 109 点を展示

企画館	タイトル	会場数	開催日数	入館者数
東京国立近代美術館 (フィルムセンター)	①平成 23 年度優秀映画鑑賞推進事業	188	362	87,909
	②アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち	1	2	1,200
	③サマーフェスティバル 2011 <MUSIC TODAY21> 映像と音楽 (無声映画のための音楽)	1	2	582
	④「日活 100 年」海外巡回上映会	3	38	4,869
	⑤「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」巡回事業	3	7	860
	⑥刀と銀幕—日本の時代劇映画 1915~1960	1	5	305
	⑦第 3 回中之島映像劇場 全体芸術の試み 無声映画+音楽演奏+弁士の語り —東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—	1	2	301
	⑧NFC所蔵作品選集 MoMAK Films@home	1	10	595
計		199	428	96,621

④ 東京国立近代美術館フィルムセンター映面上映等

【上映会】

タイトル	会場	上映回数	日数	入館者数	目標数	企画趣旨	共催者
①生誕百年 映画監督 吉村公三郎 【※】	大ホール	53	24	10,287	12,000	ニ	
②よみがえる日本映画 vol.2【東映篇】—映画保存のための特別事業費による	大ホール	36	18	6,243	4,000	ニ	
③EU フィルムデーズ 2011	大ホール	44	21	7,893	8,000	ホ	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関
④生誕百年 映画監督 森一生	大ホール	72	24	10,320	11,000	ニ	

⑤特集・逝ける映画人を偲んで 2009-2010	大ホール	82	41	13,330	13,500	ニ	
⑥シネマの冒険 闇と音楽 2011	大ホール	12	6	2,452	1,500	ホ	
⑦第33回 PFF ぴあフィルムフェスティバル	大ホール	26	10	3,853	5,000	ロ, ニ	PFFハートナース (ぴあ, ホリプロ), 公益財団法人エンジェル
⑧再映:よみがえる日本映画—映画保存のための特別事業費による/生誕百年 映画監督 吉村公三郎	大ホール	48	24	6,795	5,500	ホ	
⑨映画女優 香川京子	大ホール	100	42	16,805	15,500	ニ	
⑩よみがえる日本映画 vol.3 【新東宝篇】—映画保存のための特別事業費による	大ホール	54	27	9,942	6,000	ニ	
⑪現代フランス映画の肖像 2—ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより	大ホール	94	47	12,313	9,500	ニ	
⑫映画の教室 2011 [京橋映画小劇場 No.21]	小ホール	18	9	1,627	2,000	ホ	
⑬アンコール特集:2010年度上映作品より [京橋映画小劇場 No.22]	小ホール	18	9	1,479	2,000	ホ	
⑭日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集	小ホール	42	21	1,824	3,500	ニ	
計		699	323	105,163	99,000		

備考:【※】東日本大震災の影響で上映回数が72回から実質53日となり,上映回数が大幅に減少したため,入館者数が目標値の86%にとどまったが,一回平均の入館者数では,目標値の117%を示している。

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数	企画趣旨
①フィルムセンター設立40周年企画 展示室リニューアル記念 NFC映画展覧会の15年 1995-2010 【※】	36	1,029	2,000	ロ
②映画パンフレットの世界	87	5,670	3,500	ロ, ニ
③映画女優 香川京子	82	4,412	4,000	ロ, ニ
④日本の映画ポスター芸術	73	6,190	4,000	ロ
計	278	17,301	13,500	

備考:【※】東日本大震災の影響により,4月5日から4月28日まで開館時間を短縮等した。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：69 団体

年間利用室数：延べ 3,500 室／年

稼働率：100%

入館者数：1,253,764 人

1 公募団体等から寄せられた意見・要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下のような取組みを行った。

- ・ 作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施
- ・ 作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底
- ・ 審査、展示等に必要な備品の充実
- ・ 展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底
- ・ 公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施
- ・ 公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施
- ・ 館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実
- ・ 国立新美術館ニュースへ公募団体からの寄稿を掲載することにより、広報の支援を実施
- ・ 公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知

2 公募団体等が行う教育普及活動

館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言を行った。

3 平成 25 年度に展示室（公募展用）を使用する 70 団体（野外展示場のみ使用を含む。）を決定した。

② 新しい芸術表現への取組み。

【東京国立近代美術館本館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
所蔵作品展内特集「東北を思う—記憶・再生・芸術」【※】	61	ビデオ・アート	—	—	—
ヴァレリオ・オルジャッティ展	62	建築	23,298	20,000	スイス連邦工科大学チューリヒ校建築理論・建築史研究所

【※】東日本大震災を受けての緊急企画。若手のビデオアーティストに依頼し、当館内を舞台とする映像作品の制作を行った（平成 24 年度完成予定）。

【東京国立近代美術館フィルムセンター】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち	2	アニメーション	1,200	—	チネテカ・デル・フリウリ

・ 詳細な作品解説を付した英語，イタリア語両言語による映画祭カタログ，上映に立ち会ったフィルムセンター研究員によるイントロダクション等を通じ，世界各国より集った無声映画，アニメーション映画の研究者，アーキビスト，キュレーターらが，日本アニメーション映画の源流についての理解を深めることに寄与することができた。

【京都国立近代美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
視覚の実験室 モホイ＝ナジ／イン・モーション	40	メディアアート	14,244	16,000	毎日新聞社

・ 美術史上「メディアアート」発生の原点ともいべきモホイ＝ナジの，わが国における初めての回顧展を開催し，「メディア」そのものへの意識が芽生えた近代美術史上におけるその歴史的な検証を行った。

【国立西洋美術館】

・ 国立西洋美術館建物の世界遺産登録について

ユネスコの第 35 回世界遺産委員会が，6 月 19 日から 29 日までの間，フランスのパリ・ユネスコ本部で開催され，国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品－近代建築運動への顕著な貢献」の推薦案件については，6 月 28 日に，イコモス（国際記念物遺跡会議）の勧告「不記載」を一段階上回る「記載延期」で決定された。この結果については 8 月 31 日に国立西洋美術館の講堂において，地元の推進 3 団体や台東区を交えて「第 4 回世界遺産登録推進活動報告会」が開催された。

・ 国立西洋美術館本館見学会等の実施

1 月 16 日から 18 日の 3 日間，台東区立の小学校の児童（4 校，約 200 名）が国立西洋美術館の建物等の見学会を行った。

また，2 月 26 日には，台東区の世界遺産区民講座の開催に協力し，国立西洋美術館講堂において，ル・コルビュジエが設計した本館建物について，当館客員研究員がわかりやすく解説し，施設見学会を行った。

・ 国際シンポジウム「20 世紀建築と世界遺産－シリアル・ノミネーションにおける OUV の議論をめぐって」を実施した（2 月 18 日）。

世界遺産として，多くの 20 世紀建築が登録され，「 فرانク・ロイド・ライトの建物群(アメリカ)」，国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品群（フランス，日本，ベルギー，ドイツ，スイス，アルゼンチン）」が 20 世紀建築のシリアル・ノミネーションとして各国の暫定リストに記載されており，世界遺産登録に係る 20 世紀建築のシリアル・ノミネーションにおける OUV (outstanding universal value) の議論の必要性が高まってきている。この状況を踏まえこの分野における国際的に著名な専門家を招聘し，議論することによって世界遺産における 20 世紀建築のシリアル・ノミネーションの可能性を探った。

【国立国際美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
世界制作の方法	60	ビデオ・アート，アニメーション，コンピューターアート	27,334	16,000	
アンリ・サラ	60	ビデオ・アート	39,259	17,000	

・ 「世界制作の方法」では，従来の美術とそれを支える制度にとらわれることなく，驚きと発券に満ちた表現手法によって独自の世界観を構築している作家たちの，映像やアニメーション，コンピューターを駆使した表現作品を紹介した。

- ・「アンリ・サラ」では、空間とサウンドとの関係、また展示されたオブジェ等との関係も含め、近作の映像作品を中心に紹介した展示であったが、日本ではほとんど知られていない作家であったにもかかわらず、多くの来場者の関心を惹きつけた。なお、オープニングに際して、出品作品にも登場するバレル・オルガン（ストリート・オルガン）を用いたパフォーマンスを行い、来場者に新鮮な印象を与えた。

【国立新美術館】

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
アーティスト・ファイル 2011 - 現代の作家たち【※】	60	ビデオ・インスタレーション	19,482	31,000	—
未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家 在外研修の成果	26	ビデオ・インスタレーション	16,448	10,000	文化庁, 読売 新聞社
平成 23 年度[第 15 回]文化庁メデ ィア芸術祭	11	ビデオ・アート, アニ メーション, マンガ, ゲ ーム, インタラクティ ブ・アート	45,175	45,000	文化庁

備考：【※】 通期入場者数 21,114 人。東日本大震災の影響により会期を短縮した。

- ・ アニメーション表現などの新しい視覚表現を紹介するための試みとして、(A)「インターカレッジアニメーションフェスティバル(ICAF)2011」への特別協力を行い、(B)「TOKYO ANIMA!2011」及び「TOKYO ANIMA!2012 春」への共催を実施した。ICAF2011 では国内の大学など 18 機関の学生によるアニメーション作品 155 点に加え、韓国とヨーロッパの映像作品を 4 日間に渡り講堂にて上映し、日本のアニメーション表現のこれからの可能性を紹介する機会となった。4 日間の会期中、来場者は 1,623 名であった。(B)の「TOKYO ANIMA! 2011」は「六本木アートナイト 2011」における国立新美術館のイベントとして企画され、東日本大震災に伴い「六本木アートナイト 2011」が中止になったことをうけて開催延期となっていたが、平成 23 年 10 月に実施した。30 名の若手映像作家の近作・新作を中心に 2 日間に渡り上映し、延べ 600 名の来場者があった。

平成 24 年 3 月に開催された「六本木アートナイト 2012」では、「TOKYO ANIMA!2012 春」を開催し、1 夜限りのイベントであったが延べ 401 名の来場者があった。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術 (ICT) を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

館名	アクセス件数 (ページビュー)	目標数 (第 2 期平均)
本部	8,435,763	9,076,555
東京国立近代美術館 (本館・工芸館・フィルムセンター含む)	12,933,927	10,500,075
京都国立近代美術館	2,159,741	2,244,585
国立西洋美術館	10,265,380	6,313,881
国立国際美術館	2,572,268	2,266,576
国立新美術館	9,840,242	9,372,754
計	46,207,321	39,774,426

イ 各館の ICT 活用の特徴

(ア) 本部

平成 20 年度にリニューアルした法人ホームページにおいては、引き続き国立美術館 5 館の開催展覧会および各種催事等トピックスの一覧を維持した。

「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」については、平成 23 度より「指導者研修 Web 報告」のページを新たに設け、これまで書面であった報告書を Web 上での報告書に改めた。

(イ) 東京国立近代美術館

平成 19 年度より稼働のコンテンツ・マネジメント・システム (CMS) を用いて、ホームページ・コンテンツの追加更新を迅速化し、「イケムラレイコ」「ぬぐ絵画 日本のヌード 1880-1945」展、「ヴァレリオ・オルジャッティ展」などにおいては特設サイトを設けて広報につとめた。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに新収蔵作品の文字画像データを追加するとともに、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、許諾を得た写真作品 1,224 点について画像を新規登録した。また、水彩・素描他の許諾処理をしてこなかったジャンル（工芸を除く）についての著作権者情報を整備するとともに、著作権許諾申請手続を開始した。東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、他国立美術館と連携して着手した。

フィルムセンターでは、事業関連の情報を提供する「NFC メールマガジン」の登録者が着実に増加した。また NFCD (フィルムセンターデータベース) については、ウェブ化開始以来の懸案であった人物データのコンバートがようやく完了し、人物情報の統合作業を進めた。また、資料整理の進化とともに NFCD の改造を計画し、フィルムの運用を細やかに管理するとともに、プレス資料 (プレスシート、チラシ等) を NFCD 上で登録できるように作業を進めた。また、映画関連資料へのアクセス希望に対しては、図版提供をすみやかに行うためにデジタル・データの形で提供する傾向が定着しているが、これまでにデータ化された写真等の画像を円滑に活用するため、共有ファイル内に設けた「画像集積所」のさらなる充実を目指した。

(ウ) 京都国立近代美術館

展覧会情報や講演会、教育普及関連のイベント、さらには「友の会」の行事報告に加え、コレクション・ギャラリーの展示替えごとに出品目録および小企画やテーマ展示についての解説を掲載し、情報発信に努めた。

また、空気調和工事による休館中は、休館案内を掲載し周知した。

さらに、美術館ニュースや研究論集の発行に際して、掲載内容をホームページ上に告知した。

(エ) 国立西洋美術館

法人共通の収蔵品検索システムである「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」で、各館の情報資源との連携を実現するため、新たにリンク機能を追加した。この連携実現により、法人本部の「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」と当館所蔵作品データベースとの間で、前者は法人全体の情報資産にかかる総覧的なサイト、後者は当館の詳細な情報にかかるサイト (画像を含む) と機能上の棲み分けをすることが可能になった。

平成 23 年度も引き続き科学研究費補助金を受け、所蔵品データベースの充実に努めることができた。重点的に行ったのは、個々の作品に対するカタログ・レゾネ情報の追加である。また本データベースについて、文化庁主催の「文化遺産オンライン構想」成果報告フォーラムで最前線の事例として講演する機会を得る一方、放送大学のテキスト『博物館

教育論』では学習の参考になるサイトとして紹介されるなど、一定の評価を得ることができた。ホームページ本体については、トップページの表示方法を改良し、第3世代モバイル端末での閲覧に対応する措置を行った。

(オ) 国立国際美術館

平成23年度は、平成22年度に実施したホームページのリニューアルにより充実を図った展覧会情報、関連イベント情報、施設利用案内について、更なる充実に努めた。

また、引き続き、展覧会ごとに英語版ホームページを作成し、海外への情報発信、外国人来館者への情報提供に努めた。

(カ) 国立新美術館

展覧会情報検索サービス「アートコモンズ」において、引き続き日本国内の美術館、画廊、美術団体が開催する展覧会の情報を収集し、検索可能とすることに努めた。特に平成23年度においては、検索システムを改修するとともに、約600の収集対象に展覧会情報提供の協力を依頼し、継続性のある収集が行えるように努めた。また、平成22年度に公開した「日本の美術展覧会記録1945-2005」との横断検索を実現し、1945年から現在までの展覧会を検索可能とした。

引き続きホームページにより、広く、速やかに国立新美術館の活動に関する情報を発信することに努めた。

さらに、携帯電話等の小画面の機器に対応したホームページの提供やメールマガジンの配信とも併せて、東日本大震災以降の開館時間の変更等の情報を発信した。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

館名		収集件数	累計件数	利用者数	目標数 (第2期平均)
東京国立近代美術館	本館	4,326	119,097	2,510	2,921
	工芸館	1,334	22,002	322	356
	フィルムセンター	2,728	36,179	3,525	3,273
京都国立近代美術館		1,367	20,804	—	—
国立西洋美術館		613	45,225	389	399
国立国際美術館		1,750	36,367	—	—
国立新美術館		11,730	119,298	22,440	44,365*
計		23,848	398,972	29,186	51,314*

注 東京国立近代美術館は本館3階、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

※ 新規開館により利用者が著しく増加した年度の実績を除く

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、平成18年度開催の藤田嗣治展の後、19年度に寄贈された藤田家旧蔵書は平成22年度に登録を完了し、検索公開をしているが、そのうち藤田装幀挿画書など稀観書について京都造形芸術大学、慶応大学医学部と連携して調査を行った。

平成24年度の60周年事業の一環である年史のデータ集成および編集作業を進めて、ミュージアム・アーカイブの整備をあわせて進めた。工芸館では、多数の書籍を受贈す

るケースが近年続いていたが、本年はほとんどが定期的な購入や寄贈のみとなったため収集件数が減少した。

フィルムセンターでは、一定の網羅性を確保する形で、映画関連の新刊書と雑誌の収集を行うとともに、未所蔵の古書や一般の書籍流通ルートには乗らない刊行物の収集にも努めた。公開への準備としては、今後のデータベースへの登録を見越して、これまでリスト化されていなかった図書室内の映画雑誌、外国映画祭カタログのリスト化を着実に進めているほか、映画パンフレットについては昨年度開始された OPAC データベースへの登録を加速して進めた。

(イ) 京都国立近代美術館

前年度から継続して採択されている科学研究費補助金によって、「川西英コレクション」に関連する高額の高貴重図書（戸張狐雁の『創作版画と版画の作り方』）を購入するとともに、研究代表者や各分担研究者も、それぞれ研究に関連する図書を購入収集した。

(ウ) 国立西洋美術館

美術史その他関連諸学に関する資料の収集の一環として、スタンダードな美術家事典である『ベネジット美術家事典』オンライン版を契約し、当館の展覧会活動の推進に役立てるとともに、研究資料センターの外部利用者に対してもサービス提供を開始した。また個人の篤志家からは、図書資料 249 冊の寄贈を受けた。

このほか図書室における情報サービスの質の向上に努める方策として、ホームページ上の「学術情報案内」を一新し、内外の美術館学芸員、西洋美術史研究者を対象に、当館が所蔵または契約する電子リソースやマイクロ資料、インターネット上で無償提供されているオープンアクセスのリソース等の情報を集約し、西洋美術分野の総合的なレファレンス・ガイドとして活用されるようコンテンツの充実を図った。

(エ) 国立国際美術館

国内外の現代美術に関連する図書資料等を中心に収集を継続した。

特に、企画展や所蔵作家関連の文献に加え、国際展に関する文献なども積極的に収集を行った。（購入：302 冊，寄贈：1,448 冊）

(オ) 国立新美術館

引き続き日本の展覧会カタログを中心に網羅的、遡及的収集に努めた。国内約 300、国外約 60 の美術館・博物館と展覧会カタログの相互寄贈関係を構築したほか、複数の個人から展覧会カタログの大口寄贈を受けた。また、安齊重男氏撮影の日本の現代美術の記録写真資料について、これまで未所蔵だった平成 22 年～平成 23 年分 307 枚を新たに収集し、さらなる充実を図った。

ウ 所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率	デジタル化件数	デジタル化累計	累積公開件数 (公開率)	目標公開率
東京国立近代美術館	本館	271	10,387	6,688 (63.9%)	33.0%	168	10,840	10,239 (97.9%)	97.3%
	工芸館	320	3,410	383 (12.5%)	5.5%	106	3,410	3,049 (99.4%)	99.5%
	フィルムセンター (映画関連資料)	—	—	—	—	3,005	117,510	—	—
京都国立近代美術館		372	7,093	1,952 (17.7%)	11.4%	443	10,432	9,128 (82.9%)	85.8%
国立西洋美術館		169	5,297	202 (4.3%)	4.4%	20	4,573	4,564 (97.3%)	94.7%

国立国際美術館	179	6,427	3,072 (45.9%)	19.0%	399	7,509	6,402 (95.8%)	97.6%
計	1,311	32,614	12,297 (34.2%)	17.8%	4,141	154,274	33,382 (93.0%)	93.9%

注 「累計公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。なお、国立西洋美術館は「国立西洋美術館所蔵作品データベース」で画像データ 4,456 点を公開している。東京国立近代美術館工芸館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載しているため、テキストデータの公開率が高くなっている。フィルムセンターについては、映画フィルムを除いた映画の関連資料についての件数を掲載している。

エ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

国立美術館 5 館全体において VPN (暗号化された通信網) を採用し、情報ネットワークの安定かつ高速化を実現するとともに、VPN を用いたグループウェアおよびテレビ会議システムを継続して稼働させた。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、昨年度許諾を得た写真作品 1,730 点の画像を掲載するとともに、水彩・素描他の許諾処理をしてこなかったジャンル (工芸を除く) についての著作権許諾の手続きを開始した。

平成 20 年に国立国会図書館デジタルアーカイブポータル(PORTA)に登録して国立国会図書館ならびに関連機関作成のデジタルアーカイブとの横断検索を可能にしている国立美術館所蔵作品総合目録検索システムのデータの新規登録分を更新した。なお、国立国会図書館 PORTA は平成 24 年 1 月、国立国会図書館サーチ (NDL Search) へ発展継承されている。

平成 22 年度に策定の独立行政法人国立美術館の情報資産の安全な運用に努めるための基本方針ならびに管理規則として「国立美術館情報資産安全対策基本方針」「国立美術館情報資産安全管理規則」を踏まえ、施行細則の検討を行った。

東京国立近代美術館所蔵作品管理システムならびに独立行政法人国立美術館総合目録のデータ登録更新とインターフェースの改良を、他国立美術館と連携して着手した。

欧米主要美術図書館横断検索システムである [artlibraries.net](http://artlibraries.net/index_en.php) (http://artlibraries.net/index_en.php) と国立美術館の図書検索システム (東京国立近代美術館および国立西洋美術館) の連携可能性について、国立情報学研究所と連携して調査研究した。

(4) 国民の美的感性の育成

① 幅広い学習機会の提供 (講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)

館名	実施回数	参加者数	目標数	
東京国立近代美術館	本館	88	5,437	5,509
	工芸館	39	1,656	1,616
	フィルムセンター	167	11,206	9,733
京都国立近代美術館	76	3,858	3,724	
国立西洋美術館	153	13,934	10,261	
国立国際美術館	70	4,274	3,486	
国立新美術館	78	11,288	10,518	
計	671	51,653	44,847	

ア 各館の特徴

- (ア) 東京国立近代美術館
(本館)

幅広い層への解説プログラム(所蔵品ガイド、ハイライトツアー、キュレータートーク、アーティストトーク、音声ガイド、子ども用セルフガイドやイベント等)や来館者サービス(ライブラリ、ショップ、レストラン、休憩室、バリアフリー情報、夜間開館、無料観覧日、MOMATパスポート等)を一覧できるリーフレット「活用ガイド」を制作した。

平成23年度は、東日本大震災による休館や、開館時間の変則的な変更などにより、実施回数を大幅に減らした。

先生のための鑑賞講座は、これまで企画展の解説を中心としてきたが、「クレー」展からは学校との具体的な連携事例の紹介もあわせて行うようになり、参加者数を増やした。特に「ポロック」展では、これまでの連携を活かし、学校と美術館の連続授業を実施したうえで紹介することができた。

(工芸館)

「グェッリーノ・トラモンティ展」ではイタリアから研究者を招へいして講演を実施した。日本と同じく陶芸分野の歴史を古くから持つイタリアの動向を知るとともに、差異を確認することからわが国の独自性が検証された。「北村武資」展アーティストトークは、工芸館の室内空間にとって限界に迫る人数の参加者を迎えたが、別室へ映像の中継や人員を多く配置したことによって混乱なく終了することができた。また、工芸館での鑑賞を前に、九段中等教育学校へスタッフを派遣し、漆に関する授業協力を行ったことは、生徒の漆素材への興味と理解を深めるとともに、来館時の期待感と鑑賞意欲を高めることでも効果的であり、今後も継続を検討したい。

(フィルムセンター)

平成23年度は、大ホールの3企画、小ホールの1企画及び展示室の3企画等で、計58回のトーク・イベントを行った。これらに加え、教育普及を目的とする上映イベントでは、小中学生を対象とする「こども映画館」と、若い観客層の開拓を目的とした「カルト・ブランシュ～期待の映画人・文化人が選ぶ日本映画～」、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント(今回のテーマは「映画は、どこで、どのように保存されているのか一日/米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告-」)といった恒例行事に加え、研究員による講演解説付きの特別イベント「『忠次旅日記』『長恨』デジタル復元版と重要文化財指定映画『小林富次郎葬儀』特別上映会」を開催した。

(イ) 京都国立近代美術館

平成19年からフィルムセンターとの連携で行っているMoMAK Filmsでは、仲正昌樹氏の講演会を8月の上映会のプレイベントとして行った。本来は展覧会の関連事業としての位置づけで企画したが、上映作品にも関連した内容であり、結果として講演会聴講者と映画鑑賞者が連動して集客につながった。

また、10年以上継続しているプリントスタディは、京都のみならず大阪の芸術大学の授業を中心に活用されている。所蔵作品を能動的に活用してもらおうという点で、当館らしい学習支援の取り組みであり、今後も精力的に受け入れていくべき活動内容の一つである。

さらに、平成23年3月から友の会事業として1泊2日のツアーを行っている。平成23年度は「夢とともに」展の開催にちなんで群馬・伊香保や榛名山を訪れるツアーを実施するとともに、平成24年度開催の「村山知義の宇宙」展の第一会場で行われたイベントに参加し、開館60周年を迎えた神奈川県立近代美術館などをめぐるツアーも実施した。どちらのツアーも参加者から好評を得た。

(ウ) 国立西洋美術館

平成 23 年度は、平成 22 年度に実施できなかった「ファン・デー」と「ファン・ウィズ・コレクション」を復活させた。東日本大震災後に常設展を閉室する可能性があったため、「ファン・ウィズ・コレクション」は常設展ではなく企画展（「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美」）をテーマにして企画・実施した。展示作品に関連して、円盤投げのデモンストレーションを含む講演会や子供対象のダンス・ワークショップなどを行った。また、「ファン・デー」では、10 分トークやパズルのプログラムだけでなく、無料配布した常設作品の鑑賞カードを缶バッジにしてお土産にするなど、来館者と作品を繋げる新たな工夫も行い好評であった。また、「アートカード」の貸し出し件数も、昨年より増加した。

「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」展に関連して、『オランダの光』と『ようこそ、アムステルダム国立美術館へ』の 2 種類の映画を上映した。上映に先立ち、展覧会企画担当者が映画に関する簡単なトークも行った。

また、クリスマスに時期に、「Museum X'mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」と題して、所蔵作品解説「10 分トーク」や「クリスマスキャロル・コンサート」、クリスマスツリーの設置、所蔵作品を題材にとったパズルなどの各種プログラムを実施した（期間：平成 23 年 12 月 13 日～平成 23 年 12 月 18 日）。

(エ) 国立国際美術館

引き続き、企画展ごとに講演会、対談、ギャラリートークなどを実施するとともに、平成 23 年度から新たに、小・中・高・特別支援学校の教員・職員または鑑賞教育に取り組まれている方を対象に、美術館の活用法や子供による鑑賞の取り組みについての討議の場、情報交換の場として、「先生のための鑑賞ミーティング」を開催した。

また、上記のほか、以下の教育プログラムを実施した。

- ・鑑賞支援教材制作に関連した「ジュニア・セルフガイド」の発行（「風穴 もうひとつのコンセプトアリズム、アジアから」、「中之島コレクションズ 大阪市立近代美術館&国立国際美術館」、「コレクション」（平成 24 年 1 月 7 日～平成 24 年 4 月 8 日開催）で配布）
- ・大学の課外授業及びスクーリングによる団体鑑賞の受入れ（20 校を受入れ）
- ・小・中・高等学校団体鑑賞の受入れ（171 校を受入れ）・教員研修会の実施（5 回）

(オ) 国立新美術館

展覧会に関連した講演会やアーティスト・トークのほか、昨今の美術館リニューアルに関するシンポジウムや展覧会カタログに関するシンポジウムなど、美術館周辺の幅広い分野をテーマにしたイベントの開催にも取り組んだ。

教育普及室の企画により毎年複数回開催しているアーティスト・ワークショップは、開館以来の開催回数が 30 回を超えた。開館 5 周年を機に、教育普及事業の柱の一つであるワークショップを記録し、その内容を広く知ってもらうために、2007 年 3 月から 2011 年 2 月までの 5 年間に開催した 29 回のアーティスト・ワークショップの記録集『やってみよう、アート 国立新美術館ワークショップ記録集 2007 年 3 月－2011 年 2 月』を発行した。

ワークショップは子どものみを対象にした上記のものだけでなく、幅広い層と一緒に参加できるプログラムを企画し、それにより、創造活動を通じて異なる世代が交流する貴重な機会を提供することができた（全 6 回のワークショップのうち小学校中学年を対象としたものが 1 回、小学生以上が 2 回、中学生以上が 3 回）。

「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展において、毎年発行している鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック Vol.6』を配布し、「モダン・アート、アメリカン 一珠玉のフィリップス・コレクション」展に際しては、鑑賞の手引きとして小学校高学年以上向けの鑑賞ガイド『アメリカ「都市と自然」』を作成し、無料配布した。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録者数	ボランティア参加者数	事業参加者数	
東京国立近代美術館	本館	43	472	5,084
	工芸館	27	233	1,732
京都国立近代美術館	37	142	—	
国立西洋美術館	33	521	5,569	
国立国際美術館	27	48	—	
国立新美術館	85	112	—	
計	252	1,528	12,385	

イ 各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、東日本大震災による休館に伴い、所蔵品ガイドを3月12日から4月18日まで中止とした。ガイドスタッフ4期生の養成研修を2月5日から6月25日まで行った。開館60周年にあわせて『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMAT ガイドスタッフ活動の記録 2002-2011 トーキング・トーキンビ』を刊行した。

工芸館では、各企画展開催時の「タッチ&トーク」で、出品作家や研究者等から素材や技法サンプルの提供や貸し出しを受け、〈さわってみようコーナー〉で紹介し、参加者の理解を深めるよう努めた。そのためにはボランティアスタッフへの事前研修が欠かせないが、織物作家の個展としては初めてとなる「北村武資展」に際し、歴史的背景と技法理解について特に時間をかけて研修や勉強会を実施した。また会期中もガイド担当者と細やかに連絡をとりあったことから、初めての素材でも不安感なくガイドに臨み、内容も充実したものとなった。

(イ) 京都国立近代美術館

各企画展・共催展ごとに、ボランティアスタッフによるアンケート調査回収・集計を行った。

(ウ) 国立西洋美術館

開始から3年目を迎え、当館の看板プログラムとして定着した「美術トーク」と「建築ツアー」は、徐々にではあるが、リピーターを含め参加者も着実に増えている。毎回定員を大幅に超える申込があった「どようびじゅつ」は、ボランティア・スタッフの力を借り、実施回数を増やすことで対応した。ここ数年一定の参加者数を保ち続けているスクール・ギャラリートークを含め、常設展を利用した幅広いプログラムがボランティア・スタッフによって支えられた。

(エ) 国立国際美術館

学生ボランティアを広く募り、教育普及事業の実施補助、広報資料の発送、図書資料等の整理などの美術館運営の補助業務を実施することを通じて、美術館活動に接する機会を提供した。

なお、平成 23 年度は、「草間彌生 永遠の永遠の永遠」展の開催にあたり、ボランティアに協力を依頼し、展示場内の環境整備などを行い、美術館における展覧会活動についての理解を深める機会を提供した。

(オ) 国立新美術館

美術や美術史だけでなく、幅広い分野の専攻の学生がボランティアとして登録し、講演会やシンポジウム、ワークショップの運営補助のほか、図書資料の送付作業など様々な活動に参加した。

ウ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) コンサート等の実施

東京国立近代美術館本館において、「パウル・クレー」展に関連して、申愛聖（バイオリン）、三間早苗（チェロ）によるコンサートを 6 月 12 日（日）、6 月 25 日（土）の 2 日間、開催した。（地下 1 階講堂、申込不要・入場無料（先着 140 名））（1 回）

京都国立近代美術館では、「夢二とともに」展に関連して、京都市立芸術大学の協力によりコンサートを開催した。（1 回）

国立西洋美術館では、東京藝術大学との連携による「Museum X'mas in 国立西洋美術館《美術館でクリスマス》」クリスマスキャロル・コンサート（4 回）、ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」（4 回）、「東京のオペラの森 2011 SPRING FESTIVAL in TOKYO」（主催：東京・春・音楽祭実行委員会、東京都／参加機関：東京文化会館、東京国立博物館ほか）及び「東京のオペラの森 2012 SPRING FESTIVAL in TOKYO」（主催：東京・春・音楽祭実行委員会、共催：東京文化会館（公益財団法人東京都歴史文化財団）／参加機関：東京文化会館、東京国立博物館ほか）に参加し、ミュージアム・コンサート、「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」展記念コンサート vol.2（2 回）、「ユベール・ロベールー時間の庭」記念コンサート vol.1（2 回）、「ユベール・ロベールー時間の庭」記念コンサート vol.2（2 回）を開催した。

国立国際美術館では、「草間彌生 永遠の永遠の永遠」展に関連して、共催者である朝日新聞社と協力し、栗コーダーカルテットによるミニ・コンサート、財団法人ダイキン工業現代美術振興財団と協力し、コンサート「ミュージアムコンサート Vol.15」、「ミュージアムコンサート Vol.16」、「世界制作の方法」に関連して、出品作家であるエキソニモ、アーティストの youpy、比嘉了とともにコンサート「Desktop Worldmaking」の計 3 回、実施した。

国立新美術館では、企業協賛金を活用した館主催のロビーコンサート「斉藤美音子×知久寿焼によるスペシャルパフォーマンス MIJCHIKU・SAJ」「国立新美術館クリスマス JAZZ コンサート」「国立新美術館開館 5 周年オペラコンサート」（制作：新国立劇場）や、展覧会共催者との共同による事業「シュルレアリスム展」チャリティコンサート（読売新聞社との共同事業、2 回開催）「シュルレアリスム展」リサとガスパールによる募金活動（読売新聞社との共同事業）「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」ミニ・コンサート＋特別鑑賞会（日本テレビ放送網、読売新聞社との共同事業）を計 7 回実施した。

(イ) ぐるっとパスへの参加

東京の美術館・博物館等 70 館が実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2011」及び関西の美術館・博物館等 67 館が実施する「ミュージアムぐるっとパス・

関西 2011」に参加（京近美を除く）し、所蔵作品展観覧料の無料化や企画展観覧料の割引などを実施した。

(ウ) NPO 法人との連携

国立西洋美術館では、ジャパンアカデミーフィルハーモニックとの連携による「ファン・デー 前庭コンサート」（平成 23 年 10 月 1 日（土）、2 日（日）前庭 計 4 回）を開催した。

(エ) 企業との連携

東京国立近代美術館と国立西洋美術館では、三菱商事株式会社と共同で行っている障がい者のための鑑賞プログラムを実施した。

東京国立近代美術館では、平成 24 年 3 月 31 日「ジャクソン・ポロック展」及び平成 23 年 10 月 1 日の「イケムラレイコ」展の閉館後に障がい者特別内覧会を実施した。「ポロック展」の参加者は 74 名、「イケムラ」展の参加者は 54 名であった。

国立西洋美術館では、平成 23 年 7 月 9 日（土）「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美」、平成 23 年 11 月 12 日（土）「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展の閉館後に障がい者特別内覧会を実施した。「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美」の参加者は、202 人、「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展の参加者は、217 人であった。

国立国際美術館では、企業とのタイアップによる前売券の発券、企業等が発行する印刷物・ホームページへの展覧会情報の掲載等、企業との連携を進めた。

- ①朝日新聞グループ 朝日友の会、(株)阪急阪神カード、(株)京阪カード及び大阪市交通局の情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに割引を実施した。
- ②近隣ホテルと連携し、広報誌への情報掲載及びホームページのリンク等を実施した。
- ③「Osaka メセナカード」と連携し、カードの普及広報を行った。
- ④近畿地方整備局の中之島活性化実行委員会に協力するとともに、同委員会の実行企業である京阪電鉄の広報誌において、展覧会及びイベントの広報を行った。

国立新美術館では、外部協力者（参与）と連携し、外部資金の募集活動を行い、コンサート事業等の支援を目的に、企業から協賛金を受け入れた。また、企業協賛金を活用した事業として、託児サービスや J A C（Japan Art Catalog）プロジェクトにより、海外の日本美術の研究拠点 4 箇所へ国内で開催された展覧会図録を寄贈した。

(オ) その他

東京国立近代美術館本館・工芸館では、近代美術協会と協力し平成 24 年 1 月 2 日（月）の無料及び特別割引観覧を実施した。美術館所蔵作品展（2F-4F）「近代日本の美術」及び美術館ギャラリー4（2F）「ヴァレリオ・オルジャティ展」、工芸館所蔵作品展「人間国宝と近代工芸の名品」の観覧料は無料とし、特別展「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」展は特別割引を実施した。また、本館及び工芸館の来館者には図録及びオリジナルグッズのプレゼントした。（入館者数 本館 1,976 人、工芸館 2,186 人）

また、東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、東京都が実施する「家族ふれあいの日」事業に参加し、子ども連れ家族来館者の観覧料（フィルムセンターは 7 階展示室）を無料または割引にした。

③ 映画フィルム・資料を活用した教育普及活動

平成 23 年度で京都国立近代美術館との共同開催による映画の上映会は 5 年目を迎えたが、本年度は昨年度と同様、京都国立近代美術館の講堂を会場に「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」を開催し、国や地域、ジャンル別に 5 つの小特集を 19 プログラム（58 本）に構成して上映を行った。次年度以降も年に数回の上映を継続的に行うことを予定している。

「第 3 回中之島映像劇場 全体芸術の試み 無声映画+音楽演奏+弁士の語り—東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品による—」は、平成 22 年度より国立国際美術館が始めた表題の事業を、年 1 回フィルムセンターとの共催により行っているものだが、これにより、京都国立近代美術館との共催事業である「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」とともに、関西においてフィルムセンター所蔵作品を定期的上映する拠点の形成に寄与している。また平成 23 年度は、活弁・伴奏付き上映により、無声映画上映の現代的な再現を試みるとともに、プログラムの配布や森下明彦客員研究員による上映前の解説を通じて、無声映画への観客の理解を一層促進することができた。

（5）調査研究成果の美術館活動への反映

① 調査研究一覧

ア 東京国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
岡本太郎に関する調査研究	「岡本太郎」展を開催しカタログを発行	川崎市岡本太郎美術館
パウル・クレーに関する調査研究との共同研究	「パウル・クレー」展を開催しカタログを発行	クレー財団（スイス）、京都国立近代美術館
イケムラレイコに関する調査研究	「イケムラレイコ」展を開催しカタログを発行	三重県立美術館
近代洋画における裸体表現の調査研究	「ぬぐ絵画」展を開催しカタログを発行	
ジャクソン・ポロックに関する調査研究	「ジャクソン・ポロック」展を開催しカタログを発行	愛知県美術館
レオ・ルビンファインに関する調査研究	「レオ・ルビンファイン展」を開催しカタログを発行	
ヴァレリオ・オルジャティに関する調査研究	「ヴァレリオ・オルジャティ」展を開催しカタログを発行	チューリッヒ工科大学
1960～70年代のビデオ・アート：作品の所在調査とデータ・ベース構築	データ・ベース「eizo-1960-70年代の日本における美術家のフィルムとビデオ」を構築	京都国立近代美術館
鑑賞教育に関する美術館と学校の連携や、学校の授業と美術館での鑑賞の連続性に関する調査研究	小・中学校の受入や、「クレー」展、「ポロック展」での連続授業の取り組みへ反映させた	東京都図画工作研究会、東京都中学美術研究会
「対話による意味生成的な美術鑑賞教育の地域カリキュラム開発」	地域カリキュラムのモデル制作を通じて、作品選択や授業検証へ反映させた	帝京科学大学、国立教育政策研究所、他
人間国宝の作品	「人間国宝と近代工芸の名品」展を開催	文化庁、フィルムセンター
黒田辰秋	作品調査と東京国立近代美術館の普及	ミュンスター・漆芸博物館
明治期に海外流出した近代工芸作品の調査	近代初頭の工芸の展開の検証と作品収集及び展示への活用	フィラデルフィア美術館、ボルチモア美術館、国立自然史博物館、フリーア美術館
近代日本工芸の系譜	近代日本工芸および東京国立近代美術館の普及	文化庁、フィレンツェ・ピッティ宮殿銀器博物館
杉浦非水の作品および関連資料の分類体系とその整理方法に関する調査研究	作品および資料整理	愛媛県立美術館、宇都宮美術館

東アジア地域のデザインにみる交流に関する歴史的研究：中国、台湾、韓国、日本	平成24年度に「越境する日本人」展を開催	埼玉大学、津田塾大学、ロンドン芸術大学
社会システム＜芸術＞とその変容：現代における視覚文化/美術の理論構築	基礎研究	首都大学東京
彫金の作家表現に関する調査研究	「増田三男 清爽の彫金」展を開催	早稲田大学會津八一記念館
織の現代的表現に関する調査研究	「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展を開催	京都国立近代美術館
イタリアの現代陶芸に関する調査研究	「イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師－グェッリーノ・トラモンティ」展を開催	山口県立萩美術館・浦上記念館、西宮市大谷記念美術館、瀬戸市美術館
染織作品の鑑賞方法や美術館教育のあり方の調査研究	「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展を開催	東京家政大学、実践女子大学
ガラス作品の制作体験によって児童・生徒がより質の高い作品理解を得るための鑑賞教育のあり方に関する調査研究	「ガラス★高橋禎彦」展を開催	多摩美術大学
二十世紀イタリア芸術における前衛と古典回帰とモダニズムに関する研究	国立新美術館で「シュルレアリスム展－パリ、ポンピドゥセンター所蔵作品による」を開催しカタログを発行	パリ・ポンピドゥセンター、ミラノ・形而上芸術アーカイブ
海外のフィルム・アーカイブの映画保存庫ならびに保存活動に関する調査研究	ユネスコ「世界視聴覚文化遺産を日」記念特別イベント「映画はどこで、どをよように保存されているのか 日／米ナショナル・フィルム・アーカイブからを報告」を開催	
吉村公三郎監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 吉村公三郎」を開催	
新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究	上映会「よみがえる日本映画 vol.2 [東映篇]」「よみがえる日本映画vol.3 [新東宝篇]」を開催	
新たに復元された映画とその作者、技術フォーマットや時代背景に関する調査研究	基礎研究	
現代欧州映画に関する研究	上映会「EUフィルムデーズ2011」を開催	駐日欧州連合代表部、EU加盟国大使館・文化機関
森一生監督に関する調査研究	上映会「生誕百年 映画監督 森一生」を開催	
過去2年間に逝去した映画人に関する調査研究	特集「逝ける映画人を偲んで 2009-2010」を開催	
無声映画に関する調査研究	上映会「シネマの冒険 闇と音楽 2011」を開催	
俳優・香川京子に関する調査研究	上映会・展覧会「映画女優 香川京子」を開催	
現代フランス映画に関する調査研究	上映会「現代フランス映画の肖像 2－ユニフランス寄贈フィルム・コレクションより」を開催	
文化庁工芸技術記録映画に関する調査研究	上映会「日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集を開催	文化庁
映画館週報やパンフレット等日本独自の映画資料に関する調査研究	展覧会「映画パンフレットの世界」を開催	
日本の映画ポスターとグラフィック芸術の関係についての調査研究	展覧会「日本の映画ポスター芸術」を開催	
「劣化した映画フィルムを安全に複製するプリンター機構の開発」（研究課題番号：23701017、研究代表者：主任研究員板倉史明）	今後の劣化フィルムの保存・復元活動に反映される	

イ 京都国立近代美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
パウル・クレーに関する調査研究	「パウル・クレー—おわらないアトリエ」展を開催。	・パウル・クレー・センター（ベルン） ・チューリヒ大学美術史研究所 ・東京国立近代美術館
我が国における近代洋画を代表する青木繁に関する調査研究	「没後100年 青木繁展—よみがえる神話と芸術」を開催。	・石橋美術館 ・ブリヂストン美術館
メディアアートの先駆者であるモホイ＝ナジ・ラーズローに関する調査研究	「視覚の実験室 モホイ＝ナジ／イン・モーション」展を開催。	・神奈川県立近代美術館 ・DIC川村記念美術館
京都を代表する染織家・北村武資に関する調査研究	「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展を開催。	
平成18年以降収集を進めてきた創作版画家・川西英の旧蔵コレクションに関する調査研究	「川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに」を開催。 「夢二とともに」展のカタログを「所蔵作品目録IX」として刊行。	
我が国における1920年代前衛美術の先駆者・村山知義に関する調査研究	平成24年度に「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」展を開催予定。	・神奈川県立近代美術館 ・高松市美術館 ・世田谷美術館
子どもを対象とした鑑賞教育に関する研究	平成24年度に「すべての僕が沸騰する—村山知義の宇宙—」展で実施予定。	
「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の脱—, 超—領域的作用史の基盤研究」	「『織』を極める 人間国宝 北村武資」展で「伝統」をテーマにしたシンポジウムを開催。	
「装飾とデザインのジャポニスム—西欧におけるその概念形成と実作の研究」	平成24年度に「KATAGAMI Style—もうひとつのジャポニスム」展を開催予定。	・日本女子大学
「イディッシュ語文化圏における芸術活動の調査研究」	研究成果の一部を平成24年度に開催予定の「KATAGAMI Style—もうひとつのジャポニスム」展で発表予定。	・大阪大学
「オーラルヒストリーによる1960年代前衛美術研究の再構築」	開館50周年記念事業の準備に向け、過去当館で行われた主要な講演会の映像記録のデータ化を、昨年に続いて実施。	・広島市立大学

ウ 国立西洋美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
古代ギリシャにおける身体表現についての調査研究（大英博物館、神戸市立博物館との共同研究）	「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美」を開催。同展のカタログを刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施。	大英博物館、神戸市立博物館
ゴヤに関する調査研究（プラド美術館との共同研究）	「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展を開催。同展のカタログを刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施。	プラド美術館
ユベール・ロベール及び18世紀のフランス風景画をめぐる美学的展開に関する調査研究（ヴァランス美術館、静岡県立美術館、福岡市美術館との共同研究）	「ユベール・ロベール—時間の庭」展を開催。同展のカタログを刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施。	ヴァランス美術館、静岡県立美術館、福岡市美術館
旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究	収集、作品・文献調査、常設展・企画展、刊行物、講演発表、解説等。	
中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究	収集、作品・文献調査、常設展・企画展、刊行物、講演発表、解説等。	
所蔵版画作品に関する調査研究	収集、作品・文献調査、常設展・企画展、刊行物、講演発表、解説等。	

美術館教育に関する調査研究	教育普及プログラムを実施。ワークシート等制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説（企画展作品解説パネル制作等）	
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究	教育普及プログラムを実施。文献や図面の調査。シンポジウムの開催。	
「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究	国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築、整備。	
美術館の機関アーカイブズに関する調査研究	美術資料の提供事業。	
レンブラントおよびレンブラント派における和紙による版画素描作品の研究	「レンブラント 光の探求/闇の誘惑」展を開催。同展のカタログを刊行、新聞等への掲載、講演会等による発表を実施。震災の影響で開催されなかったシンポジウムの講演テキストを編集した報告書の作成。	
西洋近世版画史の一時資料調査	収集、作品・文献調査、常設展・企画展、刊行物、講演発表、解説等。	
クロスセクション上でのメディウムの染色法の改善	所蔵作品の保存のための基礎資料。	
民間資金を活用した美術館における教育普及プログラム実践に向けた研修	教育普及活動展開のための基礎資料。	

エ 国立国際美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
森山大道に関する調査研究	「オン・ザ・ロード 森山大道写真」展を開催	
桑山忠明に関する調査研究	「WHITE 桑山忠明 大阪プロジェクト」展を開催	
草間彌生に関する調査研究	「草間彌生 永遠の永遠の永遠」展を開催	
工藤哲巳に関する調査研究	平成25年度に展覧会を開催予定	
メディアアート（束芋）に関する調査研究	「束芋：断面の世代」（平成22年度開催） 「ベネチア・ビエンナーレ」展の開催	
メディアアート（アンリ・サラ）に関する調査研究	「アンリ・サラ」展を開催	
メディアアート（コンピューターネットワークとアートの関係）に関する調査研究	「世界制作の方法」展を開催	
美術館教育に関する研究	美術館、展覧会運営 （ジュニア・セルフガイド作成、びじゅつあー／なつやすみびじゅつあー／びじゅつあーすぺしゃる／ワークショップの企画）	
アジアの現代美術並びに美術館運営に関する調査研究（アジア次世代キュレーター会議での共同研究）	美術館、展覧会運営	アジア次世代キュレーター会議
展示における所蔵作品の活用方法についての調査研究	美術館、展覧会運営	大阪市立近代美術館建設準備室

オ 国立新美術館

調査研究テーマ	美術館活動への反映	連携機関
日本の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2011」展を開催。	
海外の現代美術の動向に関する調査研究	「アーティスト・ファイル2011」展を開催。	
シュルレアリスムの起源とその展開についての調査研究	「シュルレアリスム展」を開催。	ポンピドゥー・センター

印象派及びポスト印象派とその時代についての調査研究	「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展」を開催、同展の図録を刊行。	ワシントン・ナショナル・ギャラリー、京都市美術館
セザンヌの芸術と生涯に関する調査研究	「セザンヌ パリとプロヴァンス」展を開催、同展の図録を刊行。	ブティ・パレ美術館
アメリカ合衆国のモダニズム絵画の発生と展開についての調査研究	「モダン・アート、アメリカン」展を開催、同展の図録を刊行。	フィリップス・コレクション
野田裕示の芸術とその展開についての調査研究	「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展を開催、同展の図録を刊行。	
柴田敏雄の芸術とその展開についての調査研究	「与えられた形象 辰野登恵子／柴田敏雄」展の開催準備(東日本大震災の影響により、開催を平成24年度に延期)。	
辰野登恵子の芸術とその展開についての調査研究	「与えられた形象 辰野登恵子／柴田敏雄」展の開催準備(東日本大震災の影響により、開催を平成24年度に延期)。	
美術館の教育普及事業(ワークショップ、鑑賞ガイド等)に関する調査研究	教育普及事業	
日本の近現代美術資料に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
戦後の日本の美術館における展覧会データの収集及び公開に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
美術情報の収集・提供システムに関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築に関する調査研究	美術資料の収集・提供事業	

② 展覧会カタログの執筆

ア 東京国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
「はじめに」、章解説、メインテキスト、年表、参考文献	美術課長・蔵屋美香	「ぬぐ絵画—日本のヌード 1880-1945」
「ジャクソン・ポロック Good Art」、作品解説	企画課長・中林和雄	「生誕百年 ジャクソン・ポロック」
編集・構成・文責「イケムラレイコへのロングインタビュー」「なぜ彼女たちは匍匐するのか?『古事記』とエコロジーを手がかりに」	主任研究員・保坂健二郎	「イケムラレイコ うつりゆくもの」
構成・翻訳「ヴァレリオ・オルジャティへのインタビュー」「インタビューを終えて」	主任研究員・保坂健二郎	「ヴァレリオ・オルジャティ」
「『彼ら』と『私たち』」	主任研究員・増田玲	「レオ・ルビンファイン 傷ついた街」
翻訳(独日)マイエン・ベックマン「光と影」ほか3篇	副館長・松本透	「イケムラレイコ うつりゆくもの」
「増田三男 命ある模様を刻む」	主任研究員・木田拓也	『増田三男 清爽の彫金—そして、富本憲吉』展カタログ
「原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの」	主任研究員・木田拓也	『原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの』展カタログ
「ラディカルな織—北村武資の羅と造形思考」	主任研究員・今井陽子	『「織」を極める 人間国宝 北村武資』展カタログ
「用語解説」	主任研究員・今井陽子	『「織」を極める 人間国宝 北村武資』展カタログ

「年譜」	客員研究員・内藤裕子	『原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの』展カタログ
「主要参考文献」	客員研究員・内藤裕子	『原弘と東京国立近代美術館：デザインワークを通して見えてくるもの』展カタログ
「グェッリーノ・トラモンティの陶作品から得られるものとは—イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展によせて」	工芸課長・唐澤昌宏	『イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展』カタログ
「章解説」	工芸課長・唐澤昌宏	『イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展』カタログ
「映画を射抜いた《眼》—日本の映画ポスター試論」	主任研究員・岡田秀則	「日本の映画ポスター芸術」カタログ
「ATGのブランド・カラーは、黒です」デザイナー・檜垣紀六氏インタビュー	主任研究員・岡田秀則 [聞き手・構成]	「日本の映画ポスター芸術」カタログ
「デザインと映画をめぐって」奈良義巳氏インタビュー	主任研究員・岡田秀則 [聞き手・構成]	「日本の映画ポスター芸術」カタログ

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
展覧会への序章	主任研究員・池田祐子 ヴォルフガング・ケルステン (チューリヒ大学教授) 三輪健仁 (東京国立近代美術館・研究員)	パウル・クレール—おわらないアトリエ
アトリエ絵画	主任研究員・池田祐子 (ヴォルフガング・ケルステン氏執筆のドイツ語原文翻訳)	パウル・クレール—おわらないアトリエ
ミュンヘンのアトリエ写真	主任研究員・池田祐子	パウル・クレール—おわらないアトリエ
油彩転写素描	主任研究員・池田祐子 (ヴォルフガング・ケルステン氏執筆のドイツ語原文翻訳)	パウル・クレール—おわらないアトリエ
切断という創造的行為	主任研究員・池田祐子 (ヴォルフガング・ケルステン氏執筆のドイツ語原文翻訳)	パウル・クレール—おわらないアトリエ
年譜	主任研究員・池田祐子 三輪健仁 (東京国立近代美術館・研究員)	パウル・クレール—おわらないアトリエ
作品リスト	主任研究員・池田祐子	パウル・クレール—おわらないアトリエ
「青木繁」再考—美術史上における視点から	学芸課長・山野英嗣	没後100年 青木繁展—よみがえる神話と芸術
出品目録／作品解説	学芸課長・山野英嗣 上野健造 (石橋美術館・学芸員) 貝塚健 (ブリヂストン美術館・学芸員) 森山秀子 (石橋美術館・学芸課長)	没後100年 青木繁展—よみがえる神話と芸術
視ることのダイナミズム—モホイ＝ナジの映画と写真	研究員・牧口千夏 (アンドレアス・ハウス氏執筆の英語原文翻訳)	視覚の実験室 モホイ＝ナジ / イン・ムーション
北村武資氏の軌跡, 「織」を極める	主任研究員・松原龍一	「織」を極める 人間国宝 北村武資

<川西英コレクション>について	学芸課長・山野英嗣	川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに
<川西英コレクション>と柳屋	研究員・中尾優衣	川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに
<川西英コレクション>主要作家紹介	学芸課長・山野英嗣 研究補佐員・川井遊木	川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに
<川西英コレクション>所蔵目録	研究員・中尾優衣 研究補佐員・池澤茉莉	川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
古代ギリシャ美術と人体表現	館長・青柳正規	「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体, 完全なる美」
ディスコボロスの受容	研究補佐員・飯塚隆	「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体, 完全なる美」
「みんな落ちるだろう」—ゴヤにおける墜落のイメージ	学芸課長・村上博哉	「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展
「時間の庭の詩人—ユベール・ロベール」	主任研究員・陳岡めぐみ	「ユベール・ロベール—時間の庭」展
関連年表（編）	主任研究員・陳岡めぐみ	「ユベール・ロベール—時間の庭」展

エ 国立国際美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
森山大道 オン・ザ・ロード	主任研究員・中西博之	「オン・ザ・ロード 森山大道写真展」
「WHITE 大阪プロジェクト」が意味するもの	主任研究員・安來正博	「WHITE 桑山忠明 大阪プロジェクト」
世界制作の方法	主任研究員・中井康之	「世界制作の方法」
永遠の道程 —草間彌生のゼロ年代絵画を巡って—	主任研究員・安來正博	「草間彌生 永遠の永遠の永遠」

オ 国立新美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	展覧会名
「アメリカ人と印象派」	主任研究員・平井章一	「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション」
「モダン・アートの周辺—初期のコレクターと美術館」	主任研究員・西野華子	「モダン・アート, アメリカン—珠玉のフィリップス・コレクション—」
「『絵画のかたち／絵画の姿』野田裕示の歩み」	副館長・福永治	「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」
「『肖像の〈かたち〉』」	副館長・福永治	「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」
「『皮膚としてのカンヴァス, 絵画の向こう側』」	主任研究員・本橋弥生	「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」
「『セザンヌからマチスへ—《3人の水浴の女たち》を手がかりに』」	主任研究員・長屋光枝	「セザンヌ—パリとプロヴァンス」

「セザンヌの岩石画をめぐる」	アソシエイトフェロー・工藤弘二	「セザンヌーパリとプロヴァ ンス」
----------------	-----------------	----------------------

③ 研究紀要の執筆

ア 東京国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「資料紹介 上村松園の作品における落款について」	主任研究員・中村麗子	『東京国立近代美術館研究紀要』第16号	2012年3月
日本の美術館界における年史編纂物—東京国立近代美術館アートライブラリ所蔵図書にみる	研究補佐員・渡邊美喜	『東京国立近代美術館研究紀要』第16号	2012年3月

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「占領期におけるGHQのフィルム検閲—所蔵フィルムから読み解く認証番号の意味」	主任研究員・板倉史明	『東京国立近代美術館研究紀要』第16号	2012年3月31日

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
マルセル・デュシャンのレディメイド, 《泉》をどのように語るか	特任研究員・河本信治	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
<川西英コレクション>に見る, 川西英と竹久夢二	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
20世紀初頭ウィーンにおける美術と美術教育—フランス・チゼックの活動と1908年クンスト Schau を中心に	研究補佐員・川井遊木	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
ニューヨーク近代美術館による美術鑑賞法—Visual Thinking Strategy の発祥とその背景	研究補佐員・朴鈴子	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
パリ日本文化会館におけるシンポジウム「東西文化の磁場」について	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
レオナルド・フジタ (藤田嗣治) と日本	館長・尾崎正明	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
パリで開催された2つの万国博覧会と近代日本工芸 1900-1930年	主任研究員・松原龍一	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
笠原恵実子—inside/outside.....新収蔵作品を中心に	研究員・牧口千夏	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
活動報告: 野島康三展 (ジュゼッペ・パニーニ写真美術館) はじめに	主任研究員・池田祐子	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日
野島コレクションの位置	特任研究員・河本信治	京都国立近代美術館研究論集 CROSS SECTIONS —Vol.4	2012年2月20日

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
アルブレヒト・デューラーの芸術様式—その内面における二極性について—	獨協大学准教授・青山愛香	国立西洋美術館研究紀要 No. 16	2012年3月31日
アントニオ・ベルッチのイギリス時代の下絵—旧松方コレクション2作品の作者の同定—	京都造形芸術大学准教授・河上眞理	国立西洋美術館研究紀要 No. 16	2012年3月31日
カミーユ・ピサロ作《収穫》に見られる技法について	研究補佐員・高嶋美穂	国立西洋美術館研究紀要 No. 16	2012年3月31日

④ 館ニュース等の執筆

ア 東京国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「夏休み！こども美術館」—「鑑賞+表現」プログラムの位置づけ	主任研究員・一條彰子	『現代の眼』591号	2011年12月
『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMAT ガイドスタッフ活動の記録 2002-2011』	研究補佐員・藤田百合, 主任研究員・一條彰子	『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMAT ガイドスタッフ活動の記録 2002-2011』	2012年3月
「古賀春江の《海》はどこの海？」	主任研究員・大谷省吾	『現代の眼』588号	2011年6月
「重力と女性像—日本近代彫刻の転換点」	主任研究員・鈴木勝雄	『現代の眼』591号	2011年12月
「マチュールの背後に見えるもの—香月泰男の《告別》を中心に」	主任研究員・都築千重子	『現代の眼』587号	2011年4月
「作品研究 細川護立氏「談話『作品と人』」再読—菱田春草晩年作に関して」	主任研究員・鶴見香織	『現代の眼』589号	2011年8月
「『修復・表現』について	主任研究員・鶴見香織, 主任研究員・三輪健仁	『現代の眼』591号	2011年12月
構成・文責「ヴァレリオ・オルジヤティへのインタビュー」	主任研究員・保坂健二郎	『現代の眼』590号	2011年10月
「特集展示 描かれたダリヤ」	主任研究員・保坂健二郎	『現代の眼』592号	2012年2月
「平成22年度の新収蔵作品（美術作品）について」	主任研究員・増田玲	『現代の眼』588号	2011年6月
「[特集展示]神原泰 詩と絵画の平行現象」	研究員・榊田倫広	『現代の眼』590号	2011年10月
「[国際会議参加報告]新しい美術書誌情報の潮流—美術図書館横断検索 (artlibraries.net / NYARC) と刷新される二次情報ツール(FAB / IBA)のこと	主任研究員・水谷長志	『現代の眼』588号	2011年6月
文化庁による工芸技術記録と作家たち	主任研究員・諸山正則	『現代の眼』591号	2011.12-2012.1
記録映画『日本の美術工芸』に表された日本工芸の抒情	主任研究員・諸山正則	「NFC ニューズレター」第100号	2011.12-2012.1
「[作品研究] 鈴木長吉の《十二の鷹》—なぜ、日本の鷹狩りは世界無形文化遺産に登録されなかったのか...」	主任研究員・木田拓也	『現代の眼』第588号	2011年6月
「展覧会予告：『織』を極める 人間国宝 北村武資」	主任研究員・今井陽子	『現代の眼』第590号	2011年10-11月
「北村武資の仕事—経錦」	主任研究員・今井陽子	『現代の眼』第592号	2012年2-3月
「[作品研究] ルーシー・リー《コーヒー・セット》	客員研究員・内藤裕子	『現代の眼』第587号	2011年4-5月

「一九四六年の頃、原弘先生と・・・。」	客員研究員・内藤裕子	『現代の眼』第592号	2012年2-3月
展覧会予告「グェッリーノ・トラモンティ展」	工芸課長・唐澤昌宏	『現代の眼』第587号	2012年4-5月
「平成22年度の新収蔵作品（工芸作品）について」	工芸課長・唐澤昌宏	『現代の眼』第588号	2011年6-7月
「『イタリア・ファエンツァが育んだ色の魔術師—グェッリーノ・トラモンティ展』によせて」	工芸課長・唐澤昌宏	『現代の眼』第589号	2011年8-9月

(フィルムセンター)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
吉村公三郎監督のこと—1980年、京橋	フィルムセンター主幹・岡島尚志	「NFCニューズレター」第96号	2011年4月1日
「フィルムセンター相模原分館・映画保存棟II」竣工の意味するもの	フィルムセンター主幹・岡島尚志	「NFCニューズレター」第97号	2011年6月1日
アフリカの映画保存—“インディジェナス・コレクション”という端緒、あるいはその可能性について (FIAF プレトリア会議報告)	フィルムセンター主幹・岡島尚志	「NFCニューズレター」第98号	2011年8月1日
「映画女優 香川京子」—NFCの特集、東京国際映画祭での上映、FIAF 賞受賞	フィルムセンター主幹・岡島尚志	「NFCニューズレター」第99号	2011年10月1日
『NFCニューズレター』の16年—成果と意義	フィルムセンター主幹・岡島尚志	「NFCニューズレター」第100号	2011年12月1日
その場所に明治ありて—『小林富次郎葬儀』が誘う時代と町	主任研究員・榎木章(執筆者名=とちぎあきら)	『NFCニューズレター』第97号	2011年6月11日
祝祭と復興—第30回ポルデノーネ無声映画祭報告	主任研究員・榎木章(執筆者名=とちぎあきら)	『NFCニューズレター』第100号	2011年12月11日
『忠次旅日記』のデジタル復元	主任研究員・板倉史明	「NFCニューズレター」第98号	2011年8月1日
デビューは牧野周一、山地幸雄、松田春翠の前座で『チャップリンのスケート』 澤登翠氏インタビュー	主任研究員・入江良郎 [聞き手・構成]	「NFCニューズレター」第98号	2011年8月1日
60年の女優生活を振り返って 香川京子氏インタビュー	主任研究員・入江良郎・岡田秀則 [聞き手・構成]	「NFCニューズレター」第99号	2011年10月1日
現代フランス映画のもう一つの肖像2	研究員・赤崎陽子	「NFCニューズレター」第101号	2012年2月1日
ナント三大陸映画祭「日活100年特集」報告	研究員・赤崎陽子	「NFCニューズレター」第101号	2012年2月1日
来た、見た、買った—映画パンフレット小論	主任研究員・岡田秀則	「NFCニューズレター」第97号	2011年6月1日
微笑みとときめき 展覧会「映画女優 香川京子」をめぐって	主任研究員・岡田秀則	「NFCニューズレター」第99号	2011年10月1日
紙々の黄昏—ノンフィルム資料の修復	主任研究員・岡田秀則	「NFCニューズレター」第99号	2011年10月1日
映画を射抜いた《眼》—日本のポスター試論	主任研究員・岡田秀則	「NFCニューズレター」第101号	2012年2月1日

イ 京都国立近代美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
上村松園と鏑木清方	館長・尾崎正明	京都国立近代美術館ニュース 視る 451号	2011年11月25日
講演録：パウル・クレー 画のための仕事 (ヴォルフガング・ケルステン氏による「パウル・クレー」展記念講演会講演録)	主任研究員・池田祐子	京都国立近代美術館ニュース 視る 453号	2011年9月20日
新たな「青木繁像」を求めて	学芸課長・山野英嗣	京都国立近代美術館ニュース 視る 454号	2012年2月1日

ウ 国立西洋美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体, 完全なる美	研究補佐員・飯塚隆	ZEPHYROS 第47号	2011年5月20日
小企画展「奇想の自然—レンブラント以前の北方版画」	研究員・新藤淳	ZEPHYROS 第47号	2011年5月20日
2010年度新収蔵作品 ジョヴァンニ・パオロ・パニーニ 《古代建築と彫刻のカプリッチョ》	主任研究員・高梨光正	ZEPHYROS 第47号	2011年5月20日
プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影	学芸課長・村上博哉	ZEPHYROS 第48号	2011年8月20日
報告：国立西洋美術館（ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—）の世界文化遺産登録について	副館長・秋葉正嗣	ZEPHYROS 第48号	2011年8月20日
報告：新収蔵作品について	学芸課長・村上博哉	ZEPHYROS 第49号	2011年11月20日
報告：所蔵作品について	主任研究員・高梨光正	ZEPHYROS 第49号	2011年11月20日
小企画展「ウィリアム・ブレイク版画展」	研究員・中田明日佳	ZEPHYROS 第49号	2011年11月20日
トピックス：Touch the Museum ver.2.0 のリリース	研究員・新藤淳	ZEPHYROS 第49号	2011年11月20日
ユベール・ロベール—時間の庭	主任研究員・陳岡めぐみ	ZEPHYROS 第50号	2012年2月20日
ピラネージ『牢獄』展	主任研究員・渡辺晋輔	ZEPHYROS 第50号	2012年2月20日

エ 国立国際美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
風穴 もうひとつのコンセプト アリズム, アジアから 展示日記	研究員・橋本 梓	国立国際美術館ニュース 第183号	2011年4月1日
館蔵品紹介《雨の山》イサム・ノグチ	主任研究員・植松由佳	国立国際美術館ニュース 第183号	2011年4月1日
工藤哲巳入門(一) 一枚の写真から	学芸課長・島 敦彦	国立国際美術館ニュース 第184号	2011年6月1日
美術館は川	館長・山梨俊夫	国立国際美術館ニュース 第185号	2011年8月1日

工藤哲巳入門(二) 生い立ち,そして反教育へ	学芸課長・島 敦彦	国立国際美術館ニュース 第185号	2011年8月1日
「世界制作の方法」展について	主任研究員・中井康之	国立国際美術館ニュース 第186号	2011年10月1日
「アンリ・サラ」展	主任研究員・植松由佳	国立国際美術館ニュース 第186号	2011年10月1日
館蔵品紹介《滝の絵》会田誠	研究員・橋本 梓	国立国際美術館ニュース 第186号	2011年11月1日
草間彌生回顧展,マドリード会場からの報告	主任研究員・安來正博	国立国際美術館ニュース 第187号	2011年12月1日
第五四回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館報告(一)	主任研究員・植松由佳	国立国際美術館ニュース 第187号	2011年12月1日
工藤哲巳入門(三) 木の根からの出発	学芸課長・島 敦彦	国立国際美術館ニュース 第187号	2011年12月1日
光と運動の造形	客員研究員・森下明彦	国立国際美術館ニュース 第188号	2012年2月1日
第五四回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館報告(二)	主任研究員・植松 由佳	国立国際美術館ニュース 第188号	2012年2月1日
工藤哲巳入門(四) 絵画に背を向けて一戦略的自覚の芽生え	学芸課長・島 敦彦	国立国際美術館ニュース 第188号	2012年2月1日

オ 国立新美術館

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名	発行年月日
「研究員レポート 長谷川三郎のカラーージュ-1937年前後の日本における板ガラスをめぐる」	アソシエイトフェロー・谷口英理	『国立新美術館ニュース』No18	2011年5月31日
「デュラン＝リュエルのアメリカー「パリの印象派による油彩とパステルの作品」展」	アソシエイトフェロー・工藤弘二	『国立新美術館ニュース』No19	2011年8月31日
「研究員レポート 展覧会「ヴェルサイユのヴェネ」」	主任研究員・宮島綾子	『国立新美術館ニュース』No19	2011年8月31日
「研究員レポート CIMAM2011報告」	学芸課長・南雄介	『国立新美術館ニュース』No20	2011年11月30日

(6) 快適な観覧環境の提供

① 高齢者,身体障害者,外国人等への対応

平成22年度に引き続き,各館とも次のような対応を実施している。

- ・多目的(身体障害者用)トイレ,エレベータ(エスカレーター),スロープ(手摺り)の設置
- ・車椅子,ベビーカー(国立西洋美術館は除く)の貸出
- ・自動体外式除細動器(AED)の設置

- ・盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・所蔵作品展（常設展），企画展（一部を除く）において，作品リスト（日・英）の配布
- ・国土交通省の実施する「YOKOSO! JAPAN WEEKS 2012」に参加し，外国人旅行者の所蔵作品展観覧料の割引等を実施
- ・観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）用の設備を設置
- ・キャプションに英語表記を併記
- ・英語版ホームページの公開
- ・東京国立近代美術館（フィルムセンターは平成23年12月より），国立西洋美術館においては，東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引

東京国立近代美術館本館では，4月より，所蔵作品展「近代日本の美術」英語版音声ガイドの運用を開始した。また24年度の所蔵作品展リニューアルに向け，当館ガイドスタッフ，看守スタッフへの改善点のヒアリングを行った。

また，フィルムセンターにおいては，平成23年11月よりベビーカーの貸出しを始めた。（1台）

- ・国立国際美術館においては，貸出用拡大鏡16個を設置し，授乳室及び安全仕様のキッズルームを地下1階に設置し，幼児向け絵本400冊を常設した。
- ・国立新美術館においては，授乳室（B1）の設置，点字ブロック（正門から正面入口，地下鉄口から西入口），インターホンを設置，点字表示（エレベータ内他）の設置，補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置（専用受信機10台），ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示，身体障害者用駐車場を設置，文字を大きくし，見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」を館内配布した。

また，託児サービスを実施し，利用者の意見に応え平成23年度途中より実施回数を月2回から3回へ増やした。

② 展示，解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット，フロアプラン，ミュージアムカレンダー等の配布

その他，東京国立近代美術館本館においては，所蔵作品展で「重要文化財」のキャプション表示の追加やホームページに重要文化財作品の特設解説ページを引き続き設置するとともに，所蔵作品展のための英語版音声ガイドの運用を開始した。

また，工芸館では，キャプションサイズの拡大，作品名のふりがな及び素材・技法を記載した。

フィルムセンターでは，展覧会の開催に際し，展示作品の出品目録の配布（3回）とともに，常設展「NFC コレクションでみる 日本映画の歴史」において，児童・生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」を配布した。また，月1回のギャラリートークを実施し，「特別出品コーナー」を設置し，期間限定で貴重な映画資料を展示できるようにした。

国立西洋美術館においては，平成23年度も引き続き「ジュニア・パスポート」，国立西洋美術館本館の建築探検マップ（日・英・仏・韓・中），常設展ガイドとして利用できる iPhone/iPod，

Android 端末専用アプリ「Touch the Museum」の無料配布を行った。また、企画展の解説パネルを、見易いように拡大文字の冊子に加工し、展示室内に配置したほか、版画展開催の際、版画の技法を説明した小冊子を展示室内に配置した。

また、平成 23 年度の新たな実施事項としては、ユベール・ロベール展で、作品リストに代わり挿図入りの章解説シート（日・英）を作成し、会場配布（希望者には作品リストも配布）した。

国立国際美術館においては、作品紹介キャプションをより見やすくするよう努めた。

国立新美術館においては、「モダン・アート、アメリカン ー珠玉のフィリップス・コレクション」展 鑑賞ガイド『アメリカ「都会と自然」, 「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展 鑑賞ガイド『アートのとびら 国立新美術館ガイドブック Vol.6』(日英併記)を配布した。

また、「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展では、『野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿を楽しむヒント』を配布した。

③ 入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日、国立新美術館を除く）及び国際博物館の日（5月18日、東京国立近代美術館フィルムセンターの上映会を除く。）の所蔵作品展（常設展）や（国立新美術館）の観覧料を無料にするるとともに、夜間開館の実施、年始やゴールデンウイーク等休館日の臨時開館を実施した。また、所蔵作品展及び自主企画展の高校生以下及び18歳未満の者の観覧料の無料化についての周知に努めた。

その他平成 23 年度の各館の取組は以下のとおりである。

（ア）東京国立近代美術館

- ・開館60周年を記念して、誕生日当日の来館者（誕生日を証明できるものを提示）に対して所蔵作品展及び企画展すべての無料観覧を実施
本館：平成24年2月3日～平成25年1月14日
工芸館：平成24年2月7日～平成25年1月14日
フィルムセンター：平成24年2月7日～平成25年2月3日（上映を含む）
- ・本館では、年始は1月2日から開館し、図録やオリジナルグッズをプレゼント
- ・本館では、東京地下鉄株式会社主催のウォーキングイベント「東京まちさんぽ」（11月20日）に参加し、ウォーキングマップ持参者には所蔵作品展及び「麻生三郎展」の一般観覧料金を割引
- ・本館、工芸館では、東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・本館では、共催展においてペア観覧券等による観覧料割引
- ・「生誕 100 年 ジャクソン・ポロック展」が平成 23 年 6 月に創設された政府補償制度の適用を受け、借用作品に係る保険料が政府補償により軽減されることとなったため、国民への還元策として平成 24 年 2～4 月の日曜日（12 日間）及び祝日（3 日間）の 15 日間について、高校生入場料を無料とした。

（イ）京都国立近代美術館

- ・関西文化の日（11月19日、11月20日）の所蔵作品展観覧料の無料化
- ・京都市駐車場公社と連携による駐車場料金の割引

（ウ）国立西洋美術館

- ・「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展が 23 年 6 月に創設された政府補償制度の適用第 1 号の展覧会となり、借用作品に係る保険料が政府補償により軽減されることと

なったため、国民への還元策として23年12月20日から24年1月9日の15日間について、高校生入場料を無料とした。

- ・「東京・春・音楽祭」（主催：音楽祭実行委員会）に協力し、講堂で「ミュージアム・コンサート」（平成23年4月5日）を開催し、「レンブラント 光の探求／闇の誘惑」展との共通観覧券を販売
- ・「国際博物館の日」（平成23年5月18日）について、上野地区の諸機関や商業施設等と連携し、スタンプラリーや展覧会半券の提示によるサービス提供などの事業に参加。常設展を無料観覧日とし、ランチタイムガイドツアー（ボランティアによる常設展ガイドツアー）を実施
- ・「夏休み子ども音楽会2011《上野の森文化探検》」（主催：東京文化会館（東京都歴史文化財団）ほか）に協力し、音楽会参加者については常設展の観覧料金を無料化（平成23年8月6日）
- ・全国美術館会議の、東日本大震災の発生した3月11日を“忘れてはならない日”として事業を実施することとする呼びかけに賛同し、平成24年3月11日を常設展無料観覧日とした。
- ・共催展においてペア観覧券等による観覧料割引
- ・東日本大震災の影響により、「レンブラント」展及び常設展を臨時で閉室し、開館時間を短縮したため、鑑賞機会を増やすことを目的として、それぞれ5月23日（月）、30日（月）、6月6日（月）を臨時開館した。

(エ) 国立国際美術館

- ・毎月第一土曜日に、所蔵作品展のみ観覧料の無料化（B2F）
- ・関西文化の日（11月19日、20日）に、企画展の観覧料の無料化（B2F）
- ・開館期間中の金曜日に、夜7時まで延長開館を実施

(オ) 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成、配布
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引
- ・東京メトロ、都営地下鉄ワンデーパスによる観覧料割引
- ・ペア観覧券等による観覧料割引
- ・共催展において、高校生無料観覧日の設定を推進
- ・「国際博物館の日」（5月18日）に、「アーティスト・ファイル2011－現代の作家たち」展の観覧料を無料化するとともに、美術団体の協力を得て公募展観覧料の無料化や割引を実施
- ・東日本大震災の影響により、「シュルレアリスム展－パリ、ポンピドゥセンター所蔵作品による－」展、「アーティスト・ファイル2011－現代の作家たち」展の会期を短縮したため、鑑賞機会を増やすことを目的として、それぞれ5月10日に臨時開館するとともに、「シュルレアリスム展」の会期末日を23年5月9日から5月15日へ延長
- ・東日本大震災の被災者について、平成23年4月13日～6月6日の間、「アーティスト・ファイル2011－現代の作家たち」展の観覧料を無料化

- ・開館 5 周年を記念して、平成 24 年 1 月 21 日に「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展および「未来を担う美術家たち DOMANI・明日展 文化庁芸術家在外研修の成果」の観覧料を無料化するとともに、美術団体の協力を得て公募展の観覧料を無料化
- ・「六本木アートナイト 2012」（平成 24 年 3 月 24 日～25 日）において、3 月 24 日の「野田裕示 絵画のかたち／絵画の姿」展の開館時間を 22 時まで延長し、観覧料を無料化

④ キャンパスメンバーズ制度の実施

平成 18 年 12 月に規則を制定し、国立美術館全体の事業として発足した、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、平成 23 年度においてメンバー校は新規 6 校を加え 70 校、各館利用者数は 85,181 名となった。また、平成 22 年度にパソコン版、平成 23 年度にはモバイル版キャンパスメンバーズ特設サイトを開設した。あわせて、サイトを周知するための学内用ポスター及びチラシを作成した。

⑤ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品の図版を使用したポストカードや図柄を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなど広報宣伝を行った。

京都国立近代美術館では、幅広い客層にご満足いただくよう、単価・内容を吟味しつつ、多様な商品を展開するよう取り組むとともに、今年度特別展「北村武資」展に関連し、「染織」の人間国宝、北村武資の作品の文様を使ったグリーティングカード、便箋、クリアファイルなどのオリジナルグッズを開発し、販売を行った。

国立西洋美術館では、販売品の充実のため例年に引き続きオリジナルグッズ新商品の開発を行った。平成 23 年度の主な新商品は以下のとおり。

- 1 本館建物の設計者ル・コルビュジエのデッサンをモチーフにしたクリアファイル (315 円)
- 2 所蔵作品図版を使用した A6 クリアファイル (250 円)
- 3 最新技術の色調校正で作品の色を再現した、所蔵作品図版のオリジナル卓上カレンダー (1,260 円)
- 4 ル・コルビュジエのデッサンをモチーフにしたトートバッグ (2,500 円)

また、レストランでは、ケーキの品揃えを充実させ、12 月からは月替わりで新商品を追加するとともに、各企画展に関連したメニューの開発を行い、好評を博した。

また、京都国立近代美術館では、京都らしさを意識し、旬のものをおいしく提供できるようにメニューの見直しを行うとともに、企画展に合わせたテーマランチやテーマデザートの提供を行った。また、東日本大震災にかかる支援活動としてチャリティコンサートを開催し、集まった募金に開催日の売り上げ金を加え、被災文化財の保全に向けた活動への協力として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団へ送金した。

国立国際美術館では、所蔵作品の絵葉書、封筒、T シャツや、美術館のロゴ入りマグカップ、T シャツ、キーホルダーなどオリジナルグッズの充実のほか、企画展に合わせて、出展作家に関連した書籍、DVD の販売を行い、来館者のニーズに合わせた運営を行った。

国立新美術館では、ショップと連携し、ミュージアムショップ内のギャラリーの展示について企画協力を行った。レストランに対する来館者からの意見等について、業者と協議し、一部メニューの変更を実施した。また、共催展にゆかりのある特別メニューを企画した。「六本木アートナイト 2012」（平成 24 年 3 月 24 日～25 日）においては、3 月 24 日の営業時間を 22

時まで延長し、利用者にオリジナルポストカードのプレゼント企画（ミュージアムショップ）及び特製携帯ストラップのプレゼント企画（レストラン）を実施した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

（1）美術作品の収集

館名		購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末 所蔵作品数	年度末 寄託品数
東京国立近代美術館	本館	42	167,325	125	10,462	226
	工芸館	27	41,995	79	3,067	91
京都国立近代美術館		486	167,037	714	11,006	830
国立西洋美術館		14	569,710	19	4,692	35
国立国際美術館		105	436,178	276	6,686	133
計		674	1,382,245	1,213	35,913	1,315

館名	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	291	274,662	1,479	65,517	8,018

ア 収集作品の特徴

（ア）東京国立近代美術館

（本館）

長期的な収集方針として、おおよそ1900年頃から今日までの、絵画、版画、素描、彫刻立体造形、写真、映像作品の収集しているが、平成23年度は、特に1) 1900-1940年代の日本画作品の収集、2) 1970年代以降の日本人作家の作品の収集の二つの目標を掲げた。このうち前者については、少し年代が早いものの、明治中期を代表する狩野芳崖の作品3点を収蔵することができた。また後者については、洋画家、麻生三郎の作品計18点の受贈が実現し、奈良原一高、中平卓馬はじめ、70年代以降を代表する写真家の作品も多数収蔵することができた。

購入作品については、狩野芳崖の作品3点を収蔵した。とりわけ購入作品《仁王捉鬼図》は、芳崖の代表作の一つで、美術史的にも重文相当と評価される重要作品である。

寄贈作品については、《仁王捉鬼図》の購入に伴い、同じ所蔵家より、狩野芳崖の《桜下勇駒図》《獅子図》の寄贈を受けた。いずれも明治初期から中期の日本画の動向を知るために欠かせない重要作品である。また、(株)コム・デ・ギャルソンより、写真家、中平卓馬の作品64点の寄贈を受けた。企業との協力・連携の事例として特記したい。

（工芸館）

近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図った。特に次の点に留意した。

- ①日本工芸の近代化を示す作品の補完
- ②戦後から現代にいたる伝統工芸やクラフト、造形的な表現の重要作品の収集
- ③近代の茶の湯の工芸を代表する作品の収集
- ④近・現代ヨーロッパの工芸及びデザイン作品の収集

購入作品については、石黒宗麿の伝統作品、日展系の加藤卓男の作品、八木一夫と宮永東山のオブジェ作品など、戦後の陶芸の展開を補完できる作品や、昨年度に続き近代漆芸の重鎮であった松田権六の代表作である棗作品の購入ができた。現代工芸では、注目作家の小川待子と北川宏人（陶磁）、須田賢司（木工）、大角幸枝と畠山耕治（金工）、面屋庄甫（人形）らの

代表作品の収集ができた。国外の工芸作品の収集では、企画展を続けて開催したイタリアの陶芸家のカルロ・ザウリとグェッリーノ・トラモンティの代表作品を購入した。

寄贈作品については、コレクションの主要作家である陶磁の石黒宗麿および人形の野口光彦の多数の重要作品を後援者の遺族より受け入れた。デザイン分野で、プロダクトデザイナーの柴木正敏の主要な作品 15 点（組み）の寄贈を作家より受けた。

（フィルムセンター）

映画フィルムについては、上映企画に合わせたものとして、『竜虎伝』（1947年）など森一生監督作品 6 作品 15 本、溝口健二『近松物語』（1954年）など香川京子主演作品 14 作品 33 本、次年度の上映企画に合わせ、『砂糖菓子が壊れるとき』（1967年）など今井正監督作品 4 作品 8 本、木下恵介監督作品 8 作品 22 本を購入した。ビネガーシンドロームや褪色の危険性が高い 1950 年代後半から 60 年代にかけての作品については、中村登、中島貞夫、工藤栄一監督作品、及び日活製作による大ヒット作品等のプリント購入を行った。企業等の管理下に置かれていないため、散逸や劣化の危険性が著しい非商業映画については、石井聰互監督の初期の代表作『狂い咲きサンダーロード』（1980年）、記録映画作家である佐藤真監督『阿賀の記憶』（2004年）等のプリントを購入した。また、日本アニメーション映画については、木下恵介監督が監修したテレビ用アニメーション映画「赤い鳥のころ 日本名作童話シリーズ」（1979年）全 26 作品の 16 ミリプリントや、近年のアニメーション映画の代表作、今敏監督『PERFECT BLUE』（1998年）の 35 ミリプリントの購入を行った。

寄贈作品については、松本俊夫監督より、劇映画の代表作『薔薇の葬列』（1969年）ほか全 67 本、安藤紘平監督より『通り過ぎる電車のように』（1978年）ほか全 44 本、塚本晋也監督が代表を務める海獣シアターより『鉄男Ⅱ BODY HAMMER』（1992年）ほか全 10 本等の寄贈を受け入れた。映画史上貴重な発見としては、溝口健二監督の日活時代の無声映画『慈悲心鳥』（1927年）の可燃性プリントの断片、1912年の日活創立にあたりトラストを結成した四社の一つで、これまでフィルムの残存が確認されていなかった福寶堂撮影部製作による『明治四十五年四月四日 藤田男爵 葬式の實況』（1912年）の可燃性プリント等がある。また、日本文化・記録映画の原版寄贈については本年度も継続しており、新たな事例としては、有限会社海工房からの門田龍太郎監督『チェチェメニ号の冒険』（1976年）ほか全 105 本の寄贈等がある。

（イ）京都国立近代美術館

平成 24 年度開館 50 周年を迎えるにあたり、館活動の中心をしめる工芸については、海外作品も含め、より新たな視点から収集方針の見直しを行った。特に「工芸」という限られたジャンル設定に捉われないことなく、「デザイン」「建築」などの分野も含めた範囲での収集に努めた。また、継続して購入しているユージン・スミスの写真作品の収集を進めるなど、絵画、写真等、当館を特色づける作品についても調査を継続し、より充実したコレクションの形成に向けて努力した。

さらに、これまで「河井寛次郎」「池田満寿夫」「上野伊三郎・リチ」といった散逸が懸念される貴重な作品群について、一括収集をすすめるとともに、いずれもそれらのコレクションを紹介する展覧会を実施してきた。平成 23 年度においては、平成 18 年度から購入をすすめてきた「川西英コレクション」の収蔵を完了させ、コレクション収蔵を記念する展覧会「川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに」を開催し、これを披露した。これは、当館がすすめる「コレクションと展覧会の連動」という意味においても有益だった。

また、京都における現代版画の重要作家である井田照一の油彩を含めた作品約 300 点が寄贈された。「川西英コレクション」と同様に、このコレクションの収蔵を記念し、披露する展覧会を平成 24 年度に開催する予定である。

(ウ) 国立西洋美術館

平成 23 年度においても、①15 世紀～20 世紀初頭のヨーロッパ絵画の収集、②ドイツ・フランス・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションの充実とともに、③旧松方コレクション作品の情報収集を継続して行った。

購入作品については、16 世紀初頭ヴェネツィアの画家ヴィンチェンツォ・カテーナの作品《聖母子と幼い洗礼者聖ヨハネ》を購入、また16 世紀ヴェネツィアの画家ティツィアーノと工房による作品《洗礼者聖ヨハネの首を持つサロメ》を購入した。

寄贈作品については、個人所蔵家より16～20 世紀の版画18 点の寄贈を受けた。また、画家モーリス・ドニの遺族より、当館所蔵のドニの絵画《雌鳥と少女》のためのスケッチ素描の寄贈を受けた。

(エ) 国立国際美術館

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主として、①1945 年以降の日本の現代美術の系統的収集（日本の戦後美術を跡づける主要作）、②国際的に注目される国内外の同時代の美術の収集をおこなった。

購入作品については、アメリカを代表する作家 アンディ・ウォーホルの晩年の作品や、日本を代表する画家 奈良美智の初期の絵画、平成 21 年度に当館で展覧会を開催したイタリア在住の彫刻家 長澤英俊の近作を購入することができた。

寄贈作品については、反芸術世代を代表する作家の一人である工藤哲巳の初期作品の寄贈を受けたほか、戦後日本を代表するデザイナーである田中一光のポスターを 200 点を寄贈いただき、グラフィックデザインの分野を充実させることができた。

(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 東京国立近代美術館

本館では、狭隘化により生じるほこりの蓄積と虫害の発生を防ぐため、定期的な清掃を行っている。また、写真や紙作品は額からはずして収納し、集密化を進めている。くわえて約 140 点をフィルムセンターおよび民間の貸倉庫に預けている。これらの対策は今後も継続の予定であるが、大型作品の新規収蔵に消極的になるなど、すでに作品収集面にも影響を及ぼしており、この問題の根本的な解決が望まれる。

工芸館では、収蔵庫及び一時保管庫として活用している荷解き室の狭隘化はさらに進行している状態である。今年度は当館企画展及び所蔵作品巡回展に加えて国立美術館巡回展とフィレンツェでの近代工芸展（文化庁、当館等主催）、そして作品収蔵委員会準備の作品保管が重なり困難ではあったが、倉庫各室間のスペースのやり繰りと段重ね等で調整した。

フィルムセンターでは、平成 22 年度末に相模原分館の増築棟（映画保存棟Ⅱ）が竣工し、保存庫の狭隘は解消されることになったが、東日本大震災後の節電対策等の影響もあり、保存庫内の温湿度が設定値に到達したのは、予定を大幅に遅れ平成 24 年 1 月となった。そのため、平成 24 年度以降の本格的な運用を目標に、恒温恒湿状態の維持や空気中の酢酸除去等について十分な結果に達するまで、今後とも観察を要することになった。また、ならし室やエレベーター・ホール等の導線部分の温湿度設定についても、専門家による検討を行う必要がある。以上の環境条件の達成を前提に、映画保存棟Ⅰと映画保存棟Ⅱの機能分担、ⅠからⅡへの移動・格納計画を進めることが急務である。

また、映画保存棟Ⅰは老朽化による庇からの雨漏れが発生しており、簡易な修繕は行ったが、根本的な改修を行う必要がある。

イ 京都国立近代美術館

空気調和設備改修工事が完了し収蔵庫内の保存環境が大幅に改善されたが、狭隘状態は慢性化しており、これを考慮した上で美術作品の取得を行っている。

ウ 国立西洋美術館

平成 22 年度から問題となっている収蔵庫内のラックの不具合画の修繕が未解決のため、収蔵庫そのものの収蔵可能容量としては減少傾向にある。しかし、今年度は常設展示室の長期間の閉室がなかったため、収蔵庫に全作品を収蔵する事態にはいたらなかった。そのため、現実の問題としては収蔵庫内での収蔵量に関するトラブルはなかったと言って良い。しかしながら、収蔵庫系統の空気調和機に老朽化によるトラブルが発生し、結果的には深刻な事態を迎えないうちに対処できたものの、今後の運用に不安を残したままとなっている。不具合のある絵画収蔵ラックの早期修繕と、収蔵庫系統の空気調和機の更新が望まれる。

エ 国立国際美術館

既に収納率が実質 100%以上となっているが、積み重ねられる作品をまとめて収納したり、ラックの隙間を可能な限り小さくしたりして、適切な保存環境を維持するよう努めた。

オ その他

国立美術館各館の収蔵庫の収蔵率は、既に限界に達している。このため、東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館に隣接する「キャンプ淵野辺留保地」の利用について、相模原市が設置する検討委員会に参画し、ここでの検討内容も踏まえた整備計画が策定された。この中で、留保地の一部については、国立美術館の要望も踏まえつつ、今後、更に検討することとなったところである。引き続き、地元等関係機関との協議を進める。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

平成 23 年 10 月 16 日(日)と平成 24 年 3 月 11 日(日)に、展示室のお客様の避難誘導を目的とした避難誘導訓練を実施した。

平成 23 年 12 月 26 日(月)に 3 階及び 4 階事務室エリアからの避難経路の確認、消火設備・避難器具・AED の位置と取扱の確認のため自衛消防訓練を実施した。

(フィルムセンター)

消防用設備、自家発電設備など定期点検を実施した。

イ 京都国立近代美術館

平成 23 年 10 月 24 日(月)に消防署指導のもとで避難誘導訓練・消火訓練を実施した。

平成 24 年 3 月 1 日(木)に消防署指導のもとで避難誘導訓練を実施した。

ウ 国立西洋美術館

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を受け、収蔵庫の絵画用ラックのストッパーの振動による解放を防ぐため、平ゴムによるストッパーセーフを特注で制作、導入した。また常設展示室内での地震による衝撃の被害を軽減するために、すべての作品に衝撃吸収ゴムの取り付けを徹底した。

エ 国立国際美術館

阪神淡路大震災後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保、二次災害の防止及び機能保全が図られるよう建築された。また、完全地下型の美術館のため、防水・洪水に対しても地下壁は二重構造及び外防水層を施し、防炎上、必要な非常口等開口部には防潮、防水扉を採用している。

地下 2 階と地下 3 階にある収蔵庫は、ダイヤル式によりロックされており、防虫のために入口には網戸を設置している。内装は湿気の吸着に優れた天然木材を使用し、下地に不透湿

シートをはり、外壁は2重壁構造により湿気を防ぎ、湿度・温度調整も24時間体勢で実施している。火災発生時には、不活性ガス（窒素）が充填されるシステムにより、作品を傷めることなく消火できる。

また、災害対策を維持するための定期点検を実施した。

（3）所蔵作品の修理・修復

① 東京国立近代美術館

絵画12件、水彩1件、素描15件、版画6件、工芸2件、資料その他4件、映画フィルムデジタル復元10本、ノイズリダクション等33本、不燃化作業15本
(本館)

「資料」のうち、懸案となっていた岸田劉生の日記計4冊の修復を行った。これらはきわめて貴重な資料であるが、傷みが激しく、これまで貸出等を控えて来たものである。当館としては初の、冊子体の修復となった。

(工芸館)

継続して現状保存修復を行っている分野から、活用頻度が特に高く困難さも予測された漆工の松田権六作品《蒔絵螺鈿有職文飾箱》（1960年）および染織の木村雨山作品《縮緬地友禅あおい文振袖》（1971年）を実施した。

(フィルムセンター)

- ・平成24年に創立100周年を迎える、日本最古の“メジャー”映画会社・日活を代表する作品として評価の高い川島雄三監督『幕末太陽傳』（1957年）について、日活株式会社との共同事業によるデジタル復元において、技術的・学術的な監修を担うとともに、元素材として日活が所有するマスター・ポジの欠落や不具合を補うために、オリジナル・ネガから作成したと思われる所蔵35mmプリントを提供した。また、復元後にデジタルデータから35mmネガ及びプリント（英語字幕付を含む）の作成を行った。
- ・アニメーション映画における初の本格的なデジタル復元として、戦前の日本アニメーション映画の到達点との評価が高い政岡憲三監督『くももちゅうりっぷ』（1943年）の復元を行った。松竹株式会社所有の16mmマスター・ポジ及び当館所蔵の35mmプリントから復元を行い、復元後にデジタルデータから35mmネガ及びプリント（英語字幕付を含む）の作成を行った。
- ・昨年度にデジタルデータまでの復元を終えていた衣笠貞之助監督『地獄門』（1953年）について、35mmネガ及びプリント（英語字幕付を含む）の作成を行った。
- ・無声映画時代の彩色技法の一つである調色技術の再現について、昨年度から試行をしてきたが、本年度『蓮如』[仮題]（1921年頃）の一部にセピア調色を施すことで、実用化に漕ぎ着けた。
- ・日本の初期アニメーション映画を代表する監督、村田安司と木村白山による作品、『漫画 二つの世界』（1929年）と『漫画 魚の国』（1928年）について、寄贈を受けた可燃性染色プリントからネガ及びプリントを作成し、再染色を施した。
- ・家城巳代治監督の代表作で、女優の香川京子にとって初の独立プロダクション作品となった『ともしび』（1954年）の復元に際し、最良の成果を得るために、元素材として可燃性オリジナル・ネガ及び不燃性マスター・ポジとの間で慎重に選択を行うとともに、可燃性タイトル・ネガからの復元も行った。
- ・成瀬巳喜男監督『銀座化粧』（1951年）及び久松静児監督『女の暦』（1954年）の復元に際し、最良の成果を得るために、元素材として当館所蔵のプリントと国際放映株式会社所有のプリントとの間で慎重に選択を行った。

- ・映画会社等の要望からプリントの仕上げ確認の試写を現像所で行うケースが増えたことにより、フィルムセンター研究員及び補佐員と現像所の技術スタッフとの意見交換の機会が格段に増し、複製作業の課題解決と精度向上を促す結果となった。
- ・シナリオ等、資料整理にあたって劣化・損傷の恐れがあるものには、長期保存に耐える中性紙の保存ケースを適宜制作した。

② 京都国立近代美術館

絵画 14 件、彫刻 1 件、資料・その他 20 件

企画競争入札によって、日本画では小松均作《もや》と林司馬作《琴》の 2 点、油彩画では須田国太郎作《自画像》など 5 点の計 7 作品について修理を行った。特に今回は、同競争を初めて導入したことによって、作品についての状態のさらなる情報並びに知識について再確認できる有益な場となった。

さらに「川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに」を開催するにあたり、川西英個人コレクションとして長く保管され、状態の思わしくなかった竹久夢二の日本画（軸装）4 点について作品修理を行い、表具も新調した。竹久夢二の出品作品（セノオ楽譜）についても、信頼のおける修復工房に修理及びスクラップの解体などを依頼し、今後「紙」を媒体とした作品・資料について、外部の専門的アドバイスを得ながら、整理・保管する体制を整える第一歩とした。

③ 国立西洋美術館

絵画 22 件、水彩 5 件 素描 20 件

今年度は震災後の点検作業により、より安全な額装方法や、震災により発生した細かな損傷の処置に加え、アメリカへの貸出のため処置及び調査をしたピサロ《収穫》の分析により、これまで不明瞭であった技法を特定することができた。また、新収蔵作品のヴィンチェンツォ・カテーナ《聖母子と幼い聖ヨハネ》の光学的調査及び状態点検の結果、かつての所蔵者の目録番号を板の裏面から判読することに成功した。その成果は来年度の報告書で公表される予定である。

④ 国立国際美術館

絵画 1 件、彫刻 4 件、デザイン 40 件

平成 23 年度は、外部の彫刻に関する修復家と連携し、当館所蔵作品のコンディションチェックを行い、修復の緊急性が高いと判断した「ケネス・アーミテージ《逃れゆく形》1977 年」「オシップ・ザッキン《デメテール》1958 年」について、作品表面の研磨調整、コーティングを行うとともに、横尾忠則等のポスター 40 点の欠損・破れのつづくりなどの修復を行った。

(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究

各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

『現代の眼』掲載の「作品研究」、『研究紀要』第 16 号、『読売新聞（都内版）』連載「近代の眼」などの執筆記事や、キュレーター・トークなどの催事により、広く所蔵作品に関する研究成果を公開した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

痛みの激しい屏風作品につき、平成 24 年度修復候補として、美術史家、修復家とともに、修復の方向性を見出すための事前調査を行った。また『現代の眼』591 号では、「特集 修復・表現」と題し、外部の修復家の協力を得て、当館のこれまでの代表的な修復事例を紹介した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

「所蔵作品展 近代日本の美術」内の特集数を増やし、解説パネルを付すなど、個々の研究員の研究成果をすばやく展示に反映させることのできるしくみを整備した。また、新収蔵作品についても、収蔵後なるべく間を置かず所蔵作品展にて公開するよう、留意してプランを組んだ。

(工芸館)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

随時の専門的な調査研究とともに所蔵作品展や企画展での展示に際してや、貸与や熟覧等での専門家らとの研究を行っている。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

文化財保存修復の目白漆芸と、染織では当館染織作品の現状保存修復の実績を積み上げている浅井エージェンシーによる専門家らと連携を重ね、所蔵作品の保管と現状保存修理について計画的な実施を検討している。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

現状保存修復を実施する作品は活用頻度の高いものから計画的に行っており、完了した作品については陳列や貸与等に対して有効に活用している。

(フィルムセンター)

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・アメリカからの返還映画を主にした戦前日本ニュース映画の詳細な内容調査を継続した。
- ・映画保存のための特別事業費により平成 21 年度に収集したフィルムについて、データの採取、静止画像の取り込み、データベースへの登録を行う一方、文献資料等による調査を継続した。
- ・平成 5 年度に聖心インターナショナルスクールより寄贈を受け入れた、戦後アメリカ、イギリスで製作された教材映画である外国文化・記録映画 1,579 本について、全巻の遡及調査を完了するとともに、データベースへの登録を継続した。
- ・吉村公三郎監督に関する調査研究
- ・森一生に関する調査研究
- ・過去 2 年間に逝去した映画人に関する調査研究
- ・欧米の 1920 年代無声映画に関する調査研究
- ・俳優・香川京子に関する調査研究
- ・現代フランス映画に関する調査研究
- ・映画保存のための特別事業費により購入した新収蔵作品とその作者や時代背景に関する調査研究
- ・映画館週報やパンフレット等日本独自の映画資料に関する調査研究
- ・日本の映画ポスターとグラフィック芸術の関係についての調査研究

(イ) 保管・修理に関する調査研究

<映画フィルムの保管に関する調査研究>

- ・所蔵フィルムの運用前後における検査やクリーニングに関する研究
- ・フィルム保存庫の設備、保管環境、運用等に関する研究

<映画フィルムの修理に関する調査研究>

- ・デジタル復元における最適な複製元素材の作成に関する研究

- ・三色分解素材からのデジタル復元に関する研究
- ・再染色及び再調色作業に関する研究
- ・フォーマットや画郭の異なる素材からの復元に関する研究

＜映画関連資料に関する調査研究＞

プレス資料のリスト化を進めたほか、映画パンフレットや外国映画祭カタログといった、過去に寄贈されながらも未整理であった分野の資料のリスト化に取り組んだ。とりわけパンフレットについては前年度に開始されたデータベース登録作業が本格的に進められることとなった。映画監督石井輝男や科学映画作家の中村麟子、プロデューサー永島一郎など映画人の個人資料のカタログ化も終了し、正式な寄贈手続を終えたものもある。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

＜映画フィルムの保管における反映＞

- ・定期的な試写による状態確認やフィルム・クリーナーの検証に反映された。
- ・「ピネガー・シンドローム」に冒されたフィルム及び可燃性フィルムの保管上の取り扱いに反映された。

＜映画フィルムの修理における反映＞

- ・『幕末太陽傳』（1957年）『くもとちゅうりっぷ』（1943年）のデジタル復元に反映された。
- ・『地獄門』（1953年）のデジタル復元に反映された。
- ・『漫画 二つの世界』（1929年）『漫画 魚の國』（1928年）の再染色作業、『蓮如』〔仮題〕（1921年）の再調色作業に反映された。
- ・『銀座化粧』（1951年）『女の暦』（1954年）の複製作業に反映された。

＜所蔵映画資料における反映＞

- ・企画展「映画パンフレットの世界」「映画女優 香川京子」「日本の映画ポスター芸術」に反映された。

＜映画関連資料の修理における反映＞

- ・一部のシナリオなど、劣化した文献資料の修復に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

「川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに」を開催するにあたり、約1000点の作品・資料について、緊密な調査研究を行った。その成果は、山野学芸課長「〈川西英コレクション〉について」、中尾研究員「〈川西英コレクション〉と柳屋」として同展図録に発表するとともに、コレクションすべての目録も同展図録に掲載し、本展図録を当館の『コレクション目録 IX』として発行した。また、本コレクションに含まれる一部の作品の修理、及び表具装の新調も行った。

(イ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

「川西英コレクション収蔵記念展 夢二とともに」を開催し、同展図録を『コレクション目録 IX』として発行した。また、「川西英コレクション」についての研究成果を論文、山野学芸課長「〈川西英コレクション〉に見る、川西英と竹久夢二」として、当館の研究論集『CROSS SECTIONS Vol. 4』に発表した。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究

- ・中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術に関する調査研究
- ・所蔵版画作品に関する調査研究
- ・ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計に関する調査研究
- ・ゴヤに関する調査研究
- ・ユベール・ロベールおよび 18 世紀フランス美術に関する調査研究
- ・「国立西洋美術館所蔵作品データベース」に関する研究

(イ) 保存・修復に関する調査研究

所蔵作品の絵画技法調査の参考とするため、古典的な色彩のサンプルを古典絵画技法に従って作成した。

LED 照明導入に向けた調査のための色彩見本及びチャートを作成し、色温度の違いによる発色効果を検証し、LED 導入を実現した。

修復処置過程での紫外線、赤外線等の調査を実施し、絵画作品の状態及び制作過程を検証する調査を実施した。作品によっては周辺部の絵具層を分析し、その材質を明らかにした。こうした過程で、15 世紀から 19 世紀までのさまざまな作品の技法や保存状態を確認し、これまでの処置の歴史を再確認しながら、震災後の被害の状況の確認及び貸出のための安全／保存処置を実施した。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

さまざまな技法の処置／調査は作品の安全な貸出を実現すると同時に、こうした調査結果は展覧会のカタログ等に随時反映されている。また、調査・処置後の作品は常設展示に随時反映され、日本国民へのよりよい鑑賞環境及び安定した状態の作品展示へと還元されている。

エ 国立国際美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

所蔵作品のうち、イサム・ノグチ、工藤哲巳、会田誠の作品を取り上げて調査研究を行い、館広報物（国立国際美術館ニュース）において作品説明を行った。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

平成 22 年度に引き続き所蔵作品のコンディションの確認を行った。継続的に行っている絵画やポスターなど平面的な作品に加えて、大型の金属彫刻も対象とした。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

平成 22 年度に作品裏面清掃、作品側面に付着したコルクの除去、剥落止め、カンバスの補修、欠損部の充填・整形、補彩を行った「ヴォルス《構成》1947 年」を、大阪市ゆとりとみどり振興局（大阪市立近代美術館建設準備室）との共同して開催した「中之島コレクションズ 大阪市立近代美術館&国立国際美術館」において展示し、観覧に供した。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信

① 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計 28 冊）、研究紀要（計 3 冊）、館ニュース（計 6 種、37 冊発行）等の刊行物により、研究成果を発信した。

館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他	
東京国立近代美術館	本館	5	1	6	0	1	3
	工芸館	4			0	3	0
	フィルムセンター	1			0	1	0
京都国立近代美術館	5	1	7	1	0	1	
国立西洋美術館	3	1	4	0	3	2	
国立国際美術館	4	0	10	1	6	1	
国立新美術館	6	0	4	0	2	2	
計	28	3	37	2	16	9	

注1 京都国立近代美術館の展覧会図録には、「夢二とともに」展の図録を含み、所蔵品目録には「所蔵作品目録IX」として刊行した「夢二とともに」展の図録を含む。

注2 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

注3 「その他」には、『東京国立近代美術館解説ボランティア MOMAT ガイドスタッフ活動の記録 2002-2011』、『科学研究費報告書 データベース eizo 1960-70 年代の日本における美術家のフィルムとビデオ』、「平成 22 年度 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館活動報告」（東京国立近代美術館）、「京都国立近代美術館 活動報告 MoMAK Report 2010」（京都国立近代美術館）、「国立西洋美術館報 No.45」「平成 23 年 独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館概要」（国立西洋美術館）、「平成 22 年度 国立新美術館活動報告」、「やってみよう、アート 国立新美術館ワークショップ記録集 2007 年 3 月-2011 年 2 月」（国立新美術館）、「平成 22 年度 国立国際美術館活動報告」（国立国際美術館）が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

[学会等発表] (本館・工芸館)

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
「子どもと見るアート-美術館を活用した鑑賞教育について」	せとうち美術館ネットワーク	主任研究員・一條彰子	2011 年 10 月 22 日	香川県立ミュージアム	100
「岸田劉生と《切通之写生》」	「歴史連続講座 渋谷で活躍した美術家たち」第 4 回	美術課長・蔵屋美香	2012 年 2 月 2 日	渋谷区立上原社会教育会館	約 60
「カートラスというプリズム」	公開研究会多摩美術大学芸術人類学研究所	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 4 月 30 日	ラボラトリオ (松本市)	22
「1820 年代のロマン主義から，1890 年代の印象派までの絵画史」	NPO 法人アーツイニシアティブトウキョウ	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 5 月 19 日	AIT 代官山	25
「アヴァンギャルドの現在」	公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 6 月 11 日	森下文化センター	15
「キュビズムから抽象へ向かう，20 世紀前半の絵画史」	NPO 法人アーツイニシアティブトウキョウ	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 6 月 12 日	AIT 代官山	25
「アール・ブリュットの魅力と今後」／「アール・ブリュット 生の芸術-人の無限の創造性を探求する」	社会福祉法人愛成会	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 11 月 5 日	中野サンブラザ・アネモルーム	100
「アートの今後 建築と福祉の観点から」	京都造形芸術大学	主任研究員・保坂健二郎	2011 年 11 月 12 日	京都造形芸術大学東京芸術学舎	18

「建築から見た絵画、絵画からみた建築」	多摩美術大学	主任研究員・保坂健二郎	2011年11月25日	多摩美術大学油画研究室	80
「日本におけるアウトサイダー・アート」	NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ	主任研究員・保坂健二郎	2011年11月30日	AIT 代官山	25
「日本のアールブリュット」	日米文化教育会議	主任研究員・保坂健二郎	2012年3月27日	東京文化財研究所	20
「“アメリカ写真”と題された写真集をめぐる—写真家ウォーカー・エヴァンズとその周辺—」	「現代アメリカ論『アメリカン・イメージ』」	主任研究員・増田玲	2011年11月29日	群馬県立女子大学	約 50
デジたるアーカイブと MLA 連携 原理の整理の試みとして	アーカイブズ学会	主任研究員・水谷長志	2011年4月24日	学習院大学	100
震災復興と MLA	総務省 知のデジタルアーカイブに関する研究会 (第3回)	主任研究員・水谷長志	2011年6月8日	三田共用会議所	60
美術館におけるデジタルアーカイブとその課題	総務省 知のデジタルアーカイブに関する研究会 (第4回)	主任研究員・水谷長志	2011年7月21日	金融庁共用会議室	60
日本の美術館の現状と課題から	シンポジウム「文化情報の整備と活用～デジタル文化財が果たす役割と未来像」 一般財団法人デジタル文化財創出機構	主任研究員・水谷長志	2011年7月22日	丸の内・コンファレンススクエア エムプラス	100
「総論 美術情報・資料の活用法—提供と利用のはざまにおいて」「第Ⅲ講 今日の図書館から俯瞰する美術館の資料活動」「第Ⅳ講 電子的リソース(二次資料)」	全国美術館会議情報・資料研究部会企画セミナー III「美術情報・資料の活用法—展覧会カタログから Web まで」	主任研究員・水谷長志	2011年12月16-17日	奈良国立博物館	30
C 分科会 アーカイブズアート・ミュージアムからの課題の提起	第5回 21世紀ミュージアムサミット 100人で語るミュージアムの未来～人々をつなぐミュージアム	主任研究員・水谷長志	2012年2月4日	湘南国際村センター	30
「マクミラン社グローヴ世界美術大事典にみるアート・アーカイブズの類型とその実例」	アート・ドキュメンテーション学会	研究補佐員・渡邊美喜	2011年6月11日	東京国立博物館平成館大講堂	約 30
「イギリスの明治工芸」	東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会	工芸課長・唐澤昌宏	2012年2月26日	東京国立近代美術館	約 20
「アメリカ東部の明治工芸」	東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会	主任研究員・諸山正則	2012年2月26日	東京国立近代美術館	約 20
「大河内正敏と奥田誠一陶磁器研究会／彩壺会／東洋陶磁研究所—大正期を中心に—」	東洋陶磁学会第39回大会	主任研究員・木田拓也	2011年11月26日	根津美術館	約 100
「アメリカ西海岸の明治工芸コレクション」	東洋陶磁学会平成23年度第4回研究会	主任研究員・木田拓也	2012年2月26日	東京国立近代美術館	約 20
「1950年代の日米文化交流のなかの工芸とデザイン：ロックフェラー3世の日本旅行とアメリカの『ソフト・パワー』」	コロキウム プロパガンダと芸術	主任研究員・木田拓也	2012年3月25日	東京国立近代美術館	約 30

「フランスの明治工芸」	東洋陶磁学会平成23年度 第4回研究会	主任研究員・ 北村仁美	2012年2月26 日	東京国立近 代美術館	約20 名
-------------	------------------------	----------------	----------------	---------------	----------

[学会等発表] (フィルムセンター)

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
Indigenous Film Collections in Africa and the World	国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)	フィルムセンター主幹・岡島尚志	2011年4月11日・12日	南アフリカ国立図書館	100
フィルムの魅力	フィルム傑作選 ソクーロフ (特集上映)	フィルムセンター主幹・岡島尚志	2011年7月24日	ユーロスペース	20
失われた脚本・台本を求めて～文化リサイクルの意義	脚本アーカイブズ・シンポジウム	フィルムセンター主幹・岡島尚志	2012年2月15日	国立国会図書館 (新館講堂)	200
世界のフィルム・アーカイブとメディア芸術センター	映像メディアアキュレーター養成講座	フィルムセンター主幹・岡島尚志	2012年2月22日	映画美学校	20
映画のミライ	「幕末太陽傳」富山上映会	フィルムセンター主幹・岡島尚志	2012年3月10日	フォルツァ総曲輪	40
映画に謙虚に、フィルムに素直に 映像資料の保存と活用～その資料的価値について	神奈川県視聴覚教育連盟	主任研究員・榎木章 (発表者名・とちぎあきら)	2011年5月18日	神奈川県立図書館新館1階多目的ホール	30
『瀧の白糸』の復元を巡って	明治学院大学芸術学科講演会/日本アルバン・ベルク協会特別例会	主任研究員・榎木章 (発表者名・とちぎあきら)	2011年7月26日	明治学院大学白金校舎アートホール	80
映画上映を志す人のためのフィルム・アーカイブ入門	映像メディア・キュレーター養成講座「シネマ・マネジメント・ワークショップ」	主任研究員・榎木章 (発表者名・とちぎあきら)	2012年1月11日	映画美学校	30
CIE 映画フィルムのアーカイビング	シンポジウム「占領する眼・占領する声—CIE/USIS 映画とVOA ラジオ」	主任研究員・榎木章 (発表者名・とちぎあきら)	2012年3月4日	東京大学大学院情報学環福武ホール	100
東京国立近代美術館フィルムセンターの取り組み	第6回 映画の復元と保存に関するワークショップ2011	主任研究員・板倉史明	2011年8月27日	京都府京都文化博物館	80
フィルムセンターにおけるフィルム保存環境と権利処理	人間文化研究機構「人間文化資源の保存環境研究」研究会	主任研究員・板倉史明	2011年11月25日	国立民族学博物館	20
映画『忠次旅日記』のデジタル復元—長期保存に向けた素材情報の数値化の試み	2011年度日本写真学会 秋季研究発表会	主任研究員・板倉史明	2011年12月5日	京都教育文化センター	100
シンポジウム「The Sword and the Screen」	イエール大学東アジア学部	主任研究員・板倉史明	2012年2月11日	イエール大学ホーイットニー・ヒューマニティーズセンター	50
フィルム保存と活用の実践例—東京国立近代美術館フィルムセンターの場合	人間文化研究機構連携研究「人間文化資源」の総合的研究のうち、「歴史研究資料としての映画の保存と活用に関する基盤研究」主催のシンポジウム	主任研究員・板倉史明	2012年2月27日	国立歴史民俗博物館	20
演劇博物館所蔵映画フィルムの調査・目録整備と保存活用	早稲田大学演劇博物館 演劇映像学連携研究拠点での成果報告	主任研究員・入江良郎	2011年12月22日	早稲田大学早稲田キャンパス6号館3階レクチャールーム	40
地域で残そう映像史料 第2回 映画と文京区：日本映画の初公開	文京映像史料館	主任研究員・入江良郎	2011年6月11日	本郷中央教会	111

記録映画作家サンチアゴ・アルバレス	山形国際ドキュメンタリー映画祭	主任研究員・岡田秀則	2011年10月8日	山形市民会館	100
東京シネマの時代に学ぶ	恵比寿映像祭	主任研究員・岡田秀則	2012年2月18日	東京都写真美術館	20
日活100年特集について	ナント三大陸映画祭	研究員・赤崎陽子	2011年11月25日	ナント三大陸映画祭広場, 地方ラジオ局で放送	10

[雑誌等論文掲載] (本館・工芸館)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
「日本におけるキュビズムの受容」	主任研究員・大谷省吾	『ふらんす』白水社	2011年7月
「文筆家としての瑛九」	主任研究員・大谷省吾	『生誕100年 瑛九展』カタログ(宮崎県立美術館ほか)	2011年7月
「時評-2 三. 一-によせて」	美術課長・蔵屋美香	『視覚の現場: 四季の綻び』9号(醍醐書房)	2011年6月
「劉生と麗子と麗子像-麗子像はなぜ不気味に見えるのか?」, 「評伝 鶴沼時代」, 「鶴沼時代の静物画」	美術課長・蔵屋美香	『別冊太陽 岸田劉生 独りゆく画家』(平凡社)	2011年7月
作品解説	美術課長・蔵屋美香	『「美人画」の系譜 心で感じる「日本絵画」の見方』(小学館)	2011年11月
「圧倒的な影響力-草土社結成」	主任研究員・鈴木勝雄	『岸田劉生: 独りゆく画家』(平凡社)	2011年7月
安井曾太郎と梅原龍三郎 彼らを『日本的油絵』に駆り立てたもの	主任研究員・都築千重子	『花美術館』23号(花美術館)	2011年12月20日
「吉川霊華の箱書き」	主任研究員・鶴見香織	『視覚の現場・四季の綻び』10号	2011年9月
作品解説 松林桂月《春宵花影図》	主任研究員・鶴見香織	『月刊 水墨画』265号(ユーキャン)	2011年4月
作品解説 幸野棹嶺《溪頭棲鷺図》	主任研究員・鶴見香織	『月刊 水墨画』266号(ユーキャン)	2011年5月
作品解説 横山大観《或る日の太平洋》	主任研究員・鶴見香織	『月刊 水墨画』271号(ユーキャン)	2011年10月
「引込み線と現代美術」	企画課長・中林和雄	「引込み線」展カタログ(所沢ビエンナーレ実行委員会)	2011年10月
「前田青邨, 安田鞞彦と古径」	主任研究員・中村麗子	『花美術館』24号(花美術館)	2012年2月
「写真家のアトリエと寝ること(の反対)」	主任研究員・保坂健二郎	『ヤン&エヴァ・シュヴァンクマイエル展 映画とその周辺』展カタログ(パッドレンコーポレーション)	2011年8月
「私の知っているイケムラさん」	主任研究員・保坂健二郎	『Hill Wind 三重県立美術館ニュース』29号	2011年11月
「パトスと『弱さ』 1984年以降の日本の絵画について」	主任研究員・保坂健二郎	『Pathos and Small Narratives』展カタログ(Gana Art Gallery, Seoul)	2011年11月
聞き手・構成「アーティストインタビュー イケムラレイコ」	主任研究員・保坂健二郎	『美術手帖』	2011年11月
「鱸万里絵の絵画と『器官なき身体』」	主任研究員・保坂健二郎	『鱸万里絵』(RAW VISION)	2011年12月
”Double Vision” “Japanese Contemporary Art: Imagination Focused on Publicness” 「作家解説」	主任研究員・保坂健二郎	「Double Vision: Contemporary Art from Japan」展カタログ(Moscow: Maier)	2012年

「土田ヒロミの「ベルリンの壁」をめぐって」	主任研究員・増田玲	土田ヒロミ写真集『BERLIN』（平凡社）	2011年
「ヘタウマ写真家のまなざし」	主任研究員・増田玲	『芸術新潮』（新潮社）	2012年1月号
「『/』のトポグラフィー」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』（美術出版社）	2011年4月
「光について」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2011年10月
「想起のための場所」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2011年11月
「この目が嘘をついている目か」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2011年12月
「映像，軽いのか重いのか」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2012年1月
「空隙としてのチューブ」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2012年2月
「ともにあること」	研究員・梶田倫広	『美術手帖』	2012年3月
「K. ホネフ氏に会って思い出したことなど（下）」	副館長・松本透	『インボス』vol.4（カサヤの森現代美術館）	2011年5月
「彫刻とフィギュア—岡本太郎の場合」	副館長・松本透	『所沢ビエンナーレ美術展 引込線』展カタログ（所沢ビエンナーレ実行委員会）	2011年10月
MLA 連携のフィロソフィー—“連続と侵犯”という	主任研究員・水谷長志	情報の科学と技術	2011年6月
研究文献レビュー MLA 連携—アート・ドキュメンテーションからのアプローチ	主任研究員・水谷長志	国立国会図書館カレントアウェアネス	2011年6月
デジタルアーカイブと MLA 連携—原理の整理の試みとして，あるいは「情報学は雄カマキリである」を想起して	主任研究員・水谷長志	アーカイブズ学研究	2011年11月
書評『図書館・博物館・文書館の連携』『つながる図書館・博物館・文書館 デジタル化時代の知の基盤づくりへ』『デジタル文化資源の活用 地域の記憶とアーカイブ』	主任研究員・水谷長志	日本図書館情報学会誌	2011年12月
基調報告 4	主任研究員・水谷長志	ART ARCHIVES-one 継承と活用：アート・アーカイブの「ある」ところ 記録集	2012年1月
線と色彩の総合—パウル・クレーの「油彩転写」技法について	主任研究員・三輪健仁	『版画芸術』No.152（阿部出版）	2011年6月
（表）面的思考 「1970年8月現代美術の一断面」展について	主任研究員・三輪健仁	『なにかいってくれ いま さがす—半影のモンタージュ』報告書（港区アート・アーカイブ=地域芸術資源採掘プロジェクト MARM 事務局）	2011年
言葉の問題—《2-9-1 について》	主任研究員・三輪健仁	『PLATFORM2011 浜田涼・小林耕平・鮫島大輔—距離をはかる—』展カタログ（練馬区立美術館）	2011年4月
「地域の蔵がなくなる 被災地の文化財の現在—尾形家再建プロジェクト，雄勝 町まちづくりをおして」	研究補佐員 柴原聡子	『建築雑誌』（日本建築学会）	2011年11月

翻訳：ケイティ・ローガン，シャ ーロット・マッカーシー「第5章 アーカイブ ズを展示することによる商業上の 効果」	研究補佐員 渡邊美喜	『世界のビジネス・アーカイブズ 企業 価値の源泉』（日外アソシエーツ）	2012年3月
「前田正博の色絵磁器—色彩と模 様のハーモニー」	工芸課長・ 唐澤昌宏	『陶説』700号	2011年7月1日
黒田辰秋：生命の木工芸術	工芸館主任研 究員・諸山正則	KURODA TATSUAKI（ドイツ・漆 芸博物館）	2011年10月
「国井喜太郎の固有工芸論：1930 年代における『日本的なもの』と モダンデザイン」	工芸館主任研 究員・木田拓也	『デザイン史学』第9号，デザイン 史学研究会	2011年7月15日
「工芸家たちのユートピア」	工芸館主任研 究員・北村仁美	Deco Japan(アメリカ，ジャパ ン・ソサエティ他で開催)	2012年3月

[雑誌等論文掲載] (フィルムセンター)

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名(発行者)	発行年月日
映画フィルムという視聴覚資料の 保存	フィルムセン ター主幹・岡島 尚志	『視聴覚教育』2011年9月号(日本 視聴覚教育協会)	2011年9月1日
テレビ番組は社会的文化財	フィルムセン ター主幹・岡島 尚志	『GALAC』2011年10月号(放 送批評懇談会)	2011年10月6日
あの人を訪ねたい	フィルムセン ター主幹・岡島 尚志	『月刊・石垣』2011年10月号(日 本商工会議所)	2011年10月10日
風にそよぐ草	フィルムセン ター主幹・岡島 尚志	『サライ』2012年1月号(小学館)	2011年12月10日
映像で残す，映像を残す	主任研究員・榎 木章(執筆者 名・とちぎあき ら)	『伝統と文化』第35号(ポーラ伝 統文化振興財団)	2012年1月25日
日本の最初期トーキー映画のアー カイビング	主任研究員・榎 木章(執筆者 名・とちぎあき ら)	『音声・映像記録メディアの保存と 修復』(東京文化財研究所)	2012年3月31日
黎明期から無声映画期における色 彩の役割—彩色・染色・調色	主任研究員・板 倉史明	『日本映画の誕生(日本映画史叢書 15)』(森話社)	2011年10月
書評 Aaron Gerow, <i>A Page of Madness: Cinema and Modernity in 1920s Japan</i>	主任研究員・板 倉史明	『映像学』第87号(日本映像学会)	2011年11月25日
「無垢な」観客と「洗練された」 観客	主任研究員・板 倉史明	『映画のなかの社会/社会のなかの 映画(映画学叢書3)』(ミネルヴァ 書房)	2011年12月25日
占領期におけるGHQのフィルム 検閲—所蔵フィルムから読み解 く認証番号の意味	主任研究員・板 倉史明	『東京国立近代美術館研究紀要』16 号	2012年3月30日
日本映画の初公開—明治三二年 の興行と上映番組	主任研究員・ 入江良郎	『日本映画史叢書15 日本映画の誕 生』(森話社)	2011年10月
東京下界いらっしやいませ—<一 九九〇>偶景	主任研究員・ 岡田秀則	『甦る相米慎二』(インスクリプト)	2011年9月30日
闘うブリコラージュ—サンチア ゴ・アルバレスの映画を読む	主任研究員・ 岡田秀則	第12回山形国際ドキュメンタリー 映画祭カタログ(山形国際ドキュメ ンタリー映画祭実行委員会)	2011年10月7日

(イ) 京都国立近代美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講 者数
------	------	----------	----	----	----------

パウル・クレー展—終わらないアトリエ, 作品と展覧会の Making	かすみがせき婦人会美術クラブ	主任研究員 池田祐子・	2011年6月20日	東京ウィメンズプラザ	50
竹久夢二	シンポジウム 『美術フォーラム 21』	学芸課長・ 山野英嗣	2011年11月13日	京都国立近代美術館	30
竹久夢二再考	大正イマジユリ学会	学芸課長・ 山野英嗣	2011年12月11日	京都精華大学	20

(ウ) 国立西洋美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
Una tavola di “Cristo nell’orto” eseguita da Giorgio Vasari, conservata a Tokyo	Conferenza su ricerche vasariane a Camaldoli	主任研究員・ 高梨光正	2011年9月23日	イタリア, M カマルドリ修道院附属聖堂	150
アンニバレ・カラッチによる版画の利用—ファルネーゼ宮“カメリーノ”天井装飾をめぐる—	美術史学会東支部例会	主任研究員・ 渡辺晋輔	2011年11月26日	学習院大学	約40
文化遺産情報をめぐる収蔵機関としての役割	「文化遺産オンライン構想」成果報告フォーラム	主任研究員・ 川口雅子	2011年12月12日	学術総合センター一橋記念講堂	240
ローマ滞在期のジャン・バティスト・カルポーについて	美術史学会東支部例会	主任研究員・ 大屋美那	2012年1月28日	東京藝術大学	約55
美術展をつくる—作品データベースを含む美術情報の活用について	香川大学 EU 情報センターEU 公開講演会	主任研究員・ 大屋美那	2012年2月18日	香川大学	約50

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
美術館アーカイブズが守るべき記録とは何か カナダ国立美術館の事例を中心に	主任研究員・ 川口雅子	『国文学研究資料館紀要 アーカイブズ研究篇』(国文学研究資料館)	2012年3月
海外博物館だより カナダ国立美術館のアーカイブズ事情	主任研究員・ 川口雅子	『博物館研究』(日本博物館協会)	2011年12月

(エ) 国立国際美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
ヴェネチア・ビエンナーレ日本館「束芋：てれこスープ」について	第54回ヴェネチア・ビエンナーレ美術展日本館展示「束芋：てれこスープ」公開報告会	主任研究員・植松由佳	2011年8月9日	東京	80
レッツトークアバウトアート	CCA キュレーター・ミーティング 2011	主任研究員・植松由佳	2011年10月7日, 10月9日	北九州	15

基調報告「ヴェネチア・ビエンナーレ日本館について」とパネルディスカッション	シンポジウム「縄文/創造の原点から」	主任研究員・植松由佳	2011年11月2日	青森	未集計
Alternating Currents (Curating the Future — A Curatorial Symposium)	Museums Australia Conference	研究員・橋本梓 (共同発表)	2011年11月14日	パース (オーストラリア)	未集計
世界の国際展シリーズ1 「ヴェネチア・ビエンナーレでの出来事」	あいちトリエンナーレスクール	主任研究員・植松由佳	2012年2月25日	名古屋	50
「絵画のプラットフォーム」	「ニューコンテンポラリーーズ」展講演会	主任研究員・中井康之	2012年3月18日	京都	未集計
「成層/断層:再起動する美術」	2011年企画「成層圏」シンポジウム	主任研究員・中井康之	2012年3月24日	東京	未集計

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
Tabaimo: teleco-soup	主任研究員・植松由佳	la Biennale di Venezia Biennale Arte 2011 (Fondazione La Biennale di Venezia/Marsilio Editori)	2011年5月
「山本桂輔の芸術世界を僥倖として巡り会う前に」	主任研究員・中井康之	「山本桂輔作品集」小山登美夫ギャラリー, 東京	2011年10月
「小松純の芸術の立脚点」	主任研究員・中井康之	「小松純個展」リーフレット, ギャラリー白, 大阪	2011年12月
「ボローニャの近代美術館機構」(海外博物館便り)	主任研究員・中井康之	「博物館研究」 No.524, 日本博物館協会	2012年2月
「絵画のプラットフォーム」	主任研究員・中井康之	「ニューコンテンポラリーーズ」カタログ, 京都市立芸術大学ギャラリー	2012年3月

(オ) 国立新美術館

[学会等発表]

タイトル	学会等名	発表者職名・氏名	日付	場所	聴講者数
「第60回全国美術館会議 総会 特別セッション『東日本大震災と美術館』」	全国美術館会議	主任研究員・平井章一	2011年5月26日	横手セントラルホテル	—
「具体」シンポジウム	ハーヴァード大学, グッゲンハイム美術館 (米国)	主任研究員・平井章一	2011年11月2日~10日	ハーヴァード大学	—

[雑誌等論文掲載]

タイトル	執筆者職名・氏名	掲載誌名 (発行者)	発行年月日
マルセル・デュシャン	学芸課長・南雄介	『美術手帖』第63巻951号 (美術出版社)	2011年5月

マン・レイ《回転扉》をめぐって	学芸課長・南雄介	『Fuji Xerox Print Collection No. 40 マン・レイ』（富士ゼロックス株式会社）	2011年12月
前沢知子	学芸課長・南雄介	『VOCA展2012 現代美術の展望—新しい平面の作家たち』（「VOCA展」実行委員会、財団法人日本美術協会・上野の森美術館）	2012年3月
アート・トーキング	主任研究員・平井章一	『日本経済新聞』（日本経済新聞社）	2011年7月14日
BUNKA なう 震災と表現④ 美術館の役割	主任研究員・平井章一	『毎日新聞』（毎日新聞社）	2011年9月1日
リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝	主任研究員・宮島綾子	『美術の窓』第31巻第2号（通巻341号）（生活の友社）	2012年2月
モダン・アート, アメリカン-珠玉のフィリップス・コレクション展	主任研究員・西野華子	『文化庁月報』10月号 No.517（文化庁）	2011年9月
国立美術館『モダン・アート, アメリカン』から『ランチョス教会, No.2, ニューメキシコ』	主任研究員・西野華子	『読売新聞』（読売新聞社）	2011年11月15日
二〇世紀を超えて—民藝と物の時代	主任研究員・西野華子	『<民藝>のレッスン—つたなさの技法』（フィルムアート社）	2012年1月
北城貴子—Saturation によせて	主任研究員・西野華子	「北城貴子」展覧会リーフレット（アートフロントギャラリー）	2012年3月
ティツィアーノからマティスまで—挙に400年を迎える	主任研究員・本橋弥生	『美術の窓』（No.341）（生活の友社）	2012年2月
第VI講 「作品情報の発信とアクセス」	主任研究員・室屋泰三	『全国美術館会議 情報・資料研究部会企画 セミナーIII 美術情報・資料の活用—展覧会カタログから Web まで—』（全国美術館会議）	2011年12月
異種メディアのはざままで	アソシエイトフェロー・谷口英理	『生誕100年記念瑛九展』（宮崎県立美術館・埼玉県立近代美術館・うらわ美術館）	2011年7月
一九三〇年前後の前衛的芸術潮流における堀野正雄の位置	アソシエイトフェロー・谷口英理	東京都写真美術館編『幻のモダニスト 写真家堀野正雄の世界』（国書刊行会）	2012年3月
南北の移動に焦点を絞ったセザンヌ展	アソシエイトフェロー・工藤弘二	『美術の窓』 No. 341（生活の友社）	2012年2月

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

『研究紀要』の収録論文をホームページ上に掲載した。

主任研究員・岡田秀則による「NON-FILM～フランスの映画資料保存」（平成21年4月21日のレクチャーを撮影したもの）が映画保存協会 U-stream チャンネルにおいて公開された。（平成24年1月6日）

(イ) 京都国立近代美術館

コレクション・ギャラリーの展示替えごとに、出品目録および小企画やテーマ展示に関する解説などを掲載し、来館者のための情報発信の充実に努めた。さらに美術館ニュースや研究論集の論題などの刊行物の発行に際して掲載内容を更新するほか、友の会の行事についても、開催報告を画像付きで紹介した。

(ウ) 国立西洋美術館

国立西洋美術館研究資料センター「学術情報案内」（西洋美術分野のレファレンス・ガイド。全国の美術館学芸員、西洋美術史研究者に向けて、国立西洋美術館が所蔵する電子リソースやマイクロ資料、インターネット上で無償提供されているオープンアクセスの情報源を案内したもの）を発信した。

(エ) 国立国際美術館

『artscape』（URL：<http://artscape.jp>）「学芸員レポート」（現代美術及び展覧会に関する研究を紹介）を計 5 回発信した。

(オ) 国立新美術館

「国立新美術館活動報告」および「国立新美術館ニュース」を当館ホーム・ページにおいて公開した。

エ その他

(ア) 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

本館では、読売新聞、朝日新聞、沖縄タイムス、北日本新聞、月刊水墨画、『すばる』ほかに執筆した。

工芸館の東洋陶磁学会研究会における発表は、平成 22～23 年度に行った「明治期に海外流出した近代工芸作品の調査」（科学研究費補助金）の調査・研究をもとにした報告会を兼ねている。

(フィルムセンター)

「第 63 回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議 2007 シンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」の記録」を刊行した。

(イ) 国立国際美術館

植松由佳主任研究員が第 54 回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナーに就任し、日本館における展覧会「TABAIMO: teleco-soup」を企画、実施(会期:平成 23 年 6 月 4 日～11 月 27 日)した。

② 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

セミナー・シンポジウム名	「芸術におけるエコロジー」	開催日	2011 年 8 月 27 日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	146 人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	イケムラレイコ(画家), 加須屋明子(京都市立芸術大学准教授), 保坂健二郎(東京国立近代美術館研究員)		
内容	芸術におけるエコロジカルな視点についての討議		

セミナー・シンポジウム名	Painters' Round-Table: What is JP? 画家たちのポロック	開催日	2012年2月12日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	125人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	堂本右美, 岡村桂三郎, 小林正人(いずれも画家) 中林和雄(東京国立近代美術館企画課長)		
内容	画家の立場からのポロック作品の検証		
セミナー・シンポジウム名	今ポロックの何を見るのか	開催日	2011年3月24日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	147人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	池上裕子(神戸大学准教授), 沢山遼(武蔵野美術大学講師), 林道郎(上智大学教授), 中林和雄		
内容	美術史学, 美術批評の観点からのポロック作品の今日的意味の再検討		
セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「現在の茶陶を考える」	開催日	2011年4月16日
場所	多治見市文化工房ギャラリーヴォイス	聴講者数	130人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	コーディネーター: 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長) パネリスト: 伊勢崎晃一朗(陶芸家), 加藤委(陶芸家), 前田昭博(陶芸家)		
内容	「茶陶—造形と意匠にみる現在性Ⅱ 2011」展に伴うシンポジウム。近年の動向を踏まえ、現代作家とともに茶陶について考察。		
セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「陶における表現とは」	開催日	2011年10月8日
場所	多治見市文化工房ギャラリーヴォイス	聴講者数	200人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	コーディネーター: 唐澤昌宏(東京国立近代美術館工芸課長) パネリスト: 深見陶冶(陶芸家), 加藤智也(陶芸家), 出和絵理(陶芸家)		
内容	「『日本×ファエンツァ やきものの現在(いま)』ファエンツァ国際陶芸展日本人歴代受賞作家展」に伴うシンポジウム。現代における陶表現の現状と可能性について考察。		
セミナー・シンポジウム名	日本の現代陶芸—その歩みと展開—	開催日	2011年11月3日
場所	瀬戸市文化センター	聴講者数	95人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	唐澤昌宏		
内容	国立美術館巡回展に伴う講演会。当館所蔵作品を中心にして日本の現代陶芸の歴史と現状について紹介した。		
セミナー・シンポジウム名	近代陶芸について	開催日	2011年11月20日
場所	福井県陶芸館茶苑 大広間	聴講者数	30人(定員30)
講師・パネリスト等の氏名(職名)	唐澤昌宏		
内容	工芸館巡回展に伴う講演会。当館所蔵作品を中心にして日本の近・現代陶芸の歴史と現状について紹介した。		

(2) 国内外の美術館等との連携

① シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

(本館・工芸館)

セミナー・シンポジウム名	「パウル・クレー展」先生のための鑑賞講座	開催日	2011年6月11日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	54人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：三輪健仁(東京国立近代美術館企画課研究員) 講師：濱口由美(福井大学准教授)		
内容	同講座で初めてゲスト講師を招聘し、学校と美術館の連携授業例を報告した。		
セミナー・シンポジウム名	「ジャクソン・ポロック展」先生のための鑑賞講座	開催日	2012年2月19日
場所	東京国立近代美術館講堂	聴講者数	110人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：中林和雄(東京国立近代美術館企画課長) 講師：山田和弘(千代田区立お茶の水小学校教諭)，榮美樹(港区立高輪台小学校教諭)，河瀬昇(東京都立向丘高等学校教諭)		

(フィルムセンター)

セミナー・シンポジウム名	ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント「映画はどこで、どのように保存されているのか - 日/米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告 -」	開催日	2011年11月5日
場所	東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール	聴講者数	107人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：パトリック・ロックニー(国会図書館映画放送録音物部国立視聴覚保管センター「パッカード・キャンパス」ディレクター)		

イ 京都国立近代美術館

セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム「モホイ＝ナジ再考」	開催日	2011年7月23日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数	90人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師・パネリスト：パシュート・クリスティナ氏(エトヴェシュ・ローランド大学名誉教授(ブダペスト))，オリヴァー・ポーター氏(マニトバ大学准教授(カナダ))，井口壽乃氏(埼玉大学教授)，森下明彦氏(メディア・アーティスト/美術愛好家) 進行・モデレーター：池田祐子(当館主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	記念シンポジウム「伝統を考える」	開催日	2011年10月22日
場所	京都国立近代美術館 講堂	聴講者数	65人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師・パネリスト：岩城見一(前京都国立近代美術館長)，佐々木正直(文化庁伝統文化課主任調査官)，北村武資(重要無形文化財保持者 羅経錦)，森口邦彦(重要無形文化財保持者 友禅)，室瀬和美(重要無形文化財保持者 蒔絵)，松原龍一(当館主任研究員)		

ウ 国立西洋美術館

セミナー・シンポジウム名	「全国美術館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー III：美術情報・資料の活用 - 展覧会カタログからWebまで」	開催日	2011年12月16日(金) - 17日(土)
場所	奈良国立博物館講堂	聴講者数	約20人

講師・パネリスト等の氏名(職名)	講師：水谷長志（東京国立近代美術館主任研究員），住広昭子（東京国立博物館学芸企画部博物館情報課図書・映像サービス室），中村節子（石橋財団ブリヂストン美術館司書），室屋泰三（国立新美術館主任研究員），川口雅子（国立西洋美術館主任研究員）		
セミナー・シンポジウム名	国際シンポジウム 「20世紀建築と世界遺産—シリアル・ノミネーションにおける OUV の議論をめぐって」	開催日	2012年2月18日
場所	国立西洋美術館講堂	聴講者数	約120人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	パネリスト等： Gustavo Araoz（イコモス会長） Alfredo Conti（イコモスアルゼンチン副会長） Kristal Buckley（イコモスオーストラリア副会長） Jukka Jokilehto（イクロムイタリア） Tamas Fejerdy（2002年世界遺産委員会議長） Susan Denyer（世界遺産アドバイザー，イコモス） Dinu Bumbaru（イコモス20世紀委員会） Sheridan Burke（イコモス20世紀委員会委員長） Natalia Dushkina（イコモス20世紀委員会副委員長） Gunny Harboe（イコモス20世紀委員会） Riitta Salastie（イコモス20世紀委員会） Olivier Poisson（フランス文化省） Michel Richard（ル・コルビュジエ財団） Bénédicte Gandini（ル・コルビュジエ財団） 稲葉 信子（日本イコモス委員会） 西和彦（文化庁） 西村幸夫（日本イコモス国内委員会会長） 山名善之（日本イコモス国内委員会） 鈴木博之（ドコモモジャパン会長）		

エ 国立国際美術館

セミナー・シンポジウム名	大阪市立近代美術館整備に向けたシンポジウム 「中之島から大阪が変わる—アートによるひとづくり，まちづくり—」	開催日	2011年10月4日
場所	国立国際美術館地下1階講堂	聴講者数	—
講師・パネリスト等の氏名(職名)	基調講演講師：佐々木雅幸（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授） パネルディスカッション パネリスト：小浦久子（大阪大学准教授），佐々木雅幸（大阪市立大学大学院創造都市研究科教授），山梨俊夫（国立国際美術館館長），吉村哲（ダイビル株式会社取締役常務執行役員）		
セミナー・シンポジウム名	メディアアートと世界制作	開催日	2011年11月13日
場所	国立国際美術館地下1階講堂	聴講者数	120人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	エキソニモ（アーティスト，出展作家），クワクポリョウタ（アーティスト，出展作家），畠中実（NTT インターコミュニケーション・センター[ICC]学芸員），中井康之（当館主任研究員）		

オ 国立新美術館

セミナー・シンポジウム名	美術史学会 美術館博物館委員会 東西合同シンポジウム 「WHAT'S NEW?—リニューアルあれこれ—」	開催日	2011年5月7日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	121人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	浅湊毅（京都国立博物館 主任研究員），橋爪節也（大阪大学総合学術博物館 教授），松原茂（根津美術館 学芸部長），石田佳也（サントリー美術館 学芸部長），内山淳一（仙		

氏名(職名)	台北市博物館 学芸室長), 平井章一(国立新美術館 主任研究員), 泉武夫(東北大学 教授)		
セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「美術館建設中。東京ーワルシャワ」	開催日	2011年11月14日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	50人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	セバスチャン・チホツキ(ワルシャワ近代美術館 プログラムディレクター), 平井章一(国立新美術館 主任研究員), アグニェシカ・ポルスカ(作家), ヤン・スマガ(作家), 加須屋明子(京都市立芸術大学 准教授), ヨアンナ・ライコフスカ(作家), ズビグニェフ・リベラ(作家)		
セミナー・シンポジウム名	シンポジウム「“展覧会カタログ”を斬る」	開催日	2011年12月4日
場所	国立新美術館 講堂	聴講者数	74人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	今橋映子(東京大学大学院 教授), 中島理壽(美術ドキュメンタリスト), 近藤一弥(グラフィック・デザイナー, 東北芸術工科大学教授), 平井章一(国立新美術館 主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	国際博物館会議近現代美術館部会(CIMAM) 2011年年次総会	開催日	2011年11月14日~16日
場所	リュブリャナ近代美術館(スロヴェニア), ザグレブ現代美術館(クロアチア)	聴講者数	一人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	参加者: 南雄介(国立新美術館 学芸課長), 長屋光枝(国立新美術館 主任研究員)		
セミナー・シンポジウム名	「パイロット・プログラム2011 美術館の資料保存と再利用」	開催日	2011年9月6日~9日
場所	台北市立美術館(台湾)	聴講者数	一人
講師・パネリスト等の氏名(職名)	Michele Elligott(ニューヨーク近代美術館 アーキビスト), 林田英樹(国立新美術館長), 堀川理沙(福岡アジア美術館 学芸員), ジョン・ユージン(アルコ・アーカイブ アーキビスト)		

② 我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

本館では, 「Lee Ufan」(グッゲンハイム美術館, 3点), 「Yayoi Kusama」(レイナ・ソフィア, ポンピドゥー・センター, テート・モダン, ホイットニー美術館, 3点), 「田中敦子展」(アイコン・ギャラリー, カステージョ現代美術センター, 1点) など, 日本作家の海外大規模個展に作品貸与を行った。

また, シンガポール国立美術館との間で, 長期的な協力体勢の確立と, 展覧会・学術研究・人的交流等における互恵的なプログラムの実施・促進を目的として, 「東京国立近代美術館とシンガポール国立美術館の協力に関する覚書(Memorandum of Understanding)」を平成24年2月6日付けで取り交わした。本覚書は, 事業協力の内容を具体的に規定するものではなく, 協力内容については, 今後, 両館の話し合いによって決められる。

工芸館では, ドイツ・ミュンスターで開催された「黒田辰秋展」に対し, 漆芸博物館と作品の調査研究を行い, 展覧会実施について連携し協力を行った。

平成24年4月3日から開催のイタリア・フィレンツェのピッティ宮殿内パティナ・ギャラリーでの「近代工芸の精華」展の実施に関して, 会場及び作品等の調査研究と移送, 展示, 印刷物作成等で日本側主催に並んだ文化庁とともに連携し協力した。

フィルムセンターでは, チネテカ・デル・フリウリ(イタリア・ジェモーナ・デル・フリウリ, FIAF加盟機関)と共同主催した第30回ポルデノーネ無声映画祭「アニメの誕生

「日本アニメーション映画の先駆者たち」において、無声映画からトーキー登場までの時代における日本の初期アニメーション映画を、新規に英語字幕を作成した 35 mmニュープリント 12 本を含む、全 2 番組、25 作品による構成により紹介した。特に、この時代を代表する村田安司、大藤信郎及びアマチュア映画においてアニメーション映画の製作を行っていた荻野茂二の 3 人の監督に焦点を当て、日本の初期アニメーション映画の豊かな創造性と個性に富む作家性を顕彰する番組となった。フィルムセンターから提供した情報を基に、2 名の外国人日本映画研究者が映画祭カタログに詳細な作品解説を執筆することにより、日本のアニメーション映画史に関心を持つ海外の研究者やアーキビストにとって貴重な文献を提供することができた。

フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーン・センター（アメリカ・ニューヨーク）、ナント三大陸映画祭（フランス・ナント）、シネマテーク・フランセーズ（フランス・パリ、FIAF 加盟機関）と共同主催した「『日活 100 年』海外巡回上映会」では、平成 24 年に創立百周年を迎える日本最古の“メジャー”映画会社・日活の長年に亘る業績を、日活株式会社、国際交流基金の協力を得て、最大 39 作品（フィルムセンターからの提供は最大 16 作品）に及ぶ番組によって回顧した。昨年度デジタル復元を施した伊藤大輔監督『長恨』（1926 年）、『忠次旅日記』（1927 年）は海外初上映となり、本年度日活株式会社と共同でデジタル復元を行った川島雄三監督『幕末太陽傳』（1957 年）は、リンカーン・センターでの上映がワールド・プレミア上映となった。また、平成 21 年に映画フィルムとして初の重要文化財指定となった『紅葉狩』（1899 年）のデジタル復元版、近年収集した蔵原惟繕監督作品や西河克己監督『伊豆の踊子』（1963 年）の英語字幕付プリント等、フィルムセンターにおける近年の収集・保存・復元活動の成果を通じて、日本映画の豊かな遺産を顕彰する回顧展を充実させることに貢献することができた。

シネマテーク・ケベコワーズ主催の ATG 映画ポスター展に対して日本アート・シアター・ギルド（ATG）制作の映画ポスター 39 点を貸与し、戦後日本の優れた映画ポスター文化を紹介した。

イ 京都国立近代美術館

平成 22 年 3 月 27 日から平成 23 年 6 月 5 日まで、イタリア・モデナのジュゼッペ・パニーニ写真美術館にて当館が所蔵する写真家・野島康三の作品 112 点で構成した展覧会を開催したが、これは前年度に当館で開催した「ローマ追想—19 世紀写真と旅」の交換プログラムとして企画されたものであり、海外の美術館との連携・協力が実現された。

学芸課長・山野英嗣が日豪カルチュラル・ビジターズ・プログラムによって渡豪した。メルボルン大学・アジアセンターやオーストラリアン・センター・フォア・ザ・ムーヴィング・イメージ、パワーハウス・ミュージアムなどの館員と面会し、将来的な展覧会構想について話し合い、今後の連携・協力を模索した。また、シドニーのニュー・サウス・ウェールズ美術館で開催され、京都国立近代美術館寄託作品が出品された「神坂雪佳展」の会場を視察するとともに、同館収蔵庫で竹久夢二などの所蔵作品を調査し、今後の展覧会開催の可能性について、国際交流基金やオーストラリア大使館にも報告した。

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア 東京国立近代美術館

(フィルムセンター)

- ・ アメリカ議会図書館、香港電影資料館（以上、FIAF 加盟機関）、神戸映画資料館、記録映画保存センター、独立プロ名画保存会、マツダ映画社、日本動画協会等より、映画フィルムに関する新たな所在情報を得た。

- ・大阪歴史博物館が所蔵する初期日本映画の一つ『鳩の浮巢』（1900年）について、現物確認を行った。
- ・アメリカ議会図書館、チネテカ・デル・フリウリ（以上、FIAF加盟機関）、京都府京都文化博物館、広島市映像文化ライブラリー、日本動画協会、記録映画保存センター、大手映画製作各社、現像所各社等との間で、映画フィルムの保存・復元に関する調査や情報交換を行った。また、国立歴史民俗博物館、「映画の復元と保存に関するワークショップ」、映画保存協会、神奈川県視聴覚教育連盟等が主催するシンポジウムやワークショップに参加することで、参加者との情報交換に努めた。
- ・1961年にシネマテーク・フランセーズに寄贈された、溝口健二監督4作品にかかわる映画美術監督・水谷浩の美術資料152点について、当館事業等への活用を前提にしたデジタル画像の寄贈を受けた。

イ 国立西洋美術館

- ・「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会」による文化財レスキュー事業の一環として、石巻文化センター（宮城県）および陸前高田市立博物館（岩手県）の救援・作品保存処置活動のため、研究職員延べ14名・52日間の派遣を行った。
- ・共同研究：共立女子大学と、「LEDランプの美術館照明としての適正—展示照明による油彩画の色の『見え』の評価—」
- ・共同研究：歴史民俗博物館と、「江戸から明治初期にかけての絵画材料および製作・流通に関する調査研究」
- ・東京文化財研究所に東日本大震災レスキュー資料および収蔵庫環境のカビ調査、寄託作品に対するカビ調査依頼
- ・東京文化財研究所および国立美術館との「海外美術品の借用における放射線計測問題についての打ち合わせ会」
- ・展示室でのLED使用状況について、歴史民俗博物館による視察受け入れと説明
- ・アルメニア歴史博物館保存修復室長・Elena Atoyants 女史による保存修復関係施設の見学受け入れ（東京文化財研究所・文化遺産国際協力センターからの要請による）

(4) 所蔵作品の貸与等

① 作品の貸与

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館(本館)	60	300	191	474
東京国立近代美術館(工芸館)	21	190	36	64
京都国立近代美術館	52	379	98	176
国立西洋美術館	13	32	58	94
国立国際美術館	28	676	14	21
計	174	1,577	397	829

東京国立近代美術館本館では、東日本大震災で被災した館への支援の一環として、往復の作品輸送費（保険料含む）を負担の上、「特別協力」名義で貸与を行った（岩手県立美術館、萬鉄五郎「裸体美人」他4点）。

また、「Lee Ufan」（グッゲンハイム美術館、3点）、「Yayoi Kusama」（ポンピドーセンター他、3点）、「田中敦子展」（アイコン・ギャラリー他、1点）など、日本作家の海外大規模個展に貸与を行った。また、「生誕100年記念 瑛九展」（宮城県立美術館他、17点）、「岸田劉生展」（大阪市立美術館、17点）、「生誕100年 藤牧義夫展」

(群馬県立近代美術館他, 5点) など, 国内においても, 長年の調査研究に基づく大規模個展に積極的に貸与を行った。

工芸館では, 所蔵作品名品展を開催した那須野が原博物館と文化庁の「日本のわざと美」展への大量貸与のほか, 東京藝術大学大学美術館やサントリー美術館, 千葉市美術館等の企画展などへ貸与を行った。また, 文化庁による日中韓サミットを記念した迎賓館展示や, ドイツ・ミュンスターの漆芸博物館開催「黒田辰秋」展といった国際的な事業への協力を行った。

京都国立近代美術館では, 広島県のウッドワン美術館に同館開館 15 周年を記念して開催された「近代日本画の粋」展に日本画・洋画計 62 点を貸与し, 同展は「京都国立近代美術館所蔵品展」として位置づけられた。さらに, 東京のパナソニック汐留ミュージアムで開催された「ウィーン工房」展に, 当館の「上野伊三郎・リチコレクション」から 68 点を貸与した。この他, モンドリアンの作品をローマで開催された展覧会に貸与するなど, 国内外の美術館に対して協力をすすめている。

国立西洋美術館では, 作品の貸出は平成 22 年度に比べ 2 件・1 点増加した。新潟県立近代美術館「美の軌跡」展に絵画・版画合計 9 点を貸与したほか, 「セガンティーニ展」(佐川美術館, 静岡市美術館), 「モーリス・ドニ展」(山梨県立美術館), 「カミーユ・ピサロと印象派」(宇都宮美術館) などに主要絵画作品の貸出を行った。

国立国際美術館では, 「The Steins Collect: Matisse, Picasso, and the Parisian Avant-Garde」展(サンフランシスコ近代美術館(アメリカ)), 「LEE UFAN」展(ソロモン・R・グッゲンハイム美術館(アメリカ)), 「田中敦子—アート・オブ・コネクティング Atsuko Tanaka: The Art of Connecting」展(アイコンギャラリー(イギリス), カステージョ現代美術センター(スペイン), 東京都現代美術館), 「セザンヌとパリ Cezanne et Paris」展(リュクサンブール美術館(フランス)) などからの貸与依頼に対し, 積極的に貸し出しを行った。

② 映画フィルム等の貸与

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
映画フィルム	80	168	92	267	39	62

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関連資料	7	209	45	787

映画フィルムの貸与については, 海外と国内への貸与, あるいは共同主催事業による提供と通常の貸与とに分けられる。海外への貸与のうち, 共同主催事業では, チネテカ・デル・フリウリ(イタリア, FIAF 加盟機関) との間で開催した第 30 回ポルデノーネ無声映画祭「アニメの誕生—日本アニメーション映画の先駆者たち」に対し日本アニメーション映画 25 本, シネマテーク・フランセーズ(フランス, FIAF 加盟機関) など 3 会場との間で開催した「『日活 100 年』海外巡回上映会」に対し日本劇映画延べ 21 本, イェール大学東アジア研究センターとの間で開催した「刀と銀幕—日本の時代劇映画 1915~1960」に対し日本劇映画 12 本を提供した。共催事業の成果が通常の貸与にも反映し, 国立ジョルジュ・ポンピドゥ芸術文化センター(フランス, FIAF 加盟機関) に対し日本アニメーション映画 6 本, トリノ国立映画博物館(イタリア, FIAF 加盟機関) に対し日本劇映画の日活作品 7 本

の貸与を行った。また、香港国際映画祭が行った蔵原惟繕監督特集に際し、平成 20 年度に収集した英語字幕付プリント 6 本を貸与した。

国内への貸与のうち、共同主催事業については、昨年度に引き続き京都国立近代美術館との間で開催した「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」には、全 5 回の上映会に対し『信濃風土記より 小林一茶』（1941 年）等日本映画 34 本、『魂を失へる男』（1936 年）等外国映画 24 本を、国立国際美術館との間で開催した「第 3 回中之島映像劇場」には『御詔治郎吉格子』（1931 年）と『朝から夜中まで』（1921 年）を提供し、関西における所蔵フィルムの上映拠点として、より堅固な土台を築くことができた。また、一般社団法人コミュニティシネマセンターとの間で行っている巡回上映事業では、「喜劇映画の異端児—渋谷実監督特集」をスタートさせ、広島市映像文化ライブラリーを含む全 3 会場に日本劇映画 3 本のフィルムを提供した。通常の貸与では、山形国際ドキュメンタリー映画祭の複数の特集上映に対し 5 本、カナザワ映画祭に対し外国映画 11 本を貸与したことが特筆される。また、従来通り、福岡市総合図書館（FIAF 加盟機関）、京都府京都文化博物館、川崎市市民ミュージアム、山口情報芸術センター等のシネマテーク、並びに神保町シアター、新文芸坐、ラピュタ阿佐ヶ谷、銀座シネパトス、シネ・ヌーヴォ等の名画座における特集上映に対しては、番組において欠くことのできない作品について、プリントの貸与を行った。

特別映写観覧については、大学等教育機関、映画関連団体、映画及びテレビ番組製作会社、映画・映像に係る非営利法人等における研究、研修、調査等に寄与した。

複製利用については、著作権者による運用、美術館等の収集作品や展示作品の充実、映像作品や番組における資料としての映像提供等に貢献した。

映画関連資料については、本年度は 7 件の貸与が行われた。国内では、フィルムセンター主催展「映画の中の日本文学」をベースに企画された北九州市立文学館の展覧会のためポスターやシナリオ等 140 点が貸与されたほか、世田谷文学館・世田谷美術館共催の展覧会「都市から郊外へ—1930 年代の東京」のため戦前期の映画ポスターなど 18 点が貸与されたことが特筆される。ほかにも長崎歴史文化博物館、憲政記念館、早稲田大学演劇博物館、「半世紀を映画から振り返る 山田洋次監督 50 周年展」といった多彩な展示に対して資料貸与を行っている。また海外では、カナダのシネマテーク・ケベコワーズに日本アート・シアター・ギルド（ATG）制作のポスター 39 点が貸与され、FIAF 会員同士の交流のもとに、日本の映画ポスター文化の豊かさを紹介することができた。

（5）美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

① 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

6 年目となる平成 23 年度「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、より多くの方々と研修成果を共有するため、従来冊子として発行してきた研修記録を、ウェブサイトで公開した。

また、本研修において平成 23 年度「教員免許状更新講習」を実施した。

- ・参加人数：101 名（小中学校教諭 77 名、指導主事 6 名、学芸員 18 名）
- ・会 期：8 月 1 日、2 日（2 日間）
- ・会 場：国立西洋美術館（8 月 1 日）、国立新美術館（8 月 2 日）
- ・教員免許状更新講習：受講者 22 名（全員に履修証明書を授与）

東京国立近代美術館及び国立西洋美術館では、東京都図画工作研究会、東京都現代美術館（ギャラリートーク実践（10 月 7 日、10 月 14 日、於いて国立西洋美術館）、鑑賞授業（10 月 11 日 於いて荒川区立尾久宮前小学校、10 月 20 日 於いて目黒区立駒場小学校）、及び東京都中学校美術教育研究会との共催の教員研修（8 月 26 日、於いて国立西洋美術館及び足立区立青井中学校）を実施した。

京都国立近代美術館では、国立美術館法人の「指導者研修」の成果を取りこんだ事業を、京都市教育委員会と連携して平成24年8月に開催するべく、その準備にとりかかった。

国立新美術館では、会場として館施設を提供し、事前準備から運営まで本部事務局と連携して指導者研修の実施に協力した。

② 先駆的・実験的な教材やプログラムの開発

ア 国立美術館

鑑賞教材「アートカード」を各館から学校へ貸し出しを行ったほか、教員の研修などの機会をとらえて積極的に紹介した。

イ 東京国立近代美術館

本館では、小学校と美術館の連携による「表現+鑑賞」の連続授業（ポロック展）は、平成23年度より完全実施された新学習指導要領にあわせた先駆的な試みとして、「先生のための鑑賞講座」で報告した。また、独創的/先駆的との評価の高い当館解説ボランティアの募集・養成から日々の活動に至るまでを公開する刊行物である、『ガイドスタッフ活動の記録』を発刊した。

工芸館では、「所蔵作品展 しましま工芸館」開催にあわせ、中学生以下を対象とする鑑賞補助ツールをセルフガイドの形式で作成した。内容は作品の部分写真と「見出し」「鑑賞のポイント」「素材技法等の情報」の3種のテキストを掲載したが、テキストは利用者の成長段階に応じて3段階（小学校低学年以下、高学年以上、中学生以上）に書き分けた。また、教職員及び付添いの大人を対象にセルフガイドの内容を解説するとともに、より詳細な素材技法情報、工芸史、作家略歴や縞の歴史的発生についての情報を掲載し、指導案とするとともに、大人自身にとってもセルフガイドとして活用できるよう構成した。

ウ 京都国立近代美術館

引き続き、京都市内の小学校と連携して「鑑賞教育」をすすめた。平成23年度は、京都市教育委員会と連携して、平成24年8月に開催される国立美術館の「指導者研修」の成果を取り込んだ事業を展開するためのプログラム開発の準備を行った。

エ 国立西洋美術館

人物画における持物に焦点をあてた既存の「びじゅつーる」の改善を行った。

(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名		インターンシップ受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	本館	6	—
	工芸館	7	4
	フィルムセンター	1	13
京都国立近代美術館		1	—
国立西洋美術館		4	—
国立国際美術館		8	—
国立新美術館		8	—
計		35	17

(7) 全国的美術館等との連携・人的ネットワークの構築

① 企画展・上映会等の共同主催と共同研究

館名	共同主催件数	共同研究件数
----	--------	--------

東京国立近代美術館(本館・工芸館)	4	6
東京国立近代美術館(フィルムセンター)	5	4
京都国立近代美術館	4	3
国立西洋美術館	3	6
国立国際美術館	3	3
国立新美術館	2	4
計	21	26

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

「岡本太郎展」では川崎市岡本太郎美術館、「イケムラレイコ展」では三重県立美術館、「ヴァレリオ・オルジャティ展」ではスイス連邦工科大学チューリッヒ校 建築理論・建築史研究所とそれぞれ共同研究を行うとともに、展覧会を共催した。

また、「パウル・クレー展」ではパウル・クレー・センター、京都国立近代美術館、「ジャクソン・ポロック展」では愛知県美術館とそれぞれ共同研究を行った。

(共同主催：①川崎市岡本太郎美術館，②三重県立美術館，③スイス連邦工科大学チューリッヒ校 建築理論・建築史研究所)

(共同研究：①川崎市岡本太郎美術館，②クレー財団，京都国立近代美術館，③三重県立美術館，④スイス連邦工科大学チューリッヒ校 建築理論・建築史研究所，⑤愛知県美術館)

(工芸館)

「増田三男 清爽の彫金——そして、富本憲吉」展において、早稲田大学會津八一記念博物館と共同で展覧会を企画開催した。また、早稲田大学會津八一博物館でも当館との共催で、ほぼ同時期に同名の展覧会を開催した。

(フィルムセンター)

- ・「EU フィルムデイズ 2011」：駐日欧州連合代表部及び EU 加盟国各大使館・文化機関と協議し、近年の EU 加盟各国の映画動向や作品の評価を踏まえながら作品選定を行った。
- ・「第 33 回 PFF ぴあフィルムフェスティバル」：PFF パートナーズと協議し、招待作品部門の作品選定を行った。
- ・「香川京子と巨匠たち」（共催：公益財団法人ユニジャパン東京国際映画祭事務局）：東京国際映画祭と協議しながら作品選定を行った。
- ・「日本の文化・記録映画選 文化庁「工芸技術記録映画」の特集」：文化庁と協議しながら刊行物の作成，広報などを行った。
- ・「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」：京都国立近代美術館と協議しながら作品の選定，提供を行った。
- ・「第 3 回中之島映像劇場」：国立国際美術館と協議しながら作品の選定，提供を行った。
- ・「映画パンフレットの世界」：映画関連の印刷物に対する特別な知識と経験を有する専門店の協力を得て開催された。
- ・「映画女優 香川京子」：香川氏の経歴や出演作品にかかわる資料の出品について，市川市文学プラザ・川崎市市民ミュージアム・世田谷文学館・森永製菓株式会社などの協力を得て選定を行った。

- ・「日本の映画ポスター芸術」：印刷博物館学芸員寺本美奈子氏の企画協力を得ながら、同博物館・国立国際美術館・川崎市市民ミュージアムや個人収集家などの出品協力を得て開催した。

(イ) 京都国立近代美術館

東京国立近代美術館フィルムセンターと共催し、立命館大学映像学部の企画協力を得て、「NFC 所蔵作品選集 MoMAK Films@home」を継続して開催した。

(ウ) 国立西洋美術館

「大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体、完全なる美」については大英博物館、神戸市立博物館と、「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」展ではプラド美術館と、「ユベール・ロベール 時間の庭」展ではヴァランス美術館、福岡市美術館、静岡県立美術館との共同研究により展覧会および講演会を開催した。

また、「平成 23 年度文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」より、エレヌ・スタニスラス＝ムーラン氏（国家文化財首席学芸員・ヴァランス市美術館館長）の受け入れを行い、ヴァランス市美術館コレクションの概要とその美術史的・文化史的背景について講演を開催し、18 世紀美術に関して、国内美術館で意見交換の場を設け、国内外での情報共有をはかった。18 世紀フランス美術の新しい側面を日本に広く紹介し、今日的意義を探るとともに、特色ある作品蒐集を続けてきたフランスの公立美術館の理念・活動を理解する良い機会ともなり、日本の 18 世紀フランス研究、およびミュージオロジーの進展に資することができた。

(エ) 国立国際美術館

「中之島コレクションズ 大阪市立近代美術館&国立国際美術館」では、ギャラリートークなどを通じて、大阪市ゆとりとみどり振興局（大阪市立近代美術館建設準備室）と相互のコレクションについての理解を深めた。

「世界制作の方法」では、メディアアートに関する調査研究について、NTT コミュニケーション・センター（ICC）との情報交換を実施した。

「草間彌生 永遠の永遠の永遠」では、草間彌生の近作新作についての共同研究を、埼玉県立近代美術館、松本市美術館とともに行った。

(オ) 国立新美術館

「シュルレアリスム展ーパリ、ポンピドゥセンター所蔵作品による」ではポンピドゥセンターと、「モダン・アート、アメリカン ー珠玉のフィリップス・コレクションー」展ではフィリップス・コレクションと、それぞれ共同研究および共同主催を行った。「ワシントン・ナショナル・ギャラリー展 印象派・ポスト印象派 奇跡のコレクション」では京都市美術館と共同研究を行った。また、「セザンヌーパリとプロヴァンス」展ではプティ・パレ美術館と共同研究を行った。

② キュレーター研修

館 名	受入人数
東京国立近代美術館(本館・工芸館)	3
京都国立近代美術館	1
国立西洋美術館	0
国立国際美術館	1
国立新美術館	0
計	5

(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動

① 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) の正会員としての活動

- ・南アフリカ・プレトリアで4月6日から4月19日まで開催された第67回国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会議に、主幹が出席し、シンポジウム等で発表を行った。
- ・ユネスコ世界視聴覚文化遺産の日記念特別イベントとして「映画はどこで、どのように保存されているのかー日/米ナショナル・フィルム・アーカイブからの報告ー」を開催した。
- ・『第63回国際フィルム・アーカイブ連盟東京会議 2007 シンポジウム「短命映画規格の保存学的研究」の記録』を刊行した。

② 日本映画情報システムの運営

文化庁が実施する「日本映画情報システム」については、文化庁主導で民間へ委託することで運営管理を行っている。当館としては平成23年度も資料提供、当館公開データベースへの接続に関する協力を行っているが、次年度以降の協力体制については慎重に検討していく。

③ 所蔵映画フィルム検索システムの拡充

「所蔵映画フィルム検索システム」については、本年度中に日本劇映画のレコード1,770件を新たに公開し、公開件数は65,517件となった。

④ 映画関係団体等との連携

- ・単独の事業としてデジタル復元を行った伊藤大輔監督による3作品、『長恨』（1926年）『忠次旅日記』（1927年）『斬人斬馬剣』（1929年）について、株式会社衛星劇場との間で、2ヶ月に亘るCSチャンネルの「伊藤大輔監督特集」での放送を実施し、映画フィルムの保存・復元活動の成果を、初めてテレビを通じて広範な視聴者に周知することができた。
- ・国内団体との連携は、映画フィルムの貸与を通じて、福岡市総合図書館 (FIAF 加盟機関)、京都府京都文化博物館、川崎市市民ミュージアム、山口情報芸術センター、広島市映像文化ライブラリー、神戸映画資料館、東京フィルメックス実行委員会、映画保存協会等へ協力を行った。また、特別映写観覧を通じて、早稲田大学演劇博物館、国際日本文化研究センター、東京大学大学院、京都大学大学院、日本大学芸術学部、明治学院大学、総合研究大学院大学等教育研究機関、映画美学校、映画保存協会、日本映画映像文化振興センター等の映画団体、日本映画撮影監督協会等へ協力を行った。海外団体との連携では、チネテカ・デル・フリウリ (FIAF 加盟機関)、ナント三大陸映画祭、イエール大学東アジア研究センターとの共催事業において、フィルムセンター研究員が上映会に参加し、ディスカッションへの参加や質疑応答を行った。また、オーストラリア国立映画音響アーカイブ、韓国映像資料院、英国映画協会、ノルウェー映画協会、ミュンヘン映画博物館 (ドイツ)、ハーバード・フィルム・アーカイブ (アメリカ) (以上 FIAF 加盟機関)、パリ日本文化会館、ジャパン・ソサエティ (アメリカ)、テリュライド映画祭 (アメリカ)、ジパング・フェスト映画祭 (イギリス) 等へ、映画フィルムの貸与を通じて協力を行った。
- ・早稲田大学演劇博物館、立命館大学映像学部、国立歴史民俗博物館、国立民族学博物館、神奈川県視聴覚教育連盟、「映画の保存と復元に関するワークショップ」、映画保存協会等が主催するシンポジウム、講演会等に研究員が参加し、研究成果の発表やディスカッションを通じて協力した。
- ・映画資料については、国内では早稲田大学演劇博物館、世田谷文学館等、海外ではシネマテーク・ケベコワーズへの資料貸与を通じて協力を行った。また大量の映画ポスター寄贈

(ぴあ株式会社) に際して、重複資料の寄贈が生じないよう鎌倉市川喜多映画記念館・神戸映画資料館との調整を行って、寄贈品を適正に分配した。

また、日本映画・テレビ美術監督協会との共同事業「日本映画美術遺産プロジェクト」を継続し、今年度は美術監督水谷浩の諸資料の詳細調査とデジタル化を実施した。

⑤ **フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討**

独立の可能性を探る内部打合せを実施した。

平成 24 年 3 月 3 日 (土)

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務の効率化のための取り組み

(1) 各美術館の共通的な事務の一元化

引き続き、事務局長のトップマネジメントの下、各館の事務組織が有機的に連携し、効果的・効率的な業務を遂行するとともに、各館で行っていた出版物のうち年報について法人本部において一元的に実施した。また、法人内で採用しているVPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システム、特にテレビ会議システムについては、定期的な会議等に積極的に活用している。

(2) 使用資源の削減

① 省エネルギー（5年計画中に5%の削減）

●使用量，使用料金の削減割合（対前年度比）

館名	使用量			使用料金		
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計
東京国立近代美術館本館	86.0%	105.7%	93.3%	89.6%	118.7%	99.1%
東京国立近代美術館工芸館	92.2%	—	92.2%	88.2%	—	88.2%
東京国立近代美術館フィルムセンター	100.9%	—	100.9%	89.6%	—	89.6%
東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館	111.3%	—	111.3%	253.6%	—	253.6%
京都国立近代美術館	85.0%	91.4%	87.4%	91.2%	93.1%	91.8%
国立西洋美術館	87.9%	100.1%	92.2%	99.8%	115.5%	105.4%
国立国際美術館	87.5%	—	87.5%	101.3%	—	101.3%
国立新美術館	85.7%	103.9%	90.8%	98.2%	121.2%	104.6%
計	93.0%	100.7%	92.3%	104.0%	117.4%	107.4%

※東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター・フィルムセンター相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館は、平成23年度より増築棟の使用を開始したことにより、電気料金が平成22年度と比較して大幅に増加している。

※使用量の合計は、電気は一般電気事業者からの昼間買電を9.97GJ/千kWh、夜間買電を9.28GJ/千kWh、特定規模電気事業者からの買電を9.76GJ/千kWh、都市ガスを45GJ/千kWhに換算し得た熱量に0.0258k1/GJを乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値（原単位）を基礎とする（エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく。）。

●特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては、業務の特殊性から、展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画におけるの設

定温度の適格化（夏季28℃，冬季20℃），夏季における服装の軽装化，不使用設備機器類のこまめな停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また，エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき，エネルギー管理統括者の元で，省エネルギー計画策定等を行い，各館において可能な箇所から，施設設備の改修を行い，省エネルギー効果を高めた。特に，国立新美術館においては，引き続き，BEMS（Building and Energy Management System）により，詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い，その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し，省エネルギー対策に生かすなどの取り組みを行っている。

本年度は，夏期においては，「夏期の電力需要対策について」（平成23年5月13日電力需給緊急対策本部）及び電気事業法第27条に基づく電気使用制限に係る通知書（平成23年6月1日経済産業大臣），冬期においては，「今冬の電力需給対策について」（平成23年11月1日電力需給に関する検討会合）に適切に対応するために，節電対策を施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏期28℃，冬期19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏期は直射日光を遮光，冬期は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ O A機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬期のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏期休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏期休暇の完全取得，夏期における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手

本年度における使用量の主な増減理由は，夏期及び冬期の節電対策により電氣量が削減されたが，ガスを空調に使用する施設では，電氣の使用量を抑えるために送風機の風量を抑制する代わりに設定温度を上下させたことから，ガス使用量は，前年度と比較すると増加している。

東京国立近代美術館フィルムセンターで，電氣使用量が増加し，使用料金が減少しているのは，入札により，低廉な電力会社と契約したことによる。

また，国立国際美術館で，電氣使用量が減少し，使用料金が上昇しているのは，燃料調整係数が上昇したことによる。

法人全体では，エネルギー使用量を7.7%削減できたが，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館の増築棟の使用開始もあって，使用料金は7.4%増加した。東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を除くと，使用料金は2.4%の増加となっている。

② 廃棄物減量化

● 排出量，廃棄料金の削減割合（対前年度比）

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	82.8%	81.7%	82.3%	82.8%	94.3%
東京国立近代美術館工芸館	82.0%	84.1%	82.3%	82.0%	97.0%
東京国立近代美術館フィルムセンター	58.1%	73.4%	64.8%	78.9%	69.9%
京都国立近代美術館	100.9%	252.7%	137.5%	—	125.7%
国立西洋美術館	101.8%	88.7%	96.3%	97.6%	114.3%
国立国際美術館	105.6%	—	105.6%	101.0%	1291.3%
国立新美術館	94.3%	103.7%	96.2%	94.9%	103.7%
計	93.3%	95.1%	93.8%	92.2%	112.4%

※京都国立近代美術館は，一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しているため，廃棄料金が算出できない。

※国立国際美術館の産業廃棄物は，測定単位が他館と異なるため，合計から除外している。

※東京国立近代美術館フィルムセンターには，東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館を含む。

● 特記事項（増減の理由等）

国立美術館においては，開館日数や来館者数の増減による影響など，業務の性質上，廃棄物の計画的な削減が難しいものの，引き続き，事務・研究部門における電子メール，グループウェアの活用による通知文書の発信やサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化，両面印刷の促進等による用紙の節減に努めるとともに，古紙の分別回収による再資源化を進めることにより，廃棄物の削減を図った。

廃棄物の排出量及び廃棄料金の増加は，来館者数の増加（国立西洋美術館），展覧会に使用した部材の廃棄に伴う増加（京都国立近代美術館，国立国際美術館及び国立新美術館）及びOA機器の廃棄（国立国際美術館）による一時的な要因によるものである。

③ リサイクルの推進

前年度に引き続き、古紙含有率100%のコピー用紙の利用、廃棄物の分別、O A機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行い、リサイクルの推進に努めた。

(3) 美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数 (平成23年度)	貸出日数 (平成22年度)
東京国立近代美術館本館（講堂）	25日	26日
東近美フィルムセンター（小ホール）	6日	15日
東近美フィルムセンター（会議室）	7日	10日
京都国立近代美術館（講堂）	5日	8日
京都国立近代美術館（会議室）	9日	5日
国立西洋美術館（講堂）	14日	19日
国立西洋美術館（会議室）	11日	11日
国立国際美術館（講堂）	15日	65日
国立国際美術館（会議室）	62日	20日
国立新美術館（講堂）	68日	60日
国立新美術館（研修室A）	92日	81日
国立新美術館（研修室B）	67日	56日
国立新美術館（研修室C）	43日	34日
計	424日	410日

●特記事項

当該施設については、展覧会事業にあわせた講演会やシンポジウム等に使用するものであるが、事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。

(4) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリ運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、(シ) 電話交換業務、(ス) 展覧会アンケート実施業務、(セ) 省エネルギー対策支援業務、(ソ) 展覧会情報収集業務

東京国立近代美術館本館及び工芸館の管理運営業務（展示事業の企画等を除く。以下同じ。）については、引き続き、「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り実施するとともに、平成24年度以降の契約について、民間競争入札を実施した。

また、東京国立近代美術館フィルムセンターの管理運営業務については、平成24年度以降の契約について、新たに民間競争入札を実施した。京都国立近代美術館では前年度に建物維持管理に関する業務並びに常駐警備及び出札・集札・看視等業務をそれぞれ一括して契約し、本年度から実施した。

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

(ア) 情報案内業務, (イ) 広報物等発送業務, (ウ) 交通広告等掲載, (エ) ホームページ改訂・更新業務, (オ) インターネット検索サイト, (カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務, (キ) 講堂音響設備オペレーティング業務

(5) 競争入札の推進

一般競争入札の実績

ア 契約件数及び契約金額(少額随契を除く) 225件, 9,696,769,617円

イ 契約種別毎の年間契約数

① 競争契約 82件(36.4%), 1,322,123,837円(13.6%)

【内訳】

- ・一般競争入札 73件, 1,203,151,535円
- ・企画競争, 公募 9件, 118,972,302円

② 随意契約 143件(63.6%), 8,374,645,780円(86.4%)

【内訳】

- ・同一所管公益法人等 4件, 6,480,729,372円
- ・同一所管公益法人等以外の法人等 139件, 1,893,916,408円
(うち美術作品の購入に関する随意契約 95件, 1,246,735,594円)

ウ 公益調達の適正化(財計第2017号)等に即した実施状況別紙1を参照

●特記事項

本年度において、随意契約の占める割合は、件数では全体の63.6%、金額では全体の86.4%となっている。このうち、同一所管公益法人等の契約(4件, 6,480,729,372円)については、国立新美術館における土地購入及び土地借料が主なものである。また、同一所管公益法人等以外の法人等の契約(139件, 1,893,916,408円)の中には、本法人特有の業務である美術作品の購入に関する随意契約(95件, 1,246,735,594円)が含まれている。これらの特殊な事由を除く比率で比較すると、随意契約の割合は件数で全体の19.6%、金額は全体の6.7%となる。

本年度において新規に発生した契約案件に関しては、少額随契又は真にやむを得ない場合を除き、全て一般競争契約や公募、企画競争等の競争性のある契約を行っている。

2 事業評価及び職員の研修等

① 外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回(平成23年7月8日及び平成24年3月7日)開催し、平成22年度事業実績並びに、平成23年度事業の実施状況及び24年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回（平成23年4月14日、5月30日及び6月8日）開催し、平成22年度事業実績について説明聴取の上、審議し評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会（美術・工芸部会）を2回（平成23年6月24日及び平成24年2月24日）、評議員会（映画部会）を2回（平成23年6月30日及び平成24年2月17日）開催し、平成22年度事業実績、平成23年度事業の実施状況及び平成24年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回（平成23年7月28日）開催し、平成22年度事業実績、平成23年度年度計画及び事業実施状況について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回（平成23年9月20日）開催し、平成22年度事業報告及び平成23年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回（平成24年3月22日）開催し、平成23年度事業報告及び平成24年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を1回（平成23年9月29日）開催し、平成22年度事業実績、平成23年度事業実施状況及び平成24年度以降及び平成29年度以降の公募展事業について説明聴取の上、意見交換を行った。

3 管理情報の安全性向上

個人情報保護については、引き続き、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格に書類管理を行った。また、あわせてウィルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウィルス進入を回避する安全策を講じた。

なお、独立行政法人国立美術館保有個人情報管理規則第50条に基づき、当法人の保有個人情報の管理状況について、平成23年6月21日に監事による監査を実施した。

4 人件費の抑制、給与体系の見直し

① 人件費決算

決算額 912,127千円（対平成22年度比較 98.8%）

・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

●特記事項

退職者の後任不補充、人事交流による職員の若返り等により、前年度と比較して1.2%減少した。なお、「行政改革の重要方針」（平成17年12月24日閣議決定）による人件費の削減への取り組みについては、平成23年度は、基準年度に比べ△10.2%（純減率）を達成している。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給してきていることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与等の水準（平成22年度）」平成23年9月2日総務省公表資料を参照。）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞22年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	41.9歳	39.0歳
学歴（大学卒の割合）	51.6%	72.1%
調整手当支給率 ※1	53.7%	100%

※1 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞22年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	6,148千円	5,823千円
平均年齢	43.5歳	39.8歳
ラスパイレス指数 ※2	105.5	99.7

※2 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

＜国との比較＞22年度実績

項目	国	国立美術館
平均年齢	44.6歳	43.9歳
学歴（大学卒の割合）	96.7%	100%
調整手当支給率 ※3	90.5%	100%

※3 1級地、2級地及び4級地の支給地の割合

＜他の独立行政法人との比較＞22年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	8,590千円	8,105千円
平均年齢	45.6歳	44.9歳
ラスパイレス指数 ※4	100.4	94.8

※4 国の研究職俸給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の間報酬22年度実績

項目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	18,183千円	18,819千円
理事	15,078千円	17,069千円

③ 平成23年度の役職員の報酬・給与等について

別紙2「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 予算（単位：千円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
収入			
運営費交付金	5,972,820	5,972,820	0
展示事業等収入（注1）	1,044,313	1,149,675	105,362
寄附金収入	-	28,440	28,440
施設整備費補助金（注2）	6,062,541	7,026,250	963,709
計	13,079,674	14,177,185	1,097,511
支出			
運営事業費	7,017,133	6,962,441	54,691
管理部門経費	1,640,214	1,476,375	163,838
うち人件費（注3）	330,255	292,957	37,297
うち一般管理費（注4）	1,309,959	1,183,417	126,541
事業部門経費	5,376,919	5,486,066	△109,147
うち人件費（注5）	773,457	794,149	△20,692
うち展覧事業費（注6）	3,475,284	3,400,557	74,726
うち調査研究事業費（注4）	220,265	190,677	29,587
うち教育普及事業費（注7）	907,913	1,100,681	△192,768
施設整備費補助金（注2）	6,062,541	7,047,491	△984,950
計	13,079,674	14,009,932	△930,258
収支差引	-	167,253	167,253

主な増減理由

（注1）入場料収入等の増加による。

（注2）前年度繰越工事の完了による。

（注3）人員の削減等の効率化による。

（注4）支出経費の見直しによる。

（注5）退職手当の支出による。

（注6）運営費交付金債務の繰越による。

（注7）設備等の修繕及び更新に係る経費の増加による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

●特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では、人員の削減等の効率化により、人件費が予算に比べて16,605千円の支出減となった。一般管理費、展覧事業費、調査研究事業費及び教育普及事業費を合わせた物件費は、美術作品購入費の運営費交付金債務の繰越等により、予算に比べて38,086千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったことから、予算に比べて105,362千円の収入増となった。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事が竣工したことにより収入が963,709千円増加し、支出が984,950千円増加した。寄附金については、25件、28,440千円を獲得した。うち8,037千円を本年度の収益とし、残りの20,403千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

2 収支計画（単位：千円）

区 分	計画額	決算額	増△減額
費用の部			
経常費用	5,523,534	5,442,962	△80,572
管理部門経費	1,598,126	1,637,881	39,755
うち人件費 (注1)	330,255	425,716	95,461
うち一般管理費 (注2)	1,267,871	1,212,165	△55,706
事業部門経費	3,763,987	3,631,261	△132,726
うち人件費 (注3)	773,457	661,835	△111,622
うち展示事業費 (注4)	1,887,243	1,708,370	△178,873
うち調査研究事業費 (注4)	210,244	188,882	△21,362
うち教育普及事業費 (注4)	893,043	1,072,173	179,130
減価償却費	161,421	173,819	12,398
収益の部			
経常収益	5,523,534	5,521,508	△2,026
運営費交付金収益 (注5)	4,317,800	4,142,194	△175,606
展示事業等の収入 (注6)	1,044,313	1,149,675	105,362
資産見返運営費交付金戻入	146,324	157,051	10,727
資産見返寄附金戻入	1,261	2,925	1,664
資産見返物品受贈額戻入	13,836	12,549	△1,287
寄附金収益	-	14,876	14,876
施設費収益 (注7)	-	42,236	42,236
経常利益		78,545	
臨時損失		1,201	
当期純利益		77,343	
前中期目標期間繰越積立金取崩額		12,139	
当期総利益		89,483	

主な増減理由

(注1) 退職手当の支出による。

(注2) 施設整備費補助金による費用への計上が見込より少なかったことによる。

(注3) 人員の削減等の効率化による。

(注4) 支出経費の見直しを行ったことによる。

(注5) 固定資産の取得が見込より多かったことによる。

(注6) 入場料収入等の増加による。

(注7) 前年度からの継続工事の完了による。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

3 資金計画（単位：千円）

区分	計画額	決算額	増△減額
資金支出	13,079,674	16,896,291	3,816,617
業務活動による支出（注1）	6,922,061	8,709,864	1,787,803
投資活動による支出（注2）	6,157,613	8,186,426	2,028,813
財務活動による支出	-	-	-
資金収入	13,079,674	15,441,652	2,361,978
業務活動による収入	7,017,133	7,158,871	141,738
運営費交付金による収入	5,972,820	5,972,820	-
展示事業等による収入（注3）	1,044,313	1,186,051	141,738
投資活動による収入	6,062,541	8,282,780	2,220,239
施設整備補助金による収入（注4）	6,062,541	8,282,780	2,220,239
資金減少額		△1,454,639	
資金期首残高		2,754,838	
資金期末残高		1,300,199	

主な増減理由

（注1）国庫納付金の支出を行ったことによる。

（注2）前期繰越工事の完了による。

（注3）入場料収入等の増加による。

（注4）精算払となっているため、一部が翌期の収入となったことによる。

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

4 貸借対照表（単位：千円）

資産の部		負債及び純資産の部	
資産の部		負債の部	
I 流動資産	1,548,653	I 流動負債	1,452,932
II 固定資産		II 固定負債	967,923
1. 有形固定資産	156,302,959	負債合計	2,420,856
2. 無形固定資産	13,116		
固定資産合計	156,316,076	純資産の部	
		I 資本金	81,019,148
		II 資本剰余金	73,954,264
		III 利益剰余金	470,461
		純資産合計	155,443,873
資産の部合計	157,864,730	負債及び純資産の部合計	157,864,730

※金額は単位未満切り捨てのため、合計等が合致しない場合がある。

5 短期借入金

実績なし

6 重要な財産の処分等

実績なし

7 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

区分	金額 (円)
当期末処分利益	89,483,260
当期総利益	89,483,260

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

●特記事項

国立西洋美術館で開催した「大英博物館 古代ギリシャ展究極の身体、完全なる美」及び「プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影」が、目標入館者数 120,000 人に対して入館者数 257,400 人及び目標入館者数 200,000 人に対して入館者数 333,910 人であったこと、また、国立国際美術館で開催した「草間弥生 永遠の永遠の永遠」が、目標入館者数 40,000 人に対して入館者数 179,114 人であったことなどにより、予算額を上回る自己収入を得ることができた。

(3) 目的積立金の使用状況

中期期間初年度のため、計上されている目的積立金がないことから、実績はない。

(4) 積立金（通則法第 44 条第 1 項）の状況（単位：円）

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	1,085,355,545	914,135,462	1,999,491,007	0
前中期目標期間 繰越積立金	375,634,433	393,117,118	387,773,710	380,977,841

本年度は、「独立行政法人の経営努力認定について（平成 18 年 7 月 21 日（平成 19 年 7 月 4 日改訂）総務省行政管理局）」の（3）「独立行政法人の経営努力認定の基準」、②「経営努力認定の対象案件の利益の実績が原則として前年度実績を上回ること。」の基準を満たしていないため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）第 44 条第 3 項に定める目的積立金の申請を行わなかった。また、前中期目標期間繰越積立金の当期減少額はファイナンスリースによる減価償却費相当額並びに本年度費用化した前年度の前渡金、前払費用及び棚卸資産相当額である。

8 人事に関する計画

職種別人員の増減状況（過去 5 年分）

（単位：人）

職種※	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
定年制研究系職員	61	61	61	61	61
定年制事務系職員	70	70	70	70	70

① 「公務員の給与改定に関する取扱について（平成18年10月17日閣議決定）」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

② 人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

③ 職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・財務省会計センター主催 第49回政府関係法人会計事務職員研修（1名）
- ・総務省主催 情報公開・個人情報保護制度の運用及び文書等の管理に関する研修会（2名）
- ・第60回全国美術館会議総会（1名）
- ・全国美術館会議教育普及部会会合（1名）
- ・全国美術館会議情報・資料部会企画セミナーⅢ（1名）
- ・ボルデノーネ無声映画祭（2名）
- ・FIAF・AC会合（1名）
- ・イェール大学との共催上映事業「刀と銀幕－日本の時代劇映画1915-1960」（1名）
- ・モスクワ市立近代美術館「日本現代美術展」（1名）
- ・フィレンチェ「近代工芸展」（1名）
- ・第26回国民文化祭・京都2011（1名）
- ・国立民族学博物館主催「映像・音響資料の保存に関する研究会（1名）」
- ・東京大学主催「平成23年度東京大学副課長級研修」（1名）
- ・国立美術館「平成23年度接遇・クレーム研修」（9名）
- ・国立美術館「平成23年度メンタルヘルス研修」（9名）
- ・消防訓練（平成23年1月24日）

イ 京都国立近代美術館

- ・文部科学省「平成23年度省エネルギー対策に関する研修会」（1名）
- ・文化庁「美術品政府補償制度の説明会」（4名）
- ・文化庁、滋賀県主催「平成23年度 著作権セミナー」（1名）
- ・人事院主催「第41回近畿地区係長研修」（1名）
- ・人事院主催「第65回近畿地区中堅係員研修」（1名）
- ・人事院主催「平成23年度近畿地区メンター養成研修」（1名）
- ・人事院主催「第2回近畿地区接遇研修指導者養成コース」（1名）
- ・国立公文書館「平成23年度公文書管理研修Ⅰ（第3回）」（1名）
- ・全国美術館会議「第60回全国美術館会議総会」（1名）
- ・全国美術館会議「第26回学芸員研修会」（1名）
- ・国立美術館「平成23年度メンタルヘルス研修」（1名）
- ・国立美術館「平成23年度接遇・クレーム研修」（1名）
- ・避難誘導訓練・消火訓練（平成23年10月24日）
- ・避難誘導訓練（平成24年3月1日）

ウ 国立西洋美術館

- ・社団法人国立大学協会支部主催「平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（財務の部）」（1名）
- ・台東区「大規模建築物廃棄物管理責任者講習会」（1名）

- ・第60回全国美術館会議総会（2名）
- ・全国美術館会議 情報・資料研究部会 企画セミナー（1名）
- ・国立美術館「平成23年度接遇・クレーム研修」（3名）
- ・国立美術館「平成23年度メンタルヘルス研修」（1名）
- ・国立大学法人東京大学「平成23年度東京大学階層別研修」（1名）
- ・国立大学法人東京大学「平成23年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1名）
- ・公益財団法人文化財虫害研究所「第31回文化財防虫防菌処理実務講習会」（1名）
- ・文部科学省平成23年度学芸員等在外派遣研修生として海外へ派遣（1名）
- ・消防訓練（平成23年9月1日）

エ 国立国際美術館

- ・大阪大学主催「平成23年度大阪大学主任研修（新任）」（1名）
- ・第60回全国美術館会議総会（3名）
- ・国立美術館「平成23年度接遇・クレーム研修」（1名）
- ・大阪市主催「特定建築物の衛生管理に関する講習会」（1名）

オ 国立新美術館

- ・国立情報学研究所主催「第3回目録システム講習会（雑誌コース）」（1名）
- ・全国美術館会議「第26回学芸員研修会」（2名）
- ・人事院関東事務局主催「第90回関東地区中堅係員研修」（1名）
- ・東京大学主催「平成23年度東京大学次世代リーダー育成研修」（1名）
- ・東京大学主催「平成23年度東京大学係長級研修（初任者）」（1名）
- ・平成23年度関東・甲信越地区及び東京地区実践セミナー（人事・労務の部）（1名）
- ・国立美術館「メンタルヘルス研修」（1名）
- ・国立美術館「平成23年度接遇・クレーム研修」（13名）

9 施設整備に関する計画

東京国立近代美術館フィルムセンター相模原分館映画フィルム等収納設備工事及び京都国立近代美術館空気調和改修については、本年度に竣工した。また、国立新美術館の土地購入については、平成19年度からの継続事業として、施設整備費補助金が予算措置された。

10 関連公益法人

該当なし。